日本風景地誌全

特20
753

勅諭

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ國体ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己ヲ持シ博愛衆ニ及ボシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進ンテ公益ヲ廣メテ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩

急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スベシ是ノ如キハ獨朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スベキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

日本風景地誌

第一篇

總說（地文 地理）

（位置）風景明媚にして世界の公園と稱せられたる日本帝國は亞細亞大陸に近く太平洋の西北隅に在りて四境皆海なり其北なるをオコック海といひ西北なるを日本海といひ西なるを東海といふ是等の海を隔てゝ北は露西亞の領地西伯利亞に向ひ西は朝鮮支那の二國に隣りす南は遙かに西班牙領フイリッピン群島に對し東は渺茫たる太平洋を隔てゝ遠く北亞米利加と

◎名家紀行文

嵐山

石津灌園

丙子清明後七日府僚淞北中村君艾峯賴君柴溪立花君及び余皆な暑に在て事を辨ず是日天晴れて氣暄かに碧光盎然たり淞北乃ち風言して曰く良辰は得難く花候は失ひ易し今日放衙直ちに嵐峽に赴んん諸

君盍ぞ偕に來らざると支峰欣然余も亦魂飛ぶ獨り柴溪未だ應せず之れを叩けば乃ち云ふ今夕別約有り吾意恐ふ焉と衆乃ち謔して曰く紅樓解語の花青山天然の美人に孰若ぞと柴溪晒ふて曰く寃ある哉然りと雖も請ふ從はんと約遂に定まる既にして而して皷栎鏘然遍く退廳を報ず衆乃ち曰く可あり矣と杯を投じて而して起ち相劉す

（五大島及屬島）我國は五大島と屬島とより成る其最大にして中央に位するものを本州とし地形狹長にして恰も弓形をなせり之に次ぐは北海道九州四國及び臺灣なり其他本州と四國との間に淡路あり日本海には佐渡及び隱岐あり九州の西に壹岐あり又其西に對馬あり北海道の東北に在るを千島諸島と云ふ本州の南に連なる島嶼を豆南諸島と云ひ其南に在るものを小笠原群島といふ而して九州の西南には琉球諸島あり臺灣及び澎湖列島に連る

（面積區劃）我國の全面積は實に二万七千餘方里あり國內を大別して畿內八道とし又之れを小別して八十四國とあす之に臺灣及び琉球を合して八十六ヶ國とな

車を買ふて路に上り城北よりして行く未だ數十輛あらず而して郊坰に入る彌望万頃極目際無く而して菜花方に盛に開き麥莖稍長じ花黃葉翠區劃井分犁然として綵氈を舖く若し眸を放ては則ち群巒四圍倚伏綿亙して皆煙靄の中に在り淡粧濃抹嫣々として笑はんと欲す獨り愛岩の一峰巍然として乾隅に聳へ稜威人に逼る衆遙

○嵐山

○地文地理　三

畿內　五國　山城、大和、河內、和泉、攝津、

東海道十五國　伊賀、伊勢、志摩、尾張、三河、遠江、駿河、甲斐、伊豆、相模、武藏、安房、上總、下總、常陸、

東山道十三國　近江、美濃、飛驒、信濃、上野、下野、磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後、

北陸道七國　若狹、越前、加賀、能登、越中、越後、佐渡

山陰道八國　丹波、丹後、但馬、因幡、伯耆、出雲、石見、隱岐、

山陽道八國　播磨、美作、備前、備中、備後、安藝、周防、長門、

南海道六國　紀伊、淡路、阿波、讃岐、伊豫、土佐、

西海道十一國　筑前、筑後、豐前、豐後、肥前、肥後、日向、大隅、薩摩、壹岐、對馬、

北海道十一國　渡島、後志、石狩、天塩、北見、膽振、日高、十勝、釧

路、根室、千島、

（地勢）本邦の地勢は脊梁の如し而して其地躰を構成する主要なるものは二大山系の方向に因るものあり北より南にわたる山系は樺太山系と稱し西南より東北にわたるものは西南山系又は支那山系と稱す本州の中央部は最も高山多く水流は是等山脈の地勢により て分れオコック海と太平洋と日本海に入る

（海岸線）海岸は日本海に向ふ所は屈曲少くして岬灣に乏しく太平洋に向ふ所は之れに反し岬灣多く又島嶼に富みて航海に便あり日本海に向ふ所は秋冬の頃風波頗る暴く又夏季には本州の東北岸より北海道の海岸にわたり時々霧多くして航海に艱む所あり又臺灣近海は風濤殊に荒く航行危險なり

揖して而して去る徑漸く低昂轍或は接せず險路面して徒し夷爲而して軒す忽ち榮忽ち辱畧ぼ途と相似たり既にして而して一村落に入る右に一大祠有り花簇木叢中に隱見す乃ち太秦神社也謁せすして而して過ぐ磨折して西に出づれば則ち人影較稠く往來旁午たり衆相顧みて曰く近し矣々々々と呼嘗未だ畢らざるに車已に渡月橋に抵る矣橋下一帶の水是れを大堰川と爲す川の東涯は酒肆櫛比し綺羅塡咽殆んど立錐の地無し衆將に車を下らんとす車夫矯健にして力挽して已まず左喝右叱臂を掉ふて馳突す行人皆之れが爲めに辟易す亦今日の奬舞陽也既にして一亭を得たり虛席にして人無く吾輩の爲めに設くる者の如し衆乃ち錢を稅して而して

（海流）我國の近海には種々の名あり本州の南岸に在るものを鹿島灘遠州灘熊野浦とし北岸に在るものを櫻石見瀉能登海とす又九州には北に玄海灘あり南に七島灘あり東南に日向灘あり瀨戸內海にも播磨灘硫黃灘周防灘等ありろの內海は四時波穩かにして航行に安きを以て古へ浦安と稱せり又北方オコック海は冬に至れば氷を結ぶ海中にも陸地の川の如く常に流るゝ所ありこれ即ち海流にしてその溫なるを暖流と稱し冷かなるを寒流と稱すわが近海にも二種の海流ありて寒流は北部の海岸を洗ひ暖流は南部の岸を流る暖流は黑潮又は日本海流と稱すこの黑潮に接する地は冬時も雪を見ざることあり

（海峽）海峽の主なるものは北に宗谷津輕あり中央に浦

憩ふ焉亭西北に面し正に嵐峽と相角對し宇高く軒濶く最も眺矚に適せり時に花候微しく早く後先一雨日を隔ふ然れども爛開已に七八分に至り簇々として峽に溢れ乍にして而して白雲施曳し乍にして而して降霧堆壘す翠松其隙を攝縫して澄潭其影を蕩漾し千姿万態名狀し易からず衆意躍然掌を拍て妙と稱し急に盃を呼び饌を命ず亭婢供する所を請ふ衆問ふて曰く香魚あり乎曰く有り曰く足れり矣と命じて而して之れを羹にす香清くして味淡く尤も好下物たり酒已に酣衆皆醺然、豚を抱て唸哦し翩々として相倡和す偶ま一老人有り白髮丹顏衆を率て亭下を過ぎ呼んで曰く支峰先生々々々と指して而して過ぐ即ち草場船山也社友市村强堂亦亭後賀由良鳴門明石あり西に赤間關豐後海峽等あり就中浦賀海峽は東京灣の入口にして富津洲と觀音崎と東西より斜めに相出づその間凡二里半要害の地あるを以て堅牢なる砲臺の設けあり由良海峽は紀伊淡路の間にありその幅凡一里赤間關の海峽は本州と九州と相對しその幅五六町に過ぎず

(潮汐)潮汐とは凡六時間毎に海水の滿干をなすものをいふその原因は月の引力にあり本邦太平洋の沿岸は外洋に面するを以て潮汐の高低あれども日本海は四面殆んど陸地を以て圍まれたるにより潮汐の高低甚だ少し又九州の有明海は潮汐の滿干最も大にして佐渡の海は最も小なり

(氣候)我國は地勢南北に長き故氣候一樣ならず然れども概して北地は寒く南地は暖かあり本州四國は寒暖中和すれども琉球列島臺灣諸島及小笠原島の如きは暖熱にして年中霜雪を見ず又北海道は亟寒にして千島の如きは夏短くして年中氷雪の中に在り

(風雨)風は西風若くは西北風常に多く夏のみは南風を多しとす夏時は雨多し六月の頃特に甚し之れを梅雨といふ又例年八九月頃支那海より暴風の吹き來ることあり所謂二百十日(稻の花咲く頃)前後に當るこの時節は農家に於て大切の時とす

臺灣の東北部は冬時雨最多く西南部は極めて鮮し而して夏季に至れば西南部に屢は驟雨あり北部は却て降雨鮮なし

より出つ亦匆々手を分つ二人皆な邂逅し同賞することを得ず衆以て憾と爲す焉妓數輩有り客を擁して而して過ぐ柴溪目逆ひて而して之れを送る余問ふ美にして艶ある耶柴溪大息して曰く亦天然の美人に及ばずと一坐悵然たり時に殘陽漸く低れ暮色蒼然として山黛く花晶かに人散じて境靜か一日の擅場反つて此際に在り衆意留連愛を割くに難し支峰は坐中の著宿乃ち鐸を振ふて曰く花は半開に在り酒は微醉に在りと淞北も亦戒めて曰く亭の楣に遍して時鳥と曰ふ是れ不如歸也と一人屋に應じて曰く洵に然りと遂に束裝して亭を出づ時に舞陽尙ほ在り車を擁して歸るを待つ衆乃ち分かれて二輛に乘り淞北と支峰と余は柴溪と每輛一雙先後相馳

第二篇（地方誌）

○畿内地方

畿内は本土の中央に位し東南北の三面は山嶺を以て圍まれ山城及び大和は其東部に在りて地形南北に長し殊に大和は南の方紀伊國に向て突出し國中逆峯起伏し大峯山上大台ヶ原の諸山最も名あり攝津及び和泉は西に茅渟の海を控へ河内は大和の間にありて地形狹長なり

琵琶湖畔の大津より大阪灣頭に至るの間は所謂淀川の沿岸地方にして殊に風景に富み畿内交通の主線たり地味は肥沃にして人文夙に開けたり

山城

山城は畿内の最北に在り北部は連山起伏し淀川の近傍は最も廣き低地なり

（京都市）京都は桓武天皇皇居を此地に奠め給ひしより千七十餘年間の帝都たりしを以て此名あり明治遷都以來東京に對して又西京と稱す街路は縱横直線にして端正なり其最も殷賑なるは三條通りにして市の中央に在り之より以北を上京と稱し以南を下京と云ふ京都府廳京都帝國大學第三高等學校博物館同志社大學あり市の北部に舊御所あり二條城は豐太閤の築く所にして今離宮たり加茂川は市を貫流し其水の清きを以て名あり昔は之れより以西を洛中と稱し以東を洛外と稱せり近年琵琶湖を疏通し水を市の東部に通し工業運輸の便に供せり

○嵐山

○京都市

す路漸く昏黒にして余亦坐睡す俄にして而して覺むれば則ち已に城北に至る此れ從り兩轅南北し各自家を指す柴溪と余とは仍ほ一車に在り柴溪曰ふ今日の游何ぞ樂しきやと余問ふ解語の花と如何答へて曰く既に大牢に飽く矣復た其佗を思はずと一嘘して而して別れ即夜筆を走らせ此れを記して以て柴溪に示す

此地は三方皆山を以て圍まる東山西山北山の通稱あり比叡愛宕鞍馬等の名殊に世に著はる山水の景に富み嵐山の櫻花高尾の紅葉は殊に名あり又神社佛閣極めて多く八坂神社北野天滿宮東西兩本願寺知恩院清水寺の如きは人の能く知る所なり就中史上に有名なる金閣寺銀閣寺及び祇園加茂の社を最とす

京都は工藝に秀で織物を以て名高し產物は西陣織清水燒鴨川染粟田燒等あり瀛車は七條停車場より東京へは十五時間大坂へは一時間餘にして達するを得べし

●逢坂關の舊跡●は逢坂山の中腹近江山城の國境に位する東方にあり峠より大津に至る街道に蟬丸の祠小町の跡等あり此地の名物にして其起りは大谷

十津川

藤澤南岳

五日(八月)熊野に赴んと欲す諸子議して舟を裝ふ已に牌に至りて乃ち發す高久導たり舟下ること里餘兩嶂愈よ峻く愈よ逼る此溪長殿に至りて十津川と呼ぶ折立に至れば頗ぶる大あり蓋し小溪の東注する者曰く大股、長殿に會す曰く雄、宇宮原に會す曰く寒に走井あり昔し清原元輔が走井のほとを知らばや逢坂の關引こゆる夕かげの駒と咏ぜしより起る又山科には大石良雄閑居の跡あり今は寺となれり

(伏見)は京都の南方に在り京都及び奈良に通ずる要路にして舊時より淀川に依りて大坂灣に出づるの要津たり豐臣秀吉の舊城地にして今猶ほ東端にその跡あり數百株の桃樹を植ゆ

(淀)は木津川と宇治川の左岸伏見の上にあり應神天皇の皇子菟道稚郎子の閑居し給ひし地あるにより此の名あり我國第一の茶所とす其東に平等院あり源頼政の自刃せし地にして今猶ほ扇の芝を存す

八幡は淀川の左岸淀の下に在り山崎と相對して京に入るの口を扼す大山崎は天王山の麓に在り羽柴秀吉

野、川津に會す曰く瀧、風屋に會す曰く芦瀬小原に會す故に鴨綠太だ漲れば儼然たる一の巨川也其兩山の間を廻る者坂本より皆然り只身崖上に在り是を以て峽中の奇を盡す能はず今は身を小舟に托し上下一碧の間を穿ち始めて奇勝を審にすることを得たり峽中は怪岩奇石交互參錯舟槎の下る者岩石の間を縫ふ舟子棹を手にして舟首に立ち石に逢へは則ち撞て以て避く左迂右、轉其巧なること人を驚かす時に淺灘あり灘石水を激し水咽んで白を飜すと百十頃舟底石に觸れ轟轟聲有り又巨岩の下盤渦して潭と成る乃ち恐る舟墮つて而して輪旋するを舟子隨處手を着け易々に經過す而して兩嶂皆數十仞杉松十丈濃翠滴る如く間に山躑躅有り猶ほ殘紅を明智光秀を亡ぼせし地あり又明治の初年會桑二藩の兵が薩長の兵と接戰せし地あり離宮八幡宮は停車場の前にあり寶寺はその北にあり伏見の南に巨椋池あり宇治川の分流此に入り水量を調和し洪水の害を少なからしむ山吹の名勝ある井手の玉水の古跡は池邊にあり

大和

大和は五畿内中最大の國あり國中山岳頗る多きを以て人口少し然れども神武天皇以來歷代の天皇多くは都を爰に奠め給ひし地なるを以て古來舊蹟の存するもの多し

(奈良市)は元明天皇より七代八十餘年間の帝都にして南都とも稱す奈良縣廳の所在地たり又博物館の設あり奈良晒及奈良漆を產す瀧車時間凡そ二時間餘にして大坂に達するを得べし東大寺は大佛を以て名高く春日社は神鹿を以て著名あり又三笠山は河部仲麿の歌を以て人知らざるものなし其他神社佛閣は千年以上の建物ありて有名なる佛像少なからず

吉野川に沿ふて吉野山あり滿山皆櫻樹にして花時の風景殊に絕佳あり此地南朝三世五十餘年の皇居たり吉野紙吉野葛を產す是より以南は十津川の幽谷あり紀伊に通せり

河内

河内は地形狹長にして大和の西方にあり狹山の池は

○十津川

○奈良市

留めて頗ぶる風致有り而して舟矢より駛く山轉じ岩迸げ走る燈を看るが如し前日余保津川に遊びて太だ之れを奇とせしが此峽に比べれば則ち兒にして而して將に孫あらんとする耳未だ知らず巫峽の艶預と如何ぞ也今歳雨少あくして水涸る而して猶は此くの如し水漲るの時想ふ可き也眼を轉ずる匆々忽ち七色に至る舟行盡

大和川と共に灌漑の便を資く金剛山は國の東南隅に聳へ千早城趾及び四條畷は何れも楠公父子の事蹟を以て名高しこの地は木綿の産出を以て有名あり又牧方よりは多く煙草を産す高槻の北に神峯山あり山上に五水瀦等の名勝及邂逅山あり山麓を淺茅ヶ原といふ能因法師の歌に「淺茅原まとふ黒髪さのふまて誰か手枕の上に置きけん」とあり

和泉

和泉は概ね低平にして西大坂灣に瀕す堺は鉄器及び段通を産す往昔は大坂灣中にて商賈上の首位を占め市況繁盛ありしが港淺くして碇泊に便あらざるを以て神戸の開港以來大に其繁昌を減ぜり

し已に三里和州盡き焉紀州續く焉兩崖即ち低く川身漸く溺く而して水勢頗ぶる緩し舟子事有りて岸に上る會ま雷雨大に作り六人者或は遂を以て身を纏ひ或は踞して而して頭を蓋ふ余は舷に倚り傘を手にして而して立ち四望して興を過る川の西に長嶺蜿蜒たる者は無終山なり半は烟雲の盡斷する所となる東南は則ち翠嶂碧

攝津

攝津は南大坂灣に瀕するの地は殊に平坦なり然れども北に進むに從ひて漸く高く人煙頗る稠密なり

(大坂市)は畿内第一の大都にして淀川に沿ひて大坂灣に臨む溝渠縱横に通じ運輸極めて便あり淀川の分流ある安治川口は諸國の商船輻輳其東に居留地あり市を東西南北の四區に分つ市の東には豐臣秀吉の築きし大坂城ありて今は唯だ墟址を存し中部都督部及び第四師團司令部此中に在り大坂府廳は淀川に臨む造幣局は我國現今の通貨を鑄造す其他控訴院紡績織物會社等あり

此の地は元と難波津(浪華とも云ふ)と稱し仁德天皇の

○大坂市

嶮模糊一帶の間に兀立す皆あ紀の山也良や久ふして舟子來らず余乃ち唐詩を浪吟す水鳴り山答へ雨和して雲舞ひ魚龍も亦波底に踊躍すると疑はる長歌方に了り舟子來りて纜を解き雨を衝て以て下る清涼骨に徹す將に本宮に達せんとして雨歇み乃ち岸に上る

貞法院の苔梅

瀧澤馬琴

都し給ひし所あり豊臣氏築城以來市況頓に盛大に趨き德川氏の世に至り最も繁榮を極め諸大名の金庫と稱せられし處なりしが明治の遷都以來一時其の繁勢を減じたり然れども現今市況又大に振ひ商工業最も盛んなるに至れり市街は橋梁多く殆んど二百餘に達す心齋橋筋高麗橋通り淀屋橋筋本町通を殷賑の地と一閑張眞田織綿布等を產出す

大坂は水運の便あるのみならず鐵道四通し流車にて十七時間を經れば東京に達するを得べし東區には兩本願寺あり北區には天滿天神中の島公園あり此の他風景の見るべきものは難波橋中の島の眺望櫻の宮の櫻花天保山の海水浴高津神社の雪景生魂神社の春景天王寺の高塔川口の連檣等ありとす

和泉より四里はかり更に梅津といふ村あり こゝに貞法院といふ寺あり この寺の庭に一株の老梅あり て苔梅と名づけたり傳へ云ふ昔順德天皇此ところにみゆきありしとき もたせたまひ梅の枝を土中にさゝせたまひしが枝葉年々にしげり五百餘年の後までも春毎に花吹けるありと云ふ其の樹の幹は四尺あまりあるべし四方に

○貞法院の苔梅

○箕面の瀧

箕面の瀧は流しの分流たる祠崎川の北岸吹田の北三里箕面中に在り高さ十一丈二尺幅三間餘滿山楓樹にして秋時は錦を敷くが如し 瀧安寺唐人戻り岩龍穴等の名稱あり

○神戸市

(神戸市)は大坂の西流車里程一時間の所にあり南は大坂灣に臨み北は山を負ふ港内水深く大船の碇泊に適し内外の商船輻輳せり本邦第二の互市場にして兵庫縣廳のある所あり此地は元と祠戸兵庫の二市街に分れ湊川によりて之れが境界をなせしが今は合して一市を成せり其最も繁盛なるは元町通榮町通多門通等とす

湊川は楠公討死の處なるを以て其傍に湊川神社あり楠公を祀る福原は平清盛の舊址あり紙を以て

石垣したり幹の半ばまで青苔をもて包めるが如くいとあつく苔むしたれば幹とも見えず苔より上なる枝は四方に開きて花笠に似たり花は白くまた薄紅あり梢の花のうつらふころ苔の中處々に莟を生じてさながら苔に花さく如くよりてこれを苔梅と名づく又二見村なる農夫の庭に老梅あり名づけて宿梅といふ花は八重に

名産とす又中國の半は此地を經て四方に出す鐵道は西には山陽鐵道ありて山陽諸國に通じ東は東海鐵道ありて大坂以東に通せり

神戸の西方播磨の境に接して鵜越及び一の谷あり共に源平の古戦場にして名所舊蹟多く一の谷に敦盛塚あり名物敦盛蕎麥を商ふ又生田神社には旅の梅梶原の井等今猶ほ境内に存せり

須磨浦　は國の西隅に在り前は海を隔てゝ淡路に對し後は鐵拐峰鉢伏山鵜越等の諸山を負ひ海濱は白沙青松相照映し西播磨の舞子濱と相連る風光佳絶一幅の畫圖の如し古より觀月の勝地として詩歌に吟咏せらる

明石　は舞子と相連り共に海眺觀月を以て名あり

て勾ひきはめて高しこの梅もおほし帝の植えさせたまひしといふたゞ除木にことなることは花一輪に實は必ず三ッ四ッとまれり頗る奇とすべし他處より共穂を乞ひとりて接木にし或は實植えおどするものあれどもたえて花咲き榮ゆることなし帝の植えさせ給ひしといふことと認ふべからず

○貞松院の苔梅

此の地の名所を人丸神社とおす社は丘山に在り海を隔てゝ淡路島と相對し紀伊讃岐の諸山を雲煙模糊の間に見る眺望の佳絶言ふべからずその西に腕塚あり平忠度の腕を埋めし所といふ其他舊蹟尚ほ多し

布引の瀧　は神戸の北布引山の麓にありて雄滝雌滝の二滝あり又其の北方に有馬温泉あり三方山を負北一面僅かに開け但馬に通す此地名勝多く所謂六景なるものあり即ち皷ヶ瀧の松風、落葉山の夕照温泉寺の晩鐘、功池山の秋月、有馬富士の暮雪、有明樓の春望是れなり其他烏地獄落葉山古城跡等の名所あり

伊丹池田は古より清酒の醸造を以て名高く西の宮亦

○須磨浦　○明石　○布引の瀧有馬温泉　十九

游箕面山遂入京

齋藤拙堂

余摂に在ること既に浹辰遂に將に京に入らんとす久しく箕面の勝幾何に冠たるを聞き迂路して過ぎり覩んと謀り二十七日下午大坂を發し東北長柄川を渡り行くこと五里にして山下に至る盤廻して而して上れば則ち淨境別に開け清溪奔馳し紅欄橋架

酒を以て有名なり兜山は西に連り武庫六甲の二山西に聳え武庫山の南麓蘆屋村は古へ蘆屋の里と稱し猿丸太夫の墓あり其打出の濱は神功皇后出産の地と稱せらる有名なる住吉神社は皇后の創建に係る東北に岡本梅林あり御影石は此の地の名産あり

西の宮の西北三里中山の南麓に中山寺あり厩戸皇子の開基に係り登臨の風色頗る佳なり摩耶山も亦山上に天上寺あり夏季避暑の爲め登山するもの多し又諏訪山温泉は神戸の北にあり山腹に諏訪神社あり故に山の名とす其後に弘法大師の二度登りし再度山あり登臨佳絶あり

○東海道地方

焉此間竹經松緯一往幽折心甚だ之を樂む但だ日昏黒寺門閉せり矣投じて門前の茶店に宿す背は即溪終夜聲有り琅然として枕に到る明旦門開く觀音堂に至る稍前む左右碓有り左を行者堂と爲し右を辨天宮と爲す並に宏麗にしミ之を合せ名づけて瀧安寺と曰ふ滿山皆楓爛然として霜に飽き色渥丹の如こ水岩の間に綺錯し時に

東海道は畿内の東に連りて太平洋に臨める一帶の地なり北部は山岳相連り南方海邊に至るに從ひ次第に低下す故に河流(伊勢常陸等を除く)は西北に發して東南に流る海岸は出入甚しく東京灣駿河灣及び伊勢灣の三大灣深く北方に灣入し房總三浦伊豆及び志摩の四半島遠く海中に斗出す

伊豆半島の北部に箱根嶺あり古來海道無双の天險と稱せられ維新以前は此處に關門を設けたり故に之れより東を關東と云ひ西を關西と稱す又往昔逢坂關を境として關東關西に別ちたることあり

伊賀

伊賀は四面山を繞らし其地伊賀川の流域地方は稍平

墜錦有りて波に點じ杳然として流れ去る談者多く言ふ其勝高雄の上に在りと意ふに然らん後門に出で徑に沿ふて而して行く楓盡きて松來り水究りて石出づ巨岩疎峙し大さ屋の如き有り唐人戻りと曰ふ戻りの言たる反る也相傳ふ昔外國の人有り來遊して此に至り險を畏れて戻り去る故に名づくと更に進む大壁嵯峨山谷に坦あり國中僅かに二郡東西七里南北凡九里の一小區あり

（上野）は伊賀川の流域にあり伊賀燒を產す上野町には渕邊靜馬復仇の舊跡鎌屋の辻芭蕉翁の宅址あり藤堂氏分城の地にして今猶は白鳳城の跡あり靜馬餅靜馬蕎麥を名物とす

月の瀨　上野より西南三里餘の處にあり楠林を以て其名高し此地藤拙堂翁が月勝記勝の著あり、より星巖山陽の諸士皆遊びて其勝を讃賞せしより遂に海內第一の楠林と稱するに至る月の瀨は獨り梅花を以て名高きのみならず山水の景亦絕美にして松竹は溪間山峰を綴りて花は經となり松竹は緯となり疎影橫斜絕崖清彈に相映するの光景殆んど

震ふを聞く徑轉じて瀑布の絕壁に掛るを望見す長サ二百尺可り濆沫空に飛び跳擲して下り潭底に至て復た逆上し輙ち轟然として雷動す一佛堂有りて瀑に面す登り觀る焉凜然魄悸し久しく留まること能はず而して去る聞く近畿の瀑布那智を以て第一と爲し此瀑之れに亞ぐと想ふに當さに然るべし且つ此瀑は直下して略ぼ遲

雷歌の盡くす所にあらず所謂月瀨十勝は古來詩家歌人の嘆賞して已まざる所あり

伊勢

伊勢は西は大蛍ヶ原峠及び鈴鹿の諸山並列し地勢頗る嶮岨なり鈴鹿山は即ち鈴鹿關の在りし所にして山中に有名なる八百八谷あり木曾川流域の地は地勢次第に東方に低下するを以て河流は皆東流す而して中央雲出川を隔りて北伊勢南伊勢に分つ地味米穀に宜しく伊勢米を產す

（桑名）は木曾川口の南に在り舊城址春日神社等の遊覽所あり時雨蛤白魚を名產とす關西鐵道に依り四日市に通ず

回せず之を布曳瀑の曲折して而して下る者に比するに其勝各異あれり曲れる者は委蛇として態を著く小品の文也直なる者は奔放して勢に駕す大篇の文也或ひと謂ふ文は曲を貴ひ而して直を賤しむと迂論に非る也余二瀑を觀而して之に大小の別有るを知る矣堂の右より磴を辿んで而して登る瀑頂に臨ゞ頂凹蓄碧方三丈上流

(四日市)は桑名の南方三里にあり港内水深くして大船を泊すべし横濱との定期航海船あり又熱田に渡る要津あり且つ東海道鐵道に通ずる便あるを以て交通極めて昌なり市中又製造業盛にして洋紙及び綿絲の産額多し此近傍より万古燒を出す此地關西鐵道の便に依り高宮龜山を經て津に達するを得べし

(津市)は安濃津の略稱にして東岡濟浦に臨む舊と藤堂氏の城址にして三重縣廳の在る所あり津公園は市の北部にあり高山神社を祭る其他結城神社八幡神社等甚だ多し物産は綟子織茄子團扇杓子餅等ありとす參宮鐵道は津に起り南松枝を經て宇治山田に至る

久居桃林　は津の西南二里許に在り七千餘株の桃林一碑霞を敷くが如し又其北に新家桃林ありて三万株の多きに及ぶ共に春時杖を曳くもの多し

阿濃浦　は興津海濱の名にして青松白砂相點綴して絶勝の地なり近傍に幸山海水浴あり亦風光佳絶の地とす阿濃神社には芭蕉翁の名碑あり「月の夜の何を阿古木に暗く千鳥」の句を刻す

(宇治、山田)南伊勢の大都會にして宮川の東畔に位し尾部坂以西を宇治と稱し以東を山田といふ志摩大和紀伊の各街道に當り東北に大湊神社港を擁し繁盛の地なり外宮(豐受大神)は山田に在り内宮は宇治町の南端五十鈴川の上流に在り我邦の總廟にして天照大神を祭る両宮に參拜するもの世俗之れを伊勢參宮といふ

參宮の暇は二見浦に遊ぶを例とす

二見ヶ浦　は有名の勝區にして山田の東北二里許

灌注し底深測られず蓋し瀑の源也後門より此に至るまで凡そ十八町なり又一里許りにして勝尾寺に至る中堂に觀音大士を安す西國三十三所の一たり前門に出で坂を下ること五十町郡山に至り遂に北上して京に入り數日住まり高雄及び東福寺に游ぶ兩地の楓都下に冠たり號して勝區とす然れども余終に箕面の勝を忘るゝ

能はず矣

東海道

淺井丁意

勢田の大橋九十六間に小橋の長さ三十六間あり昔し孝謙天皇の御時に惠美の押勝むほんを起して軍に打ち負けこゝまて落ちけれども橋絶えて渡ること能はず高島にて自害せらる又天智天皇の皇子大友は淨見原の天皇を殺しの處にあり海岸數間を隔てゝ奇石二あり相距ること三間許形關門をなし大なるもの二十九尺小なるもの十二尺旭日拜見の名所なり二見浦の南に朝熊山あり志摩との堺をなし國中の名山あり

志摩

志摩は山田の東南海中に斗出する小國なれども地勢平坦ならず海岸の屈曲出入極めて多く海産物亦夥し（鳥羽、的矢）は共に港内水深くして船舶の碇泊に便あり國の東南端安乘崎に燈臺あり

尾張

尾張の西南部は濃尾平原の一部にして木曾河流以東の流域にあり土地極めて肥沃あり南方一帶海洋に斗出するものを知多半島といふ

（名古屋）は濃尾平原の東南に在りて本邦第四の大都會とす本市は德川三家の一なる尾張侯の舊城下にして名古屋城は市の北部に在り現今第三師團司令部を此所に置く其天主閣には黃金の雙鯱あり又此の地に愛知縣廳控訴院あり七寶燒名古屋扇及び一閑張を產す東海道鐵道にて東西兩京に通じ十二時間にて東京に達す名古屋の正北四里に小牧山あり家康秀吉と戰ひし有名の古戰場あり又西一里にして秀吉の出生地中村あり又清正の舊宅趾なるもの今猶ほ存す

（熱田）は名古屋の南方に接近する市街あり伊勢内海に臨み伊勢に渡るの要津あり通稱を宮といふ蓋し街の奉つらんとしたまふ處に淨見原は和州芳野の宮にかはしましけるが密かに忍び出で伊賀伊勢を廻りたまひ東國の兵を催し美濃の國不破の關にて軍ありしに大友打負けて勢田まで落させたまふ淨見原の兵勝に乘りて追ひかけ責め付け奉りしかば皇子の兵皆落ち失せたり皇子力おく竹林の内に入り給ひて自から縊れ給ひぬ其

時皇子の陣の跡竹の林の所は久しき事にて知る事なくなりたり古へより東國の軍兵の都に攻め上るを防ぐは必らず宇治と勢田との橋を引きて相待つとは申せど先陣しけることも度々ありとかや

大橋の上より左の方に石山寺の塔見ゆ此寺は東大寺の良辨僧都の草創なり其かみ聖武天皇東大寺の大佛殿を御建立ありける

東部に熱田神社(日本武尊外四神並草薙劍を祭れる四神)白鳥の御陵あるを以てなり名古屋の熱田に於るは恰も東京の横濱に於けるが如し

(半田、武豐)は熱田の南即ち三河灣と伊勢内海とを分つ所の知多半島の東岸にあり陶器に有名なる常滑あり武豐の後山を鳳翔山といひ山中に養生館あり保養及び避暑に充つ又半田は衣浦に臨み港内水深くして船舶の出入多し滊車は武豐より大府に至りて東海道鐵道と連絡す此の國は地味肥沃なるが故に且良質の陶器に富む故に尾張米瀬戸燒の名產あり

●鳴海●は熱田の南方數里にあり昔しは鳴海潟と稱し太田道灌が遠くなり近く鳴海の濱千鳥鳴く音に潮の滿引をぞ知る」と詠みし所なり鳴海絞は多く隣

に金銅十六丈の盧遮那佛を鑄たまひ其箔の料にとて黃金を求め給ふ良辨は舟に乘りて湖海に浮びてこゝかしこを廻りたまふ所に一人の翁ありて岩に尻懸けて魚を釣る良辨に語りけるは此の山はこれ觀音の靈地として金ありこゝに留まりし持命したまへとてかき消すやうに失せにけり翁は比良の明神なりき良辨こゝにして村有松にて製す

有松の南ある桶狹間は織田信長の今川義元を亡ぼせし古戰場にして今猶ほ草繁き荒涼たる中に義元の墓あり菜を以て有名なる大高には義元の據りたる鷲津城趾あり而して信長の居城たりし清州は名古屋の北方一里北の地にあり

三河

三河は山岳丘陵所々に起伏すれども地勢概ね險あらず殊に矢矧川四近の地及び豐川下流の地は最も平坦なり以上二川の外更に矢矧川の支流太平川參尾の境界を流るゝを以て三河の名あり

(豐橋)は豐川の下流に在り三河第二の都邑あり豐橋以

持念し給ふに此の山の金は觀音惜み給ふゆゑに取るべからずと其間に始めて奥州より金を奉る此に依りし大佛皆箔をおし奉りたまふとあり是れ偏に此の觀音の御力なりとて石山寺を草創し給へり又上東門院の紫式部は石山に籠り觀音に祈をかけ奉り八月十五夜の月湖水にうつりたるを見て水想觀を成就し自然智を得て源氏物語を作り須磨明石の巻よりも書き出し侍りとかや、かは良辨の事に付きては哀れある物語りあり

小橋より右に向ひ北の方を見れば湖水の西の方辛崎の松に續きて片田の浦浮御堂も幽かに思ひやる彼の浮御堂は惠心僧都の造りたまふ一千体の彌陀佛あり中頃皆散り〳〵に取り行きて退轉に及びしを或聖來りて江州を勸め南の地は所謂渥美半島にして西南に斗出し志摩半島と相對し伊勢内海の門口をあす

●矢矧川　は源を美濃、阿賀、瀧山に發し岡崎の西を過ぎて海に入る橋の西畔矢作村の田中に竹林あり古矢矧の長者が住居せし宅趾ありといふ又淨瑠璃姫は此長者の女にして義經を慕ひ陸奥に赴かんとし蒲原驛に至りて死せりといへり又御油の北牛窪村に山本勘介居宅の跡あり今は田園となれり

(岡崎)は豊橋より滝車一時間程の地にあり矢矧川に臨む德川氏の起りたる地にして城址は公園となり園内東照宮を祭る此の地漆器を産す又知立には八ッ橋の古跡あり業平の燕子花を詠めし地あり

遠江

遠江は天龍川國の中央を貫流す水淺くして運漕の便を缺くといへども灌漑の便極めて大あり下流兩岸の地は平原遠く連り東方に盤田原あり西方に三方原あり武田信玄の敵兵に敗れし古戰場あり大井川の下流は其南方に牧野原ありて遠く南方に延長し其尖端御前崎は遙に伊豆の石廊崎と相對して駿河灣の門口を成す其極端に燈臺あり

●濱名湖　は舊猪牙湖と呼び東海道有名の勝地あり灣内水深く小滝船を往來し遙に秋葉黒法師の諸山を望み風光頗る佳あり其海に通ずる處を今切と稱す東海道鐵道の貫通する鐵橋を架す此灣往昔大湖

て再興し侍りかの惠心の御作の彌陀は片田千体とて尊みもてはやすとかや片田の末は白銀比良小松なり又幽かに沖中へ突き出でたる尾崎は大灣と云ふ所なり今津海津は遙かなれば見えず湖水の東右の方に押し入りたるは長面寺の觀音なり音根の觀音は澤山の中にあり沖に見ゆるは是れ沖の島なり其おなたに竹生島あり此ありしが今より四百年前海嘯の爲めに湖口を決して灣となれり

（濱松）は濱名灣の東三里に在り東海道鐵道の要路に當る東西兩京の間に位するの地たるを以て繁盛あり市の北端に濱松城址あり茶の産出多し

駿河

駿河は箱根以西駿河灣に面する地にして地勢急斜面を成す灣内に注ぐ所の富士、安倍及び大井の三大河は皆急駿あり故に駿河の稱あり

（靜岡市）は元と駿府又は府中と稱し西方に安倍川あり此地は往昔德川家康退隱の地にして其東方海岸に近き所に久能山あり其の久能神社は家康を祀る後山に

の島は古へ景行天皇の御時に水の表に浮び出でたり島の中に辨才天おはします行基ぼさつの御作あり島は是れ水精輪緑の木末枝垂れて水にうつろふ影しげく鱗峰に集まれば魚木に登る心地せり疊ら雲空や久方の月海中に浮んでは兎も波を走るとかや賊に類おき名所なり

皷浦

○皷浦

日本平といふあり駿遠甲の風色一眸に萃まり駿州第一の絶景とす又淺間神社は美觀日光に次ぐ崇神天皇御宇の建立にして境内を公園となせり此地靜岡縣廳の在る所にして東京名古屋の中間に位し地方商業の中心たり漆器竹器製紙の業盛にして又茶の栽培に適す

燒津　は靜岡の西に在り日本武尊の叢雲の劍を揮ひ草を薙ぎ賊の火攻を免れたまひし地にして史上に著る大井川は天龍川に亞く大河にして駿遠の境をおす平時は殆んど砂礫のみおれども霖雨の頃には時々氾濫の恐れあり昔日の遷臺越は話のみ殘りて今は橋梁を架す

富士山　は甲駿の境上にある本邦第一の名山にし

○矢矧川　○燒津　○靜岡市

中村栗園

海有れば則ち波無き能はず又聲無き能はず但だ其聲の皷を擊つと相似たる者は伊勢の白子浦と爲す浦の皷を以て名づくるは之れが爲めの故也余其名を聞くこと久しく未だ其地に遊び而して其聲を聞くを得ざるを憾む宮原生白子より來り贄を余が門に執る乃ち携ひて同行し其家に宿す時に三月一壹

て海表に直立すること一万二千四百尺餘其間錐形の山姿は遠く白扇を倒に望むが如し頂上には噴火口あり其周邊は斷巖削立して奇怪名狀し難し其最高峰を劍ヶ峰と云ふ谿澗には盛夏と雖も千古の雪を埋め清泉湧出す金水銀水と稱するもの是れなり裾野には川口山中精進及び本栖等の諸湖あり是等は箱根の蘆湖と合せ所謂八湖の稱あり此の裾野は曾我の復讐を以て殊に名高し

富士の西麓に沿ひて南流する所の富士川は日本三急流の一にして屏風岩俵石釣橋等の奇觀あり平家敗軍の蹟を以て史上有名なり其河口は田子の浦にして本道第一の勝地なり古來詩歌多し

「田子のあなの宿まて埋むふしの根の雪もひとつに

也翌日生に導を命じて其浦に至り松に倚て耳を傾け以て皷聲を聽く是日霽雨始めて露れ而して陰雲未だ搴らず海色冥々舟帆影無く風浪怒號し絶だ皷と類せず余意樂しまざる也生を促して乃ち歸る已にして夜に入て寢に就く夢に波聲を聞く始にして而して舒、終にして而して疾、舒なる者は條暢す吉行の盛也疾なる者は噍殺す

信實朝臣

冬は來にけり」

「白波の見る目をそへて植へわたす早苗になひく田子の浦波」

雅成卿

○皷浦

清見潟は鯛を以て有名なる興津の海濱を云ふ古清見關の古跡なり東は田子の浦に枕み西は三保の松原清水港及び久能山を眺め北は愛鷹山を隔てゝ八朶の芙蓉を仰瞻す光行が歌に

「清見潟關とはしらで行人も心ばかりはとゞめをくらん」

とあり

○田子の浦　○清見潟　○三保の松原　三十五

三保の松原は有渡郡の東端に斗出する長洲一帶にして清水港より海上僅か十餘町に過ぎず青松白砂點綴して山海の風景相映じ宛も美人亂舞の錦あ

軍行の櫚也少焉にして櫚變して盤と爲り盤變して櫚と爲る珠玉盤に落つる如く戟騎の往來する如く韡鞜鏗鏘紡渺清越或は繁く或は稀に錯雜して而して出づ又弦匏笙簧以て其曲調を助くる如き者有り而して皆奇濤聲之れをして然らしむる也俄然として覺む餘音猶ほ耳に在り奇と謂ふ可し矣嗚呼余此聲を聞く也寤に於てせず而して夢に於てし晝に在らず而して夜に在りしは何ぞ耶蓋し海若陽侯余が文を得て之れを祀せんと欲し夜間人定まり睡中心靜まりしの時に當りて故らに波濤を皷して以て之れを聞かしむる歟抑も亦偶然歟記して以て海若に問ふ

天龍峽の記

阪谷朗廬

○天龍峽の記

り後鳥羽院の歌に「清見潟ふじの煙や消へぬらん月影みがく三保の浦松」藤原冬隆朝臣の歌に「清見潟磯山寺は暮初めて入日殘れる三保の松原」の古歌あり松林中に御穂神社あり其の東南に一老松あり高サ凡九丈餘樹下羽衣松の一碑あり夫の漁翁伯良の爲に秘曲を演じたる天女が羽衣を掛し松ありと傳ふ能因法師の歌に「有渡濱に天の羽衣昔しきて振けん袖やけふのはふり子」とあり

(清水港)は清見潟の南方にあり船舶の出入多く駿河第一の良港なり沼津は國の東方にあり海濱を千本濱といふ靑松白砂相映じて風光明媚なり條内に沼津城址あり

甲斐

甲斐は四面皆山を繞らし國内亦山多し地勢頗る嶮峻にして東西に分る東方一帶を郡内といふ河水皆流れて相摸に入る西方は稍平坦なる地にして河水皆富士川に注入す

(鰍澤)は富士川の岸にあり駿河の岩淵に下るの要津あり

(甲府市)は笛吹川の流域にありて國の中部に位す山梨縣廳の所在地あり甲府の東甲州街道に勝沼あり其北東に天目山あり武田勝頼滅亡の故事を以て知らる勝沼を下り馬入川の谷に有名なる猿橋あり兩岸は斷崖絶壁にして溪谷の深さ數十丈昔時は此の橋を架する

○甲府市

余諏訪湖の明秀を愛し天龍河の南に沿ふて下る両山墻壁の如く崔然天を摩し中間は阻夷にして、邑居田圃高底相接す、心甚だ其形勢を異とす既に飯田に入る、飯人丸山仲肅の家に宿る、席間傍近の山水を叩く仲肅曰く、子何そ一勢を憚つて佳山水に負くに忍びんやと、乃ち勉めて其勝を探る、行くこと二里ばかり郷醫關島氏を訪ふ主人に一柱を揭へざりしが今は三柱を支ふ甲府の西南に身延山あり日蓮宗の本山なり國中一体養蠶機織の業盛にして地味又最も葡萄の栽培に適し甲斐絹甲州葡萄の名夙に高し又水晶は此の國の特産にして他に比類あし

伊豆

伊豆は箱根以南に當り遠く洋中に斗出して相摸灘と駿河灣とを東西に分つ所の半島をいふ國中に火山脈蟠屈して南方豆南諸島を起す故に國中平坦の地極めて尠く温泉の湧出する所極めて多し其の中央に聳ゆる天城山は半島第一の大岳にして良材薪炭に富み又建築用の石材を産す天城山の南麓を過ぎ殆んど國の

眞率喜ふべし、導いて峽口に至る、百丈の斷崖折裂して斧劈の如し平遠の水、此に至り、頓に巉岩の爲めに窄められる奮騰淖狀銳鋒而ふ所石皆辟易す猶怒りに勝へざれば往々倒に流る主人延いて大石上に踞す須臾にして蚤見四五輩喧吼して來る甌を貢ふものあり、壺を提ぐる者あり、釣具を持する者あり、火を扇ぎ水を汲み茶沸興を助く

○天龍峽の記

南端に下田港あり米國の使節ペルリの渡來せし地にしてその名史上に著はる

國中の大河を狩野川とす其沿傍に歴史上有名なる韮山修善寺等あり南端石廊崎に燈臺の設けあり

○熱海

熱海は相州小田原より凡七里餘の海岸にある浴場にして三方山を環らし東一面は海に瀕し半月形の灣をなす左を横磯と云ひ右を魚見崎と云ふ前面に初島の一嶼を含んで山水の風景殊に趣を添へ奇景名勝少からず所謂熱海八景なる者古來詩家歌人の吟咏して嘆賞せしものあり(八景とは梅園の春曉、來宮の杜鵑、温泉寺の古松、横磯の晩凉、初島の漁火、錦浦の秋月、魚見崎の歸帆、和田山の暮雪)にして就中奇景なるは錦浦とす

余試に綸を垂る底深くして流急なり釣を受けず遂に竿を投じ攀援して進む崖益高く岩益偉なり、峽勢又益逼仄し、綠樹横に生じ縈ぶるに松竹を以てす鬘として影を水中に倒す水受けて之を蕩かし潭とあり瀨と爲り轟磕と皷奏す、水碧に岸碧に草樹皆碧あり仰いで頭上を望めば天亦蜿蜒として一碧流とある、時に躑躅花盛に開く滿峽亂點、濃朱を著くるか如し、景一も畫くべからざるあく、而して畫も亦及ばざるものあり、會々老翁あり岩下に漁す、班白傴僂亦畫圖中の物あり呼んで筌を窺へは小魚僅に二三尾乞へば輙ち之を與ふ乃ち崖上の最高處を指し、童兒に命じ、地を掃ひ席を設けしめ更に榛莽を開き勝を求む峽已に幾轉し、變態百出氣象も亦蕭條前崖の一

豆南諸島及び小笠原群島は本道の屬島にして東京市の管轄に屬す豆南諸島は伊豆半島の南方太平洋に現出したるものにして海岸より南方百哩の間に碁布す其最も大なるものを大島といふ其西南には利島新島三宅島及び御倉島あり又其南方には八丈繊を以て有名なる八丈島あり豆南諸島の南方に當り殆んど熱帶地方に近き所に小笠原群島あり凡そ三百年前小笠原貞頼の發見せしものにして就中父島母島を大なりとす

武藏

武藏は北東は利根川及び其支流江戸川南は多摩川(又は六郷川)を界とし中央は荒川隅田川の諸流之れを

貫通し關東平野の大部を占め東南の一部東京灣に面す地味沃饒頗る運輸交通の便あり

(東京市)は關東八州の中央にありて隅田川其東部を貫流し南東京灣に臨む地勢最も平坦あり此の地舊と江戸と稱し昔武藏野原と稱し所謂草より出でゝ草に入る武藏野の月と咏まれし茫々たる荒原に過ぎざりしが凡そ三百年前德川家康覇府を此地に開きてより以來昔の俤を留めず明治元年始めて車駕を此地に駐め給ひしより東京と改稱し帝國第一の都會となり商工業の一大中心たり

皇居は市の中央に在り繞らすに濠渠を以てし內廓外廓に分つ鬱蒼たる老松高城を護り翠色滴たらんとす諸官衙帝國議事堂等其附近にあり市は地勢に從て更

巨岩渾底より拔超し、直立數十丈、高く崖上に出づ古松を裝り翠篁を帶び、筋骨倒に張り、勢雲を穿たんと欲す、我依る所の岩壁も亦築猙獰たり、而して目睫の觀、輒して全形を窮むる能はず殊に惜むべしと爲す下流を回瞻すれば、峽勢宛轉、躡つて亦通ず又奇盡すべからざるなり、再び崖上に登れば、童兒得つこと久し、魚を炙り杯を傾ふ且眺に之を山の手下町に大別す山の手は市の西北部に位し稍高燥の地にして麹町赤坂小石川本郷等の諸區之れに屬し下町は市の東南部に在る低地にして京橋日本橋神田等の諸區之れに屬す而して商業の最も繁盛なるは下町とす殊に新橋より京橋日本橋を經て万世橋に至る間は肆店櫛比して往來織るが如し隅田川以東の平地は本所深川の兩區にして永代兩國吾妻厩橋等によりて其西部と相連る

東京はまた我國學藝の中心にして東京帝國大學第一高等學校及び高等師範學校は此所に在り其他各種の專門學校圖書館博物館等一も備らざるなし殊に私立學校は枚擧に遑まあらず產物は織物マッチ錦絵鼈甲細工淺草海苔等あり

め且飲む主人日影を顧て歸るを促す余猶戀々回顧す其家に歸れば日は全く沒せり、夜話峽に及ぶ主人曰く、地秋葉山を距る二十餘里峽勢連亘其奇往々今日觀る所の如し但危險絕特已むを得ざるにあらざれは舟楫を通せず古來數々墜崖の說あり、而して竟に行ふ能はざるあり是より先き、峽名未だ定まらず余以爲く川既に天龍と名

○天龍挾の記

公園の名高きものは淺草上野芝及び九段とす其他遊覽の地には隅田川飛鳥山の櫻龜戸の梅滝野川の紅葉等市の內外にありて最も著はる

驛路は四宿の地を經て四方に通ず即ち東海道は品川を甲州街道は內藤新宿を奥羽街道は千住中仙道は板橋よりす然れども現今交通運輸は專ら鐵道の便に依る東海鐵道は新橋より起りて京坂に通じ甲武鐵道は飯田町より起りて八王寺川越等に通ず中仙道鐵道及び東北鐵道は上野を發して北陸及び奥羽に通じ總武鐵道は本所を發して銚子に至る故に四方の貨物殊に關八州中仙道及び奥羽地方の產物は一旦此地に輻輳し商賈交通最も盛んなり

王子村は東京の北にあり近郊の勝地にして土地

○東京近郊の勝地

づく、盛稱比おし別に名を擇ふを用ゐず、且峽の魁奇なる彼が如し、安乃川の峽に由つて名を得而して其本を失ひしにあらざるを知らんやと、因つて定めて天龍峽と稱すといふ、弘化丁未四月小盡日に遊ひ遊後一日記す

紀行

太田南畝

長月末なりける頃、官務の最も靜閑あり瀧の川の楓樹不動の瀧名主の瀧あり て四季の賞遊に富めり

●品川●は東京の西にあり有名なる泉岳寺は赤穗義士の遺蹟を勒す又海晏寺は紅葉の名所にして古へ櫻花の勝地なりし御殿山等あり又其近傍に勝地尠なからず大森には昔し八景坂の稱ありし八景園及び行方彈正が花園の舊地たりし浦田の梅林あり又其西南池上には日蓮上人遷化の蹟跡と稱して有名なる本門寺あり世に名高き淺草海苔は實に此地より產出す其他矢口の渡は新田義興の故事を以て知られ生麥村は薩藩の士英人を斬殺せしを以て聞ゆ

（横濱市）は東京の西南七里にあり本邦第一の開港場にして東京より滊車は一時間にして達するを得べし本

ために參河遠江の國大井天龍川の堤普請の役に罷りて彼二つの大川に沿ひける村里をわたみて、中にも天龍川は東西深山にいたりて見れば空おそろしき禿山の崖に舟をろゐて終日落葉川を往來して夕には霜を踏んで明る曉には有明の寒月を眺め漸々二十日あまりをして、池田といへる里に着して、しばし此程のつかれをいとは

牧岬港の東南を擁し神奈川は本港の東北に接す背に園むに丘陵を以てす北部は商家櫛比し西に伊勢山公園あり又山の手一帶は幽趣にして風光に富めり

此地元と海濱の一小漁村に過ぎざりしが安政年間互市場となし外人に居住を許せしより以來內外の船舶常に出入し百般の貨物輻輳し今日の如き繁華を極むるに至れり

（浦和）は東京の北に當れる驛路にして東京上野より滊車四十五分程の所にあり埼玉縣廳の所在地なり公園は驛の南端にあり森林蓊鬱として頗る幽靜なり又西北に興野の公園あり地は一丘陵を爲して眺望佳絕なり

●大宮●は東京近傍の勝地にして武藏總鎭守と仰く

すゐる夕暮のいとつれづれあるに、思はず筆とり案るに松吹く風のすげあく耳にさへぎりてまた明ぬれば山鳩の梢に啼けるさみしさに、我故郷も程遠く旅寝心もうつ〳〵と、寒き日すがをおくるこそ、誠に官務のためならむか、唯うきともかおしとも、もの哀れともおもはれて、さおがらにひなびたる田家のさまもすこしは風流のはし

氷川神社は此地にあり今は境内を以て公園とす社の前面に古池あり、みはらしの池と呼ぶ境内岡陵起伏し松杉繁茂す夏時納涼螢狩を以て其名高し

(八王子)は東京の西に當り甲州街道の一都會にして製絲及び機織の業盛んあり青梅には石灰を産し川越及び熊谷は武蔵の商區たり其他府中には多摩川と井の頭の池あり

●●●小金井　は多摩川上水堀両岸の芝塘に在りて櫻樹連亘す花時爛熳の時小金井橋より眺望すれば雲か雪かと疑はれ一目千里前後盡くる所を知らず千蔭翁の歌に「問わたる天の河原か咲花の雲の中行く水のひとすぢ」とあり此地昔し享保年間川崎定孝なる者台命を奉じ大和吉野山より移植せしといふ近傍

ともいふべけれ乎敷島の道はしらねども、そゝろ心にうかみければ

松風の音きくにだにもあちきなきうき世のたびに日かすかさねて

弘仁の頃、後醍醐天皇にくみし執權北條高時の谷によりて俊基朝臣關東へぞ下されしとき、警固の武士をかづけ、所の名を問ひたまふに、菊川と答へけるむかし平久の亂に、光近卿關境の深大寺蕎麥は其名高し

相摸

相摸は西方に箱根の諸山を控へ南は相摸灘に臨む(大船)は横濱を西に距ること凡車半時間の地にあり東海道鐵道は是れより一支線を三浦半島に分派し南横須賀に至る

(鎌倉)は三浦半島の西北に在りて三面丘陵を以て圍繞し前には相摸灘を控へ其切通は舊時の要害たり昔源頼朝覇府を此地に開きしより以來源氏北條氏執政の地なるを以て名勝古跡頗る多く鶴ヶ岡八幡建長寺圓覺寺壽福寺等の有名なる社寺尚ほ存す其他著名なるものは頼朝館跡畠山重忠宅趾高時一門の滅亡せし葛

東へぞ下されしが、此宿に
と討せられし事を思ひあ
はされてや、

いにしへもかゝるため
しを菊川のおあじなが
れに身をやしづめむ、

と矢立出し宿の柱に書れ
たりと聞けるが此程冬半
なりける頃、官務の爲に此
菊川を旅行し荒果まさる
賤が臥家を見るにつけて
むかしを思ひ出てければ

おもひきや名にろむか

西谷安國寺(日蓮上人の立正安國論を書せし所)新田義貞の北條攻伐の時刀を海上に投せし稻村崎鎌倉五名水足利、直義が讒良親王を幽閉せし土窟あり由井ケ濱腰越亦史上に名高し

(江之島)は鎌倉の西凡二里の海岸にあり藤澤より一條の沙路と通ト て片瀬に至る巖巖絶壁の孤島にして中に辨財天を安置す遙かに富士箱根天城の諸山を雲際に望み風景佳絶なり產物は貝細工及ひ鮑とす

(横須賀)は鎌倉を距る南東凡車三十分の所に在りて東京灣に臨む東洋第一の造船場あり海軍鎮守府の所在地たり驛中家康に用ゐられたる英人アダムスの墓あり

(浦賀港)は横須賀の南方數里にあり亞米利加軍艦始め

しを菊川の冬枯れまさる夕暮の里、

又うつの山蔦の細道は名所ありければ

冬深き蔦の細道踏わけて夢路たえざるうつの山越

駿河路

香川景樹

十一日吉原を出づ河原宿よりかへり見れば富士の嶺曇りおしすべて山足東

て我國に來りし所あるを以て開國の史上に著名あり其東端觀音崎は房總半島の富津崎と相對し東京灣の咽喉を扼する要害の地にして殊に砲臺の設けあり

大磯は海水浴に宜し此地昔し鎌倉の盛時には歌吹絃舞の繁華地にして亦古跡に富む其鳴立澤は西行法師奥州へ赴く時此の地を過ぎて「心あき身にもあはれはしられけり鳴立澤の秋の夕暮」の古歌を殘せし有名の地なり

(小田原)は北條九十五年間の金城にして今猶ほ太閤御陣所は青松林立して其跡を殘せり有名ある產物は梅干鹽辛砂糖漬とす西に箱根山あり山中温泉多し其重あるものは湯本、塔之澤、堂ケ島、宮之下、底倉、木賀、蘆之湯小涌谷湯之花澤姥子仙石原是れあり

西に踏み開きうち靡きたる裾野まで端山繁山さはりあく殘るくまなく見えわたれば此わたりより中郷までの間なるべしさてうるひ川蓼原とくるぱ又立ちかくしたり

大方は雪と雲とにうづもれぬあまりに高き富士の山かな

人もかくころあらめ吹上にくれば田子の浦見えわたる、坂中の榜木に今朝散

箱根嶺は東海道中の難處と稱せられ箱根驛は古來繁華ありしが今は寂寥となり唯内外人の避暑に來るものあるのみ山中名勝多く塔之澤の霧濕堂ケ島の白糸の瀧底倉の阿字ケ池大涌谷の千條の瀧等殊に著名あり

蘆の湖は東西二十町南北一里十三町周回四里餘其水流溢れて早川とある湖中に一の半島あり塔ケ島といふ今箱根離宮のある所あり名高き箱根の倒富士ありて風景畫圖の如し又早川の下流早川尻に細川幽齋の「みろきせし袖ころ濡るれ老の涙移る月日も早川の瀬に」と詠せし所紅葉の名勝たる長興山玉垂の瀧等あり

りし甲斐の落葉や田子の浦、といへる芭蕉の句を書きつけたり、其落葉とも見るばかり、數の釣舟ちり亂れたるいはん方なし蒲原を過ぎて由比にとまる、さて此家の庭さきなる汀の松あをよくよく見れば、だりつる時あまり磯ぎはの波騷がしとてやどりあへず立ち出でし宿なり、さるはかたはらいたく面ぶせなる心地すれどかれは

安房

安房は所謂總房半島の南端に位する一小國なり北は鋸山清澄山等西より東に走りて國境を劃す其極端に野島崎の燈臺あり洲崎は相摸の三崎と相對して東京灣の門をなす富山は馬琴の八犬傳を以て其名殊に著はる

（館山、北條）は此國の名邑なり西に館山灣を控へ殊に海水浴に名あり此地は漁獵最も盛んにして鰹鮪鰮の水産物に富み毎日之れを館山近傍より東京に輸送す又房州砂石材及び木材を産出す

上總

得見知らず

契をや由比の濱松かへり來て立ちよる蔭の波を見るかな

はたして今宵賤られねば
ひる見れど飽かぬ田子の
浦といひし古人の心をも
思ひ出でられて、やをら起
き出でゝ見るに、月はいづ
くよりさすらん、波の上と
ころ〳〵おぼろに白く、見
あれぬけしきめづらしき
物から、いとすごき心地す

上總は總房半島の北部を占め東岸は所謂九十九里濱にして西方一帶東京灣を控ゆ其灣口に富津洲斗出し長サ三里餘に及ぶ此洲潮滿れば隱れて見えず故に隱洲といふ浮標を置きて行舟に便す軍事上要害の處たるを以て砲臺を設く木更津は上總の要津なれども遠淺にして船舶の出入に便あらず

下總

下總は北及び西は一帶利根川及江戸川を隔て國境を劃し關東平野の一部を占め頗る運輸灌漑の便に富む(千葉)は東京本所より滊車一時間を經ずして達するを得べし千葉縣廳の所在地にして第一高等學校醫學部の設けあり又千葉神社猪の鼻台あり南端葵川に君待

れば引きたてゝ入りぬ、いよ〳〵目も合はず

あらためていかに枕を由比の濱春より高き波の音かな

十二日朝とく出でゝ由比川をわたり寺尾の松原を過ぎて薩埵山にかゝる、伊豆の海はるかに日影にはひわたれり、弓手の方を見れば磯山蔭の上より

さやかにもあらはれそめし富士の嶺にさしむ

橋あり藤原實方が陸奥へ流さるゝ時「塞川や思ひが浦にたつ煙り君をまつ橋身にぞ知らるゝ」と詠みしを以て其名世に高し又治承年間千葉介常胤源頼朝を此橋上に迎へたりといふ

(佐倉)は國内屈指の名邑にして元と堀田氏の城邑なり現時師團の設けあり將門山には平將門の築きたる城址、公津村には宗吾の靈堂あり

(成田)は佐倉及び千葉を經て東京に通ずる滊車の便あり不動堂あるを以て市街頗る殷賑を極む

(市川)は江戸川に臨める都會にして國府臺の下に在り東京を距る三里あり教導團の設けあり小金原あり其習志野は明治六年陸軍演習の際　主上の命名し玉へる所なり

かひたる朝づく日かなおのれ麓を臨みていはく關の昔もなつかしきに、いざ彼見ゆる磯邊におりて岩根づたひの古道を行かんはいかに荷負へる男がいはく、さらばあとある倉澤よりこそおり給ふべけれ、目の下にころ見え侍れ此峠よりくだる事はいと難かるわざにてもとよりさる道も侍らず、よしやおり立ち給ふとも親知ら

●國府臺　は江戸川東岸の岡陵をいふ斷崖直に水際に壁立して古松之れを點綴し鐘ヶ淵羅漢井等の名今尚ほ存す此地は太田道灌の陣して土寇を平らげ又足利義明の北條氏と戰ひし有名の古戰場あり其他眞間の浦眞間の繼橋等ありて古歌多し万葉集に歌あり、あのおとせず行かむ駒もか葛飾の眞間の繼橋やす通はむ」然れども今は唯その名のみ存ぜり

(銚子)は國の南端利根川口に在り總武鐵道に依りて東京に達するを得べく利根及び其下流の湖沼に依りて各地に通ずる便あるを以て船舶貨物輻輳し布況頗る繁華なり銚子鯖は其名世に高し其極端犬吠ヶ岬に燈臺あり西南九十九里濱は鰯を以て有名なり其他流山は味淋を出し野田は醤油を産し行德は鹽を以て紺城

すのあたりは此ほぜこえ入り侍りて、つたひ行くことといとからく侍りおん、おのれいはく、さてこそは關もる波のかひはありけれいざやまづ分け試みんとて荷おど物せさせて孝一をば先へ遣はし、節は親民二人をひきゐて、たゝちに踏みくだる、小松高がや、限りもおく茂りおだりて更に道おきものから、けはしくもけはしければ、さるし

紬を以て何れも有名あり殊に佐原は地學の泰斗伊能忠敬翁の生地あるを以て世に知らる

印幡沼は國の北部にあり東西凡二里南北凡そ七里周回四十有二里沿岸の風景佳絶なり

常陸

常陸は東海道の東北端にして利根川以北に在り東一帶鹿島灘に面す地勢一般に平坦なれども北部は山岳重疊す

●筑波山　は平野の際に聳え男体女体の双峰あり此山關東八州平遠の間に屹立するを以て大に名を知らるその霞浦は一大湖にして東西七里南北七里其周回三十六里に及べり是れ近江琵琶湖に亞くもの

げみにさはりつゝも一人ですべり行く、手も顔もかきさきて、いとたへがたき中に、うめき出でたる

岩木山まとへるかづちとりすがり苦しき目にもかゝる富士の嶽

また取りたる力草のさとかをれを見れば藤袴ありけり

藤袴たれぬぎすてゝくだりけん我のみと思ふ山のとかげに、

くだるまに〳〵、何にやちん、針ある木のしもと原にしてあらゆる葛はひまとびゝしがらみかくる小男鹿の胸わけするに似たり、節さきにすゝみて刀もて切り拂ふ、もとより踏みし跡もなければ、おのがむきむきにわかれて、をり〳〵に互に呼びかはすめり其聲も聞えずあれゝば、もし麓の崖路を踏みおとして波にもやおぼれつらん、あど思ひすぐすに、いと恐ろ

本邦第二の湖なり

(水戸市)は關東平野の北端にありて那珂川に臨み南に千波沼を擁し湊磯濱を距る三里に位す德川三家の一なる水戸侯の舊城地にして市を上市下市の二に分つ茨城縣廳の在る所なり常盤公園は元と偕樂園と稱し日本三公園の一なり西南常盤村に在り德川齊昭の初めて開きしものにして烈公の遊息所たりし樂壽樓好文亭阿陋庵等あり第二公園は元と弘道館の在りし所にして上市三の丸にあり大洗海水浴場は東三里に在り後山に大洗磯崎神社あり白砂青松の間に鹿島灘を望み縣下第一の勝區とす煙草莨菪砥石及び寒水石は名產なり水戸鐵道は下野の小山に至り東北鐵道に接續す

(湊)は那珂川口にあり漁船の便によりて水戸市と相通ず久慈は久慈川口に在り土浦は霞ヶ浦の西北岸に臨める都會にして水戸鐵道の途に當る其他笠間下館亦名邑なり平潟は國の最北に在る要港なり

東海道の氣候は概ね温和にして寒暖宜しきを得たり極暑凡三十四度極寒零下四度(攝氏)にして伊勢遠江伊豆の諸國は南に斗出するを以て稍暖なり

○東山道地方

東山道は本州の中央部より長く東北に延び東海道の背に當る全道山岳多くして土地高し大河は皆源を此の地に發して四方に流る本道の南部に在りて東西に横はり海に面せざる地方を中山道と稱し北部にあり

しきまでなりぬれば、さて止まんやとは、猶すゝみくだる麓より節呼ばひて、むげにけはしく侍れば、わづかにしておりさる事かない侍らずといふ壁、波と共に響きたり飛び下りんはいかに〳〵、いなやわづかといへど猶一二丈も侍るべし、太刀佩きながらは、きはめてあやまち侍らんと云ふ、あゝあぬたしや、何かは來りけん

て南北に横はるものは奥羽の地にして東西北の三面海に臨む北端は津輕海峽を經て北海道に對し北部の西方は日本海に面し其東方と渺茫たる太平洋に洗はる

近江

近江は關ヶ原以西の地にして四圍山岳を以て繞れり中央琵琶湖畔は稍平野をなせり周圍六十餘里本邦第一の湖あり昔し孝靈天皇の御宇一夜にして開け同時に富士山を湧出すと湖水は風致に富み中に竹生島沖の島奥、多景の四島ありて漁船の往來繁く交通便利なり此湖四周の水を集めて之れを西南に送る乃ち勢田川にして其水流れて山城に入り宇治川と稱せらる

磯ぎはにおりたちかねて白波のかへるぞ田子のうらみなりける

さらばとて踏みかへすも猶やすからず、今は草鞋の底もこと〳〵くぬけて、いと踏みしめがたきを、ねんごろつゝ這ひのぼるに、岡めく處あり、皆そこにつゞひふして息つぎあへり、此日頃わがよむ歌を聞きのまに〳〵書いつけたりしを今のさわぎに落しけん見

五郎鮒又紅葉鮒と稱するもの此湖に生じて其名高し

（大津）は後は逢坂山を負ひ前は琵琶湖に臨む名古屋敦賀及び大坂の殆んど中央に位し京都を距る僅に三里滋賀縣廳の所在地たり湖上漁船の往來繁く東海道鐵道の線路に當り且つ疏水の便に依り京都と相通ずるを以て水陸共に運輸の便に富む

近江八景　は大津の近傍に在り八景とは石山秋月勢田長橋、粟津晴嵐、矢橋歸帆、三井寺晩鐘、堅田落雁、比良暮雪なり矢橋は草津の西一里程にあり晩帆霞にこめられて歸るさま美景あり故に八景の中に入る粟津ケ原は膳所より勢田橋本に至る街道の松原を云ふ八景の一にして義仲の戦死したる有名の古戦場あり此地翠松一帶道を挾み清澗輕く岸を打ち晴

○駿河路　○琵琶湖　○大津　○近江八景

えずありぬとて、もすそのたをりまで拂ひさがして節

をしきかな山邊海邊に
よみためし數も白玉た
れか拾はん

あかねたしといへどもかひなしさてまみれたる血をふき、汗かきのごひあゆひ引きしめて、やう〳〵もとの道にのぼりくれば時は午のさがりなり、わづかの上り下りにあたら時を嵐掬するに堪へたり藤原信尹の歌に「雲はらふ嵐につれて百船千船も浪の粟津にぞよる」と以てろの好景を知るべし

瀬田長橋は瀬田川に架せる橋にして亦八景の一なり藤原信尹の歌に「露時雨もる山遠くすぎ來つゝ夕日のわたる勢田の長橋」又芭蕉の句に「五月雨にかくれぬものや瀬田の橋」とありその風景の佳絶なるを見るべし

石山寺は亦八景の一にして怪岩奇石名狀すべからず東に瀬田川を一瞰し山寺の幽邃眞に仙境の如し紫式部の源氏物語を書たる所なり寶塔の東に月見堂あり秋霽觀月の處とす瀬田夕照矢橋歸帆肩睫の間に映じ眺望頗る佳なり藤原信尹はまた「石山や鳴

も過しにけりな、いとおぞかりしわざかな、孝一やいかに待らわびんいざと急き下りて、興津川を渡りくれば孝一待ちつけて、やかてこゝなる茶店に入りて晝飯あどものす、南面ちひらけて三保の松原前につらなり磯の巖に鵜の翅ほせるなど、わざとならず皿白きわたりなり、庵崎のこぬみの濱とよめりしも此ほとりなるべし彌生三の海こる月影は明石も須磨もほかならぬかは」と詠めり蓋し琵琶湖を鳴の海といへばなり

三井寺は八景の一にして園城寺と稱す大津の西に在り寺に上れば近く湖中の景色を臨み遠く膽吹比叡比良近江富士一眸の中に見ゆ藤原信尹の歌に「おもふろの曉ちぎる始めぞとまづきく三井の入相の鐘」又芭蕉の句に「七景は霧にかくれて三井の鐘」とあり

唐崎の松は八景の一にして湖の西岸辛崎にあり大津より一里餘枝葉殆んど百坪の地上を蔽ふて湖面に映じ頗る奇觀あり天正年間新庄直頼の栽へたるものありと藤原信尹はまた「夜の雨に音をゆづりて夕風をよろこにそ立る唐崎の松」と詠めり

月の潮干にあひて和布刈り貝拾ふなど見めでゝ酒くみしも今の心地ぞす、

沖津島鵜のみるばかり殘りけり潮干に見えし磯の岩か根、

懸けたる一軸を見れば畝拙大徳の筆おり畝やこたびは世に忍ぶ立ちの急ぎにかゝるあたりへはおべて暇申さゝりしことの暫しのほどおからいと心苦しきを、今こゝに微風吹幽堅田亦八景の一にして大津の北三里に在り十數間の堂宇あり岸より湖上に突出す之れを浮見堂といふ芭蕉の句に「鎖あけて月さし入れよ浮見堂」又信尹の歌に「峰あまた越路にまづちかき堅田にあびき落る雁がね」

比良山は八景の一にして雪を以て有名おり大津より六里餘春晩白雪を戴きて湖上の景色更に趣を添ふ信尹の歌に「雪はるゝ比良の高根の夕暮は花のさかりに、過るはるかな」此の八景は慶長年間近衛信尹公始めて膳所城の爲に撰ばれしものおりといふ

鐵道は大津より草津に至り更に關西鐵道に移り國の東南鈴鹿山脈を過ぎ伊勢四日市及び宇治山田に達するを得べし又本線は湖岸に沿ふて八幡愛知川を過ぎ

松と書かれたる一くだりを見るにもひろかに心ばかりはろおたの空になんまた普門律師もいかに思ひこし給ふらん

我を君まつは遙かにへたつれぞ吹きころ通へ

三保の浦風

なぞ、ひとりごたる、今日は思ひがけざる蘇陲の山ぶみに、おの〳〵つかれ困したればまだ早けれぞ江尻にやどる

彦根に達す鈴鹿山は國の東南隅に在り高峻おらざれども近江及び伊勢の通路に當り所謂鈴鹿嶺は其坂路を云ふ天武帝の時鈴鹿の關を置けり

(彦根)は草津を去る滊車時程一時間の所に在り井伊氏三十五万石の舊城地にして城址は金龜山に在り今一部公園とおり樂々園といふ湖岸には藍を產し彦根東南八日市には煙草を出す米原は彦根の北數里に在り越前福井に至る鐵道線路の分岐する所なり絹綿を以て有名おる長濱は米原の北滊車十五分に在り此邊一般蠶桑の業最盛おり大津と滊船の航通絶へず余吾湖其北にあり其北方おる賤ヶ岳は柴田羽柴の古戰場おり要するに湖畔は山紫水明の地にして其名殊に著はれ地勢低平にして地味膏腴頗る米穀に適す此地は所

富士賦

嵐蘭

不二は日本の蓬萊山なり むかし孝靈五年はじめて現す、徐福も此山に登りて仙藥を求め、かくや姫も神と化してこゝに靈をとゝむ峰は八葉に分れて根は四州に跨る道路は三口より登て千筋に分れ裾野は東西に長らして百里につらなり形けづりたるが如く高きこと北斗に近し、夜陰に旭をかゞやかし、夏天に雪をいたゞく山間に海をたゝえ、山上は眞砂を攀づ和國異朝類するものなく、三國名山と稱して義楚六帖に甚だほめたり、日本武尊は東夷を平らげて草薙の名をあらため、右大將頼朝はものゝふをあつめて牧狩をする鳴澤の池は俊成の仇名をとり、人穴の奥は仁田の無分別さうあり、十郎の宮五郎の社、西行謂近江商人と稱し行商を以て名あり就中八幡日野五箇庄を商業繁盛の地とす姉川は北高月に至る中間に在りて織田信長の淺井長政と戰ひし有名の古戦場なり

美濃

美濃は鈴鹿山脈及び揖斐吹以東の地にして木曾川飛彈川長良川及揖斐川の灌漑地なり脂吹山は日本武尊毒霧に中りたまひし有名の山なり古へ蓬を產す其南方の平原には不破の關趾あり故に此の平原を關ヶ原といふ德川氏天下分ヶ目の古戦場なり近江の米原を距ること流車時程四十五分の所に在り養老の瀧は平原の南ある多度の山中に在り秋に至れば楓樹錦を敷く

(大垣)は關ヶ原の東方流車時程一時間の所に在り戸田氏の城址あり今公園となる長良川其東を貫流し霖雨の際は屢ば水害を被る其西なる赤坂は有名なる大理石の產地たり

(岐阜市)は大垣の東流車時程三十分餘の所に在り鵜飼を以て有名なる長良川に臨み東に稻葉山を控へ商業頗る盛なり岐阜縣廳を此所に置く稻葉山の南麓には名高き篠谷の梅林あり此國は提灯團扇及び縮緬の名產あり又磁器陶器及び紙の製出盛んにして且つ水利に富み米の產出殊に夥し

飛彈

飛彈は地勢高峻山岳重疊し國中至る所連山起伏す而

は五文字をすへかね、探幽は墨色にあぐむ、煙は古今の序に二流によまれ、雲は廻船に怖れて一尺八寸の號をといむ、神定の人は寶冠に頭をつゝみ下血道は小袖の砂をふるふ絶頂の終年腹の雀、巣鷹は大心にして伊豫の松山におとし水鳥の羽音には臆病になつて都の方ににぐる、ふじ海苔不盡灰富士甘草ふじ黄芪、栗柿松檜の木のたぐ

して信濃の境には飛彈山脈北より南に馳せ鎗ケ岳乘鞍岳及び御嶽の秀峰を起す其支脈國の中部を西より東に連亘するを以て本國は更に南北に両分するを得べし南は益田川の沿岸地方にして專ら蠶業製糸に從事し北は宮川の流域にして業農製糸の業盛んあり

(高山)は飛驒の山中に位し岐阜を距ること三十四里にあり宮川之れを貫流す此地は海岸を距ること遠く地高きが故に寒暑の差甚しく降雨又多し高山の北西三里に古川あり古川より神原峠を踰ゆれば北東五里に神岡鑛山に接近する船津あり西南には一位の木を以て有名なる位山あり

白水の瀑布は白山裏に在り水煙濛々高サ測り知るべからず生糸春慶塗一位細工陶器は此の地の名産なり

び往還は竹の下越根原越關は足柄の關横ばしりの關あら井の渡口佐夜の山越海を隔て峰を重ね三保清見寺の見越箕根鎌倉の姿、日本、兩國の橋上には馬上の人のかうべをめぐらし、赤坂駿河臺には乘り物の窓に眸をさく遠くは朝熊山を限り近くは原よし原のあたりなるべし、諏訪の海には倒の影を浸し甲州の府には三峰に見え

又礦物及び木材を産し温泉の湧出する所亦多し

信濃

信濃は中仙道の高地にして飛彈山脈東部の地即ち十州に境する大國なり四周は山岳重疊し一帶の山脈東南八ッ岳より西飛彈山脈に連亘し河流は皆南北に分流する等地形は大に飛彈に似たり北は即ち千曲川及び犀川の流域にして南は木曾山脈に依りて木曾川及び天龍川の流域に大別せらる千曲川谷國の東北隅を占め東南は一般に高くして北に至るに從ひ漸く低下す北を善光寺平と云ひ南を佐久平といふ

(長野市)は犀川と千曲川の合流地所謂善光寺平にあり

て長野縣廳の所在地たり北は越後に南は武藏に通ず

○富士賦　○白水の瀑　○長野市

て扇の絵はこゝあるべし。昔より詩歌連俳の句數、あはせてこれをつまは、大かた此山の高さには比せむされど古今の間、たゞ一首秀でたるものは赤人の白妙なるべし、其餘は此山に對して万が一にも及ばずわが翁富士吉野の句一生おしとかや、東路に赴く人は、かく成りがたきふしの詠に心力を勞し又東路に赴かぬ人はかくあり難き

る鐵路此所を貫通し東京より九時餘にして達するを得べく市況頗る繁昌なり有名なる善光寺の大伽藍あるを以て遊客非常に夥しく爲に此の繁華を來すと云ふ地勢低平にして地味豊饒米穀に適す犀川及ひ千曲川の合流地は即ち川中島にして上杉と武田との古戰場なり

●戸隱山●　は長野の西北四里餘に在り山は屹然として東に聳え越中の列岳と奇を爭ふ北に妙高山を控へ中に安曇郡を帶て遙に望めば形碁石を敷きたるが如し全山突兀奇石怪岩を以て成り又三十三の岩窟ありて奇態云ふべからず此山極めて避暑に妙奇なるを以て夏期に至れば登山する者多し

(上田)は長野を距る滝車一時間餘の所にあり養蠶紡績業盛んなり眞田昌幸の築きたる城址あり此所より鐵道國道共に東に向ひ小諸及ひ追分の各邑を過ぎて輕井澤に至る輕井澤はアプト式鐵道を以て來る即ち碓氷嶺の西坂の中腹高原の内にあり四面山を繞らし遠く淺間の煙を望み近く離山に對し眺望佳絶あり

碓氷峠は日本武尊東征の時此の嶺に上り東望して橘姫を戀ひ嘆して吾嬬者耶と宣ひしかば是れより東國を吾嬬と云ふと史上に著はる山中に霧積温泉あり極めて幽邃あり峠の北方信濃上野の境に活火山淺間山あり凡百餘年前に破裂あり噴煙今に至て絶へず其麓に淺間温泉あり

●姨捨山●　は上田の北西千曲川の左岸にあり東鋭峯山を望み西猿ヶ番場嶺に連る山下に水田あり毎年

富士を見ずして一生を終るも、ともに殘り多きことなるべし

熱海紀行

横井也有

府君の御母公浴させ給はんとて延享のことし江戸より豆州の熱海と云べる所へ渡らせ給ふ御供仕うまつり薬月の二十九日江戸を出で熱海に至るは長月二日あり

草の名に月の旅寢も二

日から

此里のさま後に山廻り前に海近くしていさ見ぬ須磨の景色もかくやあらんと折から秋の暇覺も心澄む旅寢にぞありける湯本は殊に我宿の後に近ければ日夜に六度ばかりおどろ〳〵しく湧き出づる音高く山水浦波に響きあひて喧しきものから世の中と渡りくらべては如何にとか云ふべき網引き釣す

中秋には月滿て銀地に躍り田毎に其月影を映す故に田毎の月といふ又其地邑名を更級の田毎の月ともいふ

（松本市）は國の中央に在り養蠶甚だ盛にして市街頗る殷賑なり松代は舊眞田氏の城下にして有名なる佐久間象山は此地より出でたり

犀川谷は信濃の西北部に在り北に狹く南に廣し松本平は此廣地に在り木曾川谷は信濃の南西に位し地勢高峻なるが故に谿谷急峻世に名高き木曾の棧道とは即ち此谿谷に通ずる道路にして其急湍は良材を輸送するの通路たり天龍川谷は木曾谷より廣濶にして湖水近傍は諏訪平といひ其西南狹長の地を伊那谷と稱す國中最も温暖なる部分にして果實の栽培に適し養蠶極めて盛んなり

（飯田）は伊那の中央に在り南の方參、駿に達する要衝に當り人馬の往來頻繁なり諏訪湖の北方にして温泉を以て有名なる上諏訪は中仙道の通路に當る夫れより和田峠を踰へ佐久平に至れば碓氷峠に通ずる鐵道及び國道に連絡す其以東は即ち關東八州の一部なり

本道の東豐野には琵琶池閑滿瀑の勝地あり佐久間象山此の瀑を愛して雲錦と稱せり又柏原の野尻には絶勝の湖あり一に野尻の湖と云ふ其形富士山に似たるを以て文人墨客之れを芙蓉湖と呼ぶ

此國は繭生糸の產額に富むこと本邦第一にして又更科蕎麥は世に著名なり

るわざもあれぞおりたちて已が世のたつきとするものは少し耳あれぬ魚の名ともうづは、はまち、ろうたあと後には自から覺えて曾云ふ山田色づく頃にて鹿追ふ小屋に引板引鳴すあど珍らしう哀れなり鹿の聲は夜もすがら聞えて夕霧の卷あど讀む心地す

夜は湯にぬれさす袖を鹿の聲

月は殊に海より出でゝ山に入る宵々のおがめえおらず浪寄する浦の景色我宿の東面よりもくまなく見えわたれば明若欄干にうちもたれて烏帽子着たらましかば我を屏風の畫に描くべきをと笑ふ

ほし棹のこれにも月やねれ浴衣
尾花散る方へはひけりうらの波
打ちませて浪にまけた

上野

上野は地勢北方に廣く東南一帶半島狀をなし下野武藏の間に斗出す東西北の三面は山岳重圍し河流は悉く南に流る

(前橋市)は上野南部の低地にあり利根川に臨む群馬縣廳の所在地たり製糸の業盛にして市況殷富なり両毛鐵道は東方下野の小山より此地に來り高崎に接す古へは此地を厩橋と唱へしが酒井氏在城の時「まやばし」「まへばし」國音相似たるを以て前橋に改めたり

(高崎)は前橋の西南瀛車時程僅か二十分に在り第一師團の分營を設く東京を距る瀛車時程凡そ三時間にして碓氷峠へは一時間を要す驛の中央に高崎城址あり

る砧かな
釣舟や案山子乘り行く波の上

主人の子彦助と云ふ年十四ばかり常に來あれて蹇の噂めきて所の事あど聞き覺えて語る彼に案内させてあたりの宮寺など見廻り漁家に茶を乞ひ樵夫に煙草の火かりて吟歩機を忘るゝ程言ひすてたる句ども例の知る人のもとへ書付けて遣はす登歩一元と和田城と稱し和田義盛の八男義國の居城ありしといふ此地四通八達の地にして其繁華前橋に亞ぐ瀛車は西南富岡を經て中小坂鑛山に連絡す

伊香保は高崎を距る七里餘にあり草津は國の東北の極端に在り共に温泉を以て名高く浴客常に雑沓す

赤城山は前橋の東北に在り妙義榛名を幷せ上毛の三名山と稱せらる頂上に大小二所の沼あり風色奇絶畫圖も及ぶ所にあらず此の沼を石垣沼といふ拾遺集に「おく山の石垣沼のみこもりに戀やわたらんあふよしをあみ」とあるを是れなり

榛名山は高崎の西北にありは全山古松老杉蓊鬱として奇巖怪石處々に起伏し溪水潺々として聲あり山上に榛名神社あり

里ばかり日金山に登れば地藏堂あり駿豆の海山眼下に連り景色言ふばかりなし富士は西に隈なく巽山の秋に別れて雪白き姿衣錦尚絅とかいへるこの山の德に比すべきにぞ四方山の錦や富士にはづかしき

中僧正の社は殊に大きある椎の木の二本のはまさにあり

御所の色にこりてや椎

妙義山は北碓氷郡を距る二里に在り山は白雲金洞金鶏の三峯より成り滿山老杉古楓多くして四時の光景に富み奇觀云ふべからず

高崎の南に佐野あり船橋の舊跡を以て名ありろの西北一里に藤原秀郷の築きし唐澤山の城址あり今公園となり多く松茸を產す國定は俠客國定忠次の生れし所なり伊勢崎桐生は織物を以て其名高し此近傍に新田義貞の始めて兵を起せし笠懸野及高山彦九郎の舊跡あり而して義貞の城址は太田の北金山の頂にあり又桐生の東北一里に高津戸の奇景ありて羽根瀑斷橋の勝あり

下野

が本湯前權現に我病を祈る新蕎麥や痼氣に利生見せ給へ

伊豆權現奉納

海と山兩部に月のくまもあし

業平井は里中にあり此處の男女常に水汲み影うつして自から妹脊の媒ともなれば言ひあらはしたりどぞ

豆ひきの影や井筒に豆

下野の地勢は大概上野と同じ

(足利)は桐生の東方數里滊車時程凡ろ三十分の所に在り古來織物を以て著名あり此地足利氏の起りし地にして小野篁の建てし足利學校の舊跡あり是より東一時餘にして小山に達す小山は東京青森間の鐵道及び水戸鐵道並に兩毛鐵道の會合する所なり

(宇都宮)は小山の北方滊車時程五十分の處にあり栃木縣廳の所在地にして舊戸田氏の城下あり鐵道は此所より分岐して二となる其一支は西北に向ひ麻の產地なる鹿沼を經て日光に至る此地に三奇人の稱ある浦生君平の碑あり

(日光)は德川家康の廟所にして幕府の盛時天下の財寶を盡して經營せしものなれば金碧燦爛壯麗を盡す男

男

平左衛門湯といふあり平左衛門かひあしとよばれば湧き出るとて里の子供の呼びて旅客に錢あどもらふ

子どもいさ呼ばれ紅葉に立田姫

中大島は遠くかすかなり

大しまや片目しぐるゝ遠目鏡

新島はちひさき島の向うに近く浮べり沖の小島は

体山は日光山彙の秀峰たり中禪寺湖其南麓に在り水清くして拭へるが如く景色頗る幽邃なり其溢れて華嚴の瀑布となり飛下すること四十丈下流を大谷河と稱す其他霧降の瀑裏見瀧等あり山水の秀靈實に海内無双と稱す此地は日光塗と稱する漆器を産す日光の南方に有名なる足尾銅山あり其奥に名高き庚申山あり又日光の近傍今市には二宮尊德の墓あり東南の直岡は木綿を以て名あり鐵道の本線は北方に進み廣漠なる那須野を過ぎて奥羽に入る

岩代

岩代は安達太郎諸山國の稍々東部を南北に走るを以て地勢は二つに分る其西部は猪苗代湖より發する日

是なりといふ又大島をいへりとも里人の傳もまちくなり

木がらしや片手にあつる島一つ

十月十三日熱海を立たせ給ひて江府へ歸らせ給ふ道すがら鎌倉に三夜ばかり御坐して寺社古跡をも御覽ず從ひ奉りて見廻る程句など言ふべき處も多かりけれど事に紛れて皆洩らしつ道をまもりの神

橋川及び其支流大川幷に唯見川の流域にして地勢北部に低下す水は悉く越後に入りて阿賀川とある東部は阿武隈川の沿岸にして地勢狹長南より北に低下す(若松)は湖の西北に在り日橋川を隔てゝ其東北に盤梯山峙つ其南麓は維新の際會津の戰場にして史上に有名あり此地方は地味磽确にして農産物に乏しく隨て工藝品の製出盛んなり會津塗會津燒鐵器及び蠟燭を以て有名あり

(福島)は板倉氏の舊城市にして福島縣廳の所在地なり蠶業最も盛んなり其東一里に有名なる信夫文字摺石あり其名産たる信夫文字摺布はしのぶ草にて製すといふ河原左大臣が「陸奥の信夫もじすり誰ゆゑに亂れ初めにし我あらおくに」と詠みたる所あり東京より濱

に向す
守りたまへ神もおたひ
の道すがら

榎の島

此神の御手にや匂ふひ
はの花
白菊が淵
十月やげに白菊の名も
むかし

龍穴

此の洞を思へば神も冬
ごもり
鎌倉にて

車時程九時餘にして達するを得紬を以て著名なる二本松は其南方流車程一時間の地にあり戊辰の戰地たり其東方は昔時安達ヶ原と稱せし地にして阿武隈川の對岸に今尚ほ黑塚の遺蹟あり平兼盛の「みちのくの安達ヶ原の黑塚に鬼こもれりと聞くはまことか」と咏せしは此處あり飯坂は溫泉を以て知られ半田は銀鑛を以て稱せらる其他郡山は生糸を以て須賀川は馬市煙草を以て安積山は采女の詠歌を以て世に知らる福島の西なる吾妻山は新火山にして地質學者の視察するもの多しといふ

安達太郎山　は一名を二本松岳といふ此地有名の高山にして海面を拔く三千尺滿山岩石峭立して古松楓樹其間に繁茂し溪水之れを環り潺湲聲あり山中に嶽の湯溫泉あり風景頗ふる佳なり

紅葉山　は驛の東端にあり阿武隈川の清流其下を環り秋時楓葉の勝地なり街南には浦生氏鄕の居り城趾あり又石那坂古戰場は佐藤基治が鎌倉の大軍に抗して死せし地あり

福島八景　は信夫山秋月、洲川落雁、小富士暮雪、福島晴嵐、信夫橋夕照、里岩夜雨、文字摺晚鐘、阿武隈川歸帆にして北畠顯家の城趾は東北四里の處にあり

磐城

磐城は阿武隈山脈南北に走り東部一帶太平洋に臨む白川は國の西南部に偏し東京を距る流車時程六時間の所にあり維新の戰地たり又馬の市場として名あり

鎌倉のかまの名さびて
枯野哉

何かしの寺にて重衡の盃
を見る

杯に銚子もそへずさむ
さかな

盛久が首の坐
盛久が命やはまのかへ
り花

鶴が岡八幡

御供して鶴も留守なり
神の松

十九日金澤の方にまはら

○熱海紀行　○安達太郎山　○紅葉山　○福島八景

せ給ふ能見堂といへるより八景を見わたす奇絶の勝景言葉にのべ難し折からうちしくれしに

八景のうちに二つ三つしぐれけり

二十一日武府へ歸らせ給ふ

蘆湖

日下勺水

芦湖は箱根万山の中に在り神異霊怪終古洩れず能土地頗る峻險實に奥羽の咽喉を扼す平は一地方の中心なり交通運輸甚だ便利あり近傍に白水炭坑あり

白河の關跡は白川を距る西南三里に在り松平定信(樂翁公)此地に一碑を建て「みやこをば霞と共に立ちしかど秋風ぞ吹く白川の關」と能因法師の歌を刻せり白川城址は市の東に在り峨々たる石壁中に感忠銘の三大字を刻せり

南湖は白河城の南半里にあり樂翁公の浚開せし所にして周回二十餘町公の名けし十七勝碑あり南湖の東に關山あり佐竹義重伊達政宗と決戰したる古戰場なり

勿來關趾は菊多郡關田村にあり源義家の「吹風を勿來の關と思へども道もせにちる山櫻かな」と咏みし所なり

中村は平に次ぐ都邑なり相馬燒を以て知らる三春は產馬地の中心にして所謂三春駒は古來駿足を以て稱せらる又棚倉は南方山間の一都邑なり

陸前

陸前は中央大山脈國の西境を劃し北上山脈北より走りて牡鹿半島をなす是より以西は即ち仙臺灣あり(仙臺市)は伊達氏の舊城地にして東北地方第一の都會なり東京を距る滊車時程十二時間の地に在り宮城縣廳第二師團司令部控訴院及び第二高等學校の設けあり青葉神社躑躅ヶ岡及び櫻ヶ岡は市内の勝地なり芭蕉の辻は市の中央にあり仙臺平八ッ橋織及び名取の

く其勝を傳ふる莫し庚辰歲八月余荒野子誠と暑を山中に避け堂島の巖潰樓に宿す所謂箱根七湯谷の一也想ふ芦湖を距る遠からずと因て其程を詢るに僅に二里餘矣初め余子誠及び丸山子堅植松有常と同遊を約す芦湖月夜の奇を覽んと欲し余と子誠と先づ發す既にして數日月に溪上を步す夜色朗然たり倍す芦湖の勝を懷ふ而

○蘆湖　○白河の關　○勿來の關　○仙臺市

して二子未だ至らず子誠も亦歸を促す余亟遊の期す可からざるを慮り遂に意を決して遊ぶ焉路を小浦谷に取り逶迤として天妃坂を躡ゆ相摸洋忽然として東に在り浦溆歷々是日天晴れて望み豁書島鎌倉皆指點す可し轉じて孖峰の下に出づ雲樹の間波光一道を見る神益す動く已にして湖上に到る夕陽山に滿ち嵐翠畫くが如し

埋木細工は世に名高し

經ヶ峰は正宗の靈廟にして廣瀨川の西に在り愛宕は市の南に峙ち松島の灣金華の峰名取の山野七ッ森の奇峰一々眼中に落つ又林子平の墓は龍雲院境内に在りその他市外に古蹟多し

宮城野は榴ヶ岡以東の平原をいふ古來有名の勝地なり今宮城野と稱するは僅々五六町にして陸軍練兵場となれり只古歌の殘れるあるのみ

をもしつる宮城か原の下露に信夫文字摺乾く夜ぞあき　匡房

宮城野の木の下露に立ぬれていく夜か鹿の妻を戀ふらん　雅有

多賀城は東南二十町にあり碑あり壺碑といふ神龜元年鎮守府將軍大野朝臣の置く所なり四境の遠近を示したる者あり古歌あり

陸奥のいはて信夫はえろしらぬかき悉してよ壺の碑　頼朝

陸奥はゆかしくぞ思はるゝつぼの石ふみ外の濱風　西行法師

末の松山は八幡村の林中にある高丘をいふ

霞立つ末の松山はの〳〵と浪に花さく横雲のら　家隆

遠望浦岩沼の東にあり大洋渺茫眺望極て可なり能因法師の「武隈の松は此度跡もなし千歲を經てや我は來つらん」と詠せし鼻輪の松の故蹟も亦近きに在りといふ

小艇西より來る者あり之を詢へば則ち姥子よりする也闘詰に據るに姥子は西北幽絶なる處に在り亦靈泉有りと余嚮きに箱根の七湯谷を記し而して未だ其勝に及ばず子誠鋭意往んと欲す是に於て舟を買ふて湖を渉る便風に帆を揚げ四山昔走る余子誠と白を浮べて絶叫し舟子を戒めて少しく棹を緩む忽ち見る奇峯舟に墜つる

を舟子曰く是れを駒岳と爲す函嶺の絶巓也と冠峯羽峯左右相峙ち環湖の峰巒突起万狀半は皆な水に入り僅に其頂を露はし島の如く嶼の如く詰曲すること彎の如く水紺碧色にして底を見ず舟子曰く其深を測るに殆んど九十尋矣と蓋し函嶺は高く雲半に入り芦湖又其上に在り一碧万頃霄漢に泛ふが如し水の深きこと知る可き

仙臺灣は本州東海岸の一大灣にして松島は灣の西部にあり之を松島灣といふ鹽釜は其灣頭にあり製鹽に適す漁車は茲より岩切に至り東北鐵道に連接す

●鹽竈　は一名千賀浦と稱す夙に松島と共に勝地を以て著はる松島に遊ばんとするものは先づ舟に乘りて行々その勝を探るを順路とす鹽釜八景は鹽釜暮煙、雛島斷雨、社頭賞春、法蓮臨湖、江郷春雪、前津泊舟、松浦秋月、壺碑懐古あり又東の沙汀を翠松磯といひ雛島は海汀を去る十餘町恰も海面に浮ぶが如し皆此の地の勝なり

●松島　は日本三景の一にして灣内群島三百餘あり波間に星羅碁布す一楫を投じて一景を變じて點々渺々一楫を搖かして新勝を見近き者は走り遠き者は舞ふ朝々暮々氣象万千眞に眼迷ひ心飛ぶの奇景あり鹽釜より海上數里群島一々異ありて或は躍り或は舞ひ或は碎け或は突立して青松其上を縫綴せり就中雄島の洞門雛島瑛ヶ崎の魚生巣の如き旅客の嘆賞して已まざる所あり其他宮戸、桂澤、象ヶ鼻、岩青、春磯、經島、福浦、燒島等の諸島皆古人の詠みし島あり又眺望の勝地は松島村の觀瀾亭(村の西月觀崎にあり元仙臺侯の遊館)手樽村にある富山にして世人松崎の景は富山に在りといふ亭の右に幽篁浦あり北畔の水汀を破浪灣荒苫汀といふ即ち松島八景の一にして竹浦夜雨是れあり俊成卿の歌に「立かへり又も來て見ん松島やをしまの苫や浪にあらすな」とあり

爾既にして而して峰々雲を吐き天色遽に變し咫尺蓊勃日已に沒す而して月見る可からず余と子誠と天を仰で悵然たり嗚呼芦湖の勝たる久し矣而して未だ嘗て其幽を闡き其秘を發する者有るを聞かず之れ有るは斯遊より始まる而して亦竟に此くの如し神靈の蘊果して覩ふ可からざる歟舟湖西に達す暝煙四合暮氣益々肅、冷堪

○蘆湖　○鹽釜　○松島

ゆ可からす老翁有り火を茅廬中に擁す就て暖を取る翁自ら言ふ年八十五と而して其健あること少壮の若く然り異境果して異人有り昏黒姥子湯に抵る戸惟だ一家四顧皆峻壁壘嶂矣明日冠峰の麓に道し大涌谷の背を攀ぢ富岳を左に顧みる其勝愈よ奇にして愈よ険なり

畵島

あり荻の濱は其東南にあり小樽横濱の航路に當り船舶の出入少からす金華山は遥かに犬吠崎に對す此處に燈臺の設けあり

金華山　は鹽釜を距る海路二十里山は宛も洋中に聳立し五峯々巒六十八區溪間四十八山腹天女堂を立つ寺を大金寺といふ北岬を二王崎といひ東岬を大箱崎と云ひ南岬を蛇穴崎といふ山水の美なること古今名勝無双の靈地といふべし

北上平原は頗る廣く米の産額多し然れども其良質あるは宮城野の産なり國の西北なる細倉鑛山は我國鉛鑛の冠たり

陸中

川田甕江

廿三日晴晨起して舟に上る杜戸を過ぎ北のかた小坪浦を指し帆を揚げて西馳し齋島に達す又江島に作る周圍里許り巖聳へて林密に神祠佛宇茶肆酒樓各勝地に倚る北は固瀬邨と一衣帶を隔て白沙平敷し以て徒行す可し猶ほ其潮溢れて路沮せんことを恐れ架するに長棧を以てす乃ち棧を渡り磴道を登陸中は北上川中流以上の地にして南より北に開く盛岡は殆と其中央に在り

(盛岡)は舊南部氏の城邑にして岩手縣廳の所在地たり青森に通する要路に當り仙臺より流車時程六時三十分間にて達するを得べし紬鉄瓶の産あり市の西方に南部富士聳つ岩手山といふ風色絶美なり一の關は盛岡に亞ぐ都邑にして國の南方に在り

安倍貞任が討死せし衣川柵は衣川村にあり又義經の討死したる平泉館は何れも一の關の北方に在り有名ある中尊寺は古來日光に比すべき塔宇なりしが中古燒失に罹り今僅かに金色堂經藏堂の二宇を殘せりその西北嚴美村の五串瀧は景致の幽邃なる殆んど木伝の寢覺に似たり

る祠宇有り下宮と曰ふ又登れば上宮に詣る華表を過ぐ右に一宇を見る是れを本社と爲す並に辨財天を祀る社外は地平に西南の一隅に小亭を設く俯して滄溟に臨み遙峰起伏し富峰殊に雲表に聳ゑ而して大磯小磯亦水煙渺茫の中に在り縮遠鏡を取て之れを望めば孤嶼波間に浮び頭に白石を戴き上尖りて下直く形古烏帽に類す

陸奥

陸奥は本州の北端に位し西は日本海に臨み東は大平洋に面し津輕海峽を隔てゝ遙かに北海道に對す斗南半島及び津輕半島は北方に斗出して內に陸奥灣を擁す斗南半島の恐山は其脈延いて南に走り八甲田山を起し更に南に赴く故に國の地勢は自ら東西に分る東部は低平にして馬淵相坂の諸流は東に流る十和田湖は相坂川の水源にして周圍十里あり西部には岩木川北流して十三潟に注ぐ沿岸は稍平坦地味は豊饒にして頗る米穀に適す瀛車は盛岡より來り國の東岸に沿ひ野邊地港を過ぎ西に折れ小港を經て青森に至る

呼んで烏帽殿と爲す近日世人喜んで洋服を着け其舊制を守る者は目して頑夫と爲す則ち此れ亦頑と謂ふ可き耳亭下に蟠石風潮呑吐す而して斷崖削立す暗窟有り焉亦辨財天を祀る東鏡に之を龍穴と謂ひ北國紀行に之れを蓬萊湖と謂ふ炬を把りて而して入るに左右兩穴金剛界と曰ひ胎藏界と曰ふ各石佛石獅等を安す相傳ふ弘

(青森)は青森縣廳の所在地にして第四旅團司令部の設けあり東京より瀛車時程二十六時十分間にして達するを得べし縣下第一の良港にして東京及び函館間に瀛船の便あり野邊地の北に馬門あり戊辰の役津輕兵と南部兵と激戰せし所あり

外ケ濱は青森灣內上磯より野邊地までをいふ此の瀕海頗る名勝に富み風光明媚古來歌人の咏唱する所なり西行法師の歌に「みちのくのおくゆかしくも思ほゆる壺のいしぶみろとの濱風」とあり

青森より西北の山を越ゆれば二十四哩にして弘前市に達す

(弘前)は國中第一の都會にして津輕氏の舊城地たり今第八師團の衛戍あり岩木川に臨み商賈繁盛漆器を產

仁中僧空海唐より歸て法を此に修む種々の石像は即ち空海が造る所也と此間泉滴たりて氣冷炬火將に燼せんとす暗中摸捉頭觸れ足蹶づく衆懼れ匍匐して穴より出づ時に漁夫群集して客を呼ぶ客錢を與ふれば輙ち沒淵して鰒を捕ふ錢多ければ則ち沒することと深くして鰒大なり少なければ則ち是れに反す阿培果して神佛より

す岩木山は其形富嶽に似たるを以て世に津輕富士と稱し休火山に屬す鐵道は是より南して碇ヶ關に終る奥羽地方は一般に石器時代の遺跡に富み地中より石器・土器骨角器等の精巧あるものを出す殊に青森の西北にある龜ヶ岡は古來より遺物を出すを以て有名なり

羽後

羽後は山脈國を南北に分つ北部は能代川及び其支流阿仁川の流域にして南部は御物川の灌漑地なり何れも田野開け米穀に適す

(秋田市)は御物川口に在り佐竹氏の舊城地たり秋田縣廳を此所に置く商業頗る繁盛又機業地たり秋田畝織

靈おり矣初來る時列肆叫んで貝器を賣る喧鬧厭ふ可し因て別路より還り岩本樓に憩ふ日方に亭午舟師歸を促す七里濱に傍ふて東行す

武藏野紀行

北條氏康

天文十五年仲秋の頃武藏野を見んとて此の年月思ひ立ちぬることなれば、人々數多打連れて小鷹狩し八丈縞等を出す又秋田蕗の名產あり

(能代港)は能代川口に在り市況繁盛春慶塗を以て有名なり

(土崎港)は秋田の北二里に在り船舶の碇泊に便なり金銀山たる院內は南方にあり銀銅山たる阿仁は北方にあり

男鹿半島は勝區舊蹟多く陸前の松島と共に風光明媚を以て名あり旅客島廻りと稱し西南海岸を巡遊す

羽前

羽前は北部の西面一帶に日本海に瀕し南方は半島狀をなし岩代の方に斗出す最上川谷は最も開け人文活潑なり酒田は最上川口にある要港にして船舶の出

て遊ばんとて、皆々狩の裝束して馬に打乘りまづ鎌倉に詣でけるあなたの古跡を眺め、八幡山より四方の景色を眺め、小磯大磯を見わたせば鷺巷や鷗の波に立ち騷ぐを見れば、

をしきもの立つ白波のいろべよりあまのみるめを袖にかけはや

大磯の波路をわけて行く舟はうき世を渡るたつきあるらん、

多し

（山形）は元と最上町と稱せし地にして山形縣廳の所在地なり米澤は機業盛んにして米澤織及び精好織を以て有名なり

新庄は秋田より山形に通ずる要路に當り龜綾織を產し般賑の地なり鶴岡は酒田の南方七里最上川の一支流に臨み又繁華の都會なり

本道は土地高く山岳多きが故に寒氣强し殊に信濃及び奥羽は亙寒なり極暑凡三十四度極寒凡零下十一度なり

○北陸道地方

北陸道は日本海に沿ひたる一帶の地にして東南に山脈蜿蜒起伏し西北は山陰道に界す地勢は概して背後に高くして日本海岸に至るに從ひ緩斜をなし殊に越後の中部は大なる低地にして謂ゆる越後の平野是れなり海岸は出入少く良港に乏し獨り若狹の地灣入して鋸齒形をなすものと能登半島の海中に斗出して富山灣七尾灣を抱くあるのみ

越後

越後は本道の最大國にして東南及び西方に山を負ひ信濃阿賀兩河の流域は最も廣濶の沃野をなし地味膏腴にして米穀に適す

（新潟）は信濃川口に在り新潟縣廳の所在地にして五港の一なり內外水陸の運輸共に便利にして市況頗る繁

過ぎにし庚子の歲宿願のことありて此の宮に詣でけるがやう〳〵八年あまりにやありぬらんと覺え侍る、若宮の御前にまゐりて、

左のみ來し身はものゝふの八幡山いのる契りは萬代までも

さて此處彼處の谷々山々を眺めあくれば藤澤の北由比の濱、大鳥居古寺古跡松井の庄に、三田彈正忠氏

宗が宿所に一夜を明して行くに、此あん小棱の磯といふ、

きのふ立ちけふこゆる
きの磯の波いそいで行
かん夕暮の道、

頃は八月上旬、朝霧深く、分入りて行くに山あり、岩山と云ふ此の山の後は甲斐の山、北は秩父あと申し侍るゝれより武蔵の國勝沼といふ所に著きぬ齋藤加賀守守元此の所の領主あ

り、つねつね道々のこと申しかよはしければ、山海の珍物數を盡し饗應ける、此の所に二日逗留してそれより武蔵野を狩り行くにまことに行くともはてのあらばこそ、萩、湖、女郎花の露に宿れる虫の聲々哀れを催すばかりなり

武蔵野といづれを指して分入らん行くも歸るもはてしなければ

古の草のゆかしもあつか

榮を極むれども信濃川の泥砂年々沈積すること夥しく爲めに河口は遠淺にして船舶の碇泊に便あらず大なる漕船は殆んど一哩外に止まり小漕船を以て荷物を運送するといふ故に碇泊中と雖も風波起るときは難を佐渡の夷港に避けざるべからず從て冬日波暴き時は船舶の寄港するもの稀あり新潟の東南に五泉平あり糸織を以て名あり東方阿賀川の北方に新發田あり第二師團の分營を置く頗る盛んあり長岡は信濃川の右岸新潟より十七里の上流に在り日々漕船の往復あり維新の戰地たるを以て今世史上に著はる絹織物を以て名高し南に小千谷あり縮布透綾を産す

(高田)は西部中央の平原にありて東京を距る汽車時程十一時四十四分の所にあり新潟に次ぐ都會にして元

徳川家四天王の一人榊原氏の城下あり壽永寺に上杉謙信の軍扇ありといふ此近傍は石油を産するを以て名あり又深雪地として知らる此所より北の方十三分時に直江津あり

(直江津)は北方海岸に面し關川の西畔に位す船舶の出入多く運輸の業に從ふもの少からず其西方春日山に上杉謙信の古城址あり汽車は此所より柏崎に至りて終る

直江津より西方越中に至るの地は妙高燒山の諸山南北に馳せ山岳起伏して地味肥沃あらず其越中との國境には飛彈山脈の北端海中に突出して有名なる親不知子不知の難所をなす又直江津より東方の海岸には出雲崎あり佐渡に渡るの要津あり

しけれはあり、此も紫の一本ゆゑなるべし

隔つおよ我が世の中の人なれば知るもしらぬも草のひともと

あくれば八月十三日、秋霧いよ〳〵深くして道もさだかに見えわかず、馬にまかせて行くに長井の庄にも着きぬ、まことや若紫の巻に、かゝる朝露をわけ入らんとあるも是なるべし大澤の庄などを行くに、やあらし川の谷には臭水(又は草生水)と稱し石油の地中より湧き出る所多し又火井とて地中より自ら石炭瓦斯の噴起する所あり土人は「あろう火」と唱へて竹筒を以て之れを屋内に引き火を點じて燈火の代りに用ふと云ふ草生水と共に越後七不思議の一に數へられ又後にては清酒を醸造する者多くろの高掘津に次ぐ

佐渡

佐渡は海上に在る孤島にして出雲崎の北方十一里餘に在りその形恰も分銅の如く南部北部共に東西に走る山脈あり其中央は低地にして米穀の産出に適す有名なる鑛山を有する相川は西南に在り金北山は北方

う〳〵隅田川にも着きぬ河面を見れば、まことに白き鳥の嘴と足と赤き鳥の群れ居て魚をくふありさま、昔を思ひ出でゝ

都鳥すみだ川原に船はあれどたゞ其人は名のみありはら、

向は安房上總、まのあたりに見えわたる玆に葛西の庄淨興寺の長老年八十餘に及べるが、迎ひに出でられ寺内に立寄り、一宿すべ

(相川)は眞野の入江に臨み島中第一繁華の地にして金銀の産出夥しく人民又漁業に從事するもの鮮からず其近傍眞野に順德天皇の御陵あり金北山の東北には夷港ありて灣に臨み對岸の港町と相對し泊舟に便あり島の南岸には亦泊、小木の二港あり共に本州との交通盛んなり

越中

越中は東西南の三方は山岳重疊して國境を劃し北方一面は日本海に向て低下し海岸一帶沃野をなす故に河流は悉く北に流る越後の界に大蓮華山あり此國第一の高山なり其西南に立山あり高さ之れに次ぐ此等の諸山脈は延ひて信濃飛彈の境上に及ぶ所謂飛彈山

き由申されければ河を渡り彼の寺に行きて一宿するに夜に入り風冷かに吹きたり、松風入琴といふ事を思ひ出でゝ

松風の吹く聲聞けばよもすがらしらべ異なる音こそかはらぬ

あくれは駒をはやめ歸らんとて舊の道にさしかゝり、いつこよろぎの磯づたひ日數程りて今日は八月中旬にもなりぬ小田原に脈是れあり

（富山）は神通川の下流右岸にあり越中の都會にして富山縣廳の所在地たり第三師團の分營あり古來藥種商多く又鐵器を以て名あり富山の北神通の河口に東岩瀬あり富山附近の物貨は概ね此の港に依る是より東數里の海岸に魚津あり海陸の運輸便利にして商工及び漁業盛あり

（伏木）は國中第一の要港にして莊川の末流射水河口に在り船舶の出入多く特別輸出港の一たり東岩瀬魚津等を經て泊江津に通ず燈臺あり對岸に新港あり漁業甚た盛なり莊川支流小矢部川を上れば西に高岡市あり

（高岡）は國内第二の都會なり商工業大に開け鐵器及び

漆器を産す其以西は昔源義仲が平維盛を破りたる倶利迦羅峠（礪波山）あり峠を越ゆれば加賀に入る

加賀

加賀は南方には有名なる白山雲表に聳え其脈東西に延き國の東部は山岳重疊し地勢稍く西北に低下す故に河流は悉く西北に流る

（金澤）は舊名を尾山と稱し國の東北部に在り北陸道第一の都會にして前田氏累代の城市たりし所なり犀川及び淺野川に跨る石川縣廳の所在地にして第九師團の衛戍第四高等學校の設けあり工職商業等頗る活潑にして象眼細工陶器銅器等は殊に著名あり

金澤の西北二里の海岸犀川の河口に接して釜石港あ

ころ着きにけれ

武藏古戰場記

淇園

武を崇め嶽の高きに藏して神威を承平に和にしめし、文を黎民の際にやわげ、德を國家の仁政にしきぬる、むさしの國御嶽の山は叔倉子義を違へぬ標有梅の青梅の里まで、江戸を去ること十有三里にして、行程に山河橋陵あし青梅村

中金剛精舍古樹の梅あり四時實を結び、熟すれども綠の色をかへざるが故に青梅の名あり、連山西北をめぐりてさながら絶壁に似たり閭巷を過ぐること十町ばかり、貉澤を下れば溪路斜にして棧あり、村落に流を入れたり、ゐあたの和田といふ、朝日にむかふ名なるべし、一願すれば多摩川の流を隔てゝ山々水にそばだち、石にむせぶ流り頗る繁華の地なり然れども海淺きを以て大船を碇泊するに便ならず又此地より敦賀に達するを得べし西南八里餘の所に小松あり昔の安宅の關は西北に在りと雖も加賀の海岸は一般に土地の降下作用行はるゝ所にして今陸を距る一里許の海中にありしといふ陶器木綿を產出す尙ほ西南五里越前の境に近く大聖寺あり繁盛の商地あり其北に篠原古戰場あり海岸にして青松蒼々たり又北方九谷より出づる陶器は殊に著名あり、

能登

能登は日本海沿岸の最大なる半島にして寶達山脈の支脈國の中央に連亘す其北方に西南より斜に東北に

の音谷にひゞき、人のあらそひかたるが如し、山河すべて紆糾して數里の間に屈曲し、巖にかくれ谷にあらはれさらす調布さらさらにと詠じたる、昔の歌の姿なり山登えては頂に露臺のあとをとゞめ岸崩れては石に楯澤の名を殘し往古に戰場の樞要たるも陰鬱たる叢澤となりて、僅に山がつの樵路をわかち露深くして草舊壘の礎を亘る平地あり耕作に適す是より以北は火山質にして地味頗る磽确なり從て製鹽及漁業盛んあり

(輪島)は北海岸に在り國中第一の都會にして精巧なる漆器輪島塗を以て有名なり是より半島は遙かに北方佐渡に向て突出す其先端は即ち綠剛岬にして燈臺の設けあり是れより南方珠洲岬に至る間は近海暗礁多く舟行頗る危險なり西南に宇出津港あり七尾灣は南岸にあり水深くして大艦巨舶を容るゝに足り市街頗る繁盛を極む特別輸出港の一たり近傍に和倉の溫泉あり灣の西邊に曹洞宗の本山總持寺あり此の國は海中に突出して土地豐饒あらざるを以て人民は專ら工業若くは海產の業に從事す就中食鹽は我國第一の產出地たり

埋め月さびしうして尾花白刃のひかりをまじへ、旌旗にひるがへりて松に白鷺を宿し翠桃枝をたれて丘に弓絃の糸をたち利鏃いたづらに田園にくゝけ、寶刀むなしく壞の中にうづめり、花鳥に時を感ずれば歌舞の榮華もまのあたりにして、月にむかしをのべるときは、錦繡にほこれる盛衰も紅葉の色のうつらふに見えたり殺氣あ

越前

越前は東北南の三面は山脈重疊し西方一帶日本海に向て緩斜をなす故に河流は多く西に向て流る海岸の出入極めて少く獨り南方若狹に近き所に敦賀灣あるのみ

（福井）は金澤に次ぐ大都會にして足羽川に跨り國の北部にあり海岸より四里を距る往時は北の庄と云ひ柴田勝家の居城ありしが其後結城秀康此に封せられ福井と改む東京より滊車時程十五時間餘の所に在り東方數里に曹洞宗の本山永平寺あり其北端に義貞を祀れる藤島神社あり南方五里日野川の沿岸に武生あり福井より京都に通ずるの要路に當り蚊帳及び鳥の子紙の製造を以て有名なり

足羽山　は市街の南に在り山の中腹に足羽神社あり左右に酒樓を列ねたり招魂社は戊辰の役戰死者の靈を祀る其他社殿堂宇所々に點々す山頂に男大迹皇子（繼體天皇の御事）の石像を立つ樹木蓊鬱として櫻楓を交へ殊に光景たり花期來遊するもの頗る多し

三國は九頭龍川口の東岸に位し其港を阪井港といふ灣内水淺くして巨船の投錨に便ならずと雖も福井に上るの咽喉を扼し國内の物貨常に輻輳す敦賀へは滊船の往復するものあれども冬季は時々杜絶することあり三國社は境内古樹繁茂し樹間より港口及び北洋を一望し風景最も佳なり九頭龍川上に大野あり奉書

がく昇平の日影に消えて戰塵に似し雲もなく、人家軒をならべて路に寵のにぎはひをつらね、ゆくかたくに踏み分けし數多の道も街とあり、ありといふなる逆水も俊成卿の比興とはなりぬ

記墨堤花夕之遊

高雲外

雪耶雪に非ず雲耶雲に非ず漠々たる一色吾其花爲

るを知る也月光水を射波光花を浮べ月花水と映發す之れを水晶宮と謂ん乎將た之れを銀世界と謂ん乎一身飄々恍として鶴に跨がりて風に御し玄圃閬苑の間に遊ぶ者の如き也光色空明の中四顧裴徊関として人を見す唯だ冷香肌骨に泌するを覺ゆる而已

鹿島紀行

芭蕉

紬羽二重の産を以て知らる

(敦賀)は國の西部に在り敦賀灣に臨み灣内水深く北陸第一の要港にして船舶常に輻輳せり是より滊車時程十六時十五分にして東京に達するを得べし其北端の金ヶ崎に新田義顯の戰死せし城址あり東に氣比の松原あり一勝景にして万葉集にも此地を詠せし秀吟多し古へ渤海使の客館ありしといふ

若狹

若狹は東西南の三面は山脈重疊し其海岸は岬灣出入して犬牙の交るが如し國内狹くして平地少く地味も亦磽确なり

(小濱)は敦賀を距る十二里餘にして常に滊船の往復あ

洛の貞室須磨の浦の月見に行て、

松かげや月は三五夜大納言」といひけむ、狂夫の昔しもなつかしきまゝに此秋鹿島山の月見んとて思ひ立つ事あり、伴ふ人二人ひとりは浪客の士、一人は水雲の僧、僧は鴉の如くある墨の衣に三衣の袋を襟にうちかけ、出山の尊僧を厨子にあがめ入れて脊中にせおふ柱杖曳おらし

り若狹塗を以て知らる此國は魚族に富み殊に鯛は此國の名産なり

北陸道の氣候は西南諸國は稍暖なれども東北は寒氣強し殊に越後は有名の雪國なり概ね極暑三十四度極寒凡零下四度なり

○山陰道地方

山陰道は中國山脈を以て山陽道に接し北方に向ひて漸々緩斜す故に河流は悉く此山脈より發して日本海に注ぐ道内山多くして平地少し海岸は平直にして斷崖多く港灣に乏し要するに本道は山嶽各所に起伏すと雖も高山の稱すべきものなく又長流に乏しく獨り江の川あるのみ

て、無門の關もさはるものなく、天地に獨歩して出でぬ今ひとりは僧にもあらず俗にもあらず、鳥獣の間に名をかうふりの、鳥あきの島にも渡りぬべくて、門より船に乘りて、行德といふ所に至る、船をあがれば馬にのらず、紅脛の力ためさむと歩行よりぞ行く、甲斐國よりある人の得させる、槍もてつくれる笠を、おの〳〵戴きよろひてやはたと云ふ里を過ぐればかさがいの原といふ廣き野あり春旬の一千里とかや目も遥に見渡さるゝ、筑波山むかふに高く二峰ならび立てりかの唐士の雙劍の峯ありと聞えしは、盧山の一隅あり

雪は中さす先むらさきの筑波かな

とは、我門人嵐雪の句なり、すべて此山は日本武尊の言葉をつたへて、連歌す人

丹波

丹波は本道の東端に在り山脈は國の南部を東西に亘り丹後の境には有名なる大江山あり河流は東南北の三方に流出す保津(桂川の上流)佐治(加古川の上流)及び和知(由良川の上流)三川是れなり國產には牛煙草栗等あり

(龜岡)は明智光秀の築きし城地にして舊名を龜山と稱す保津川町の北端を流れ京都大坂に通ずる舟楫の便あり京都を距る六里餘あり福知山は山陰道の衝に當り音無川其西を貫流して舟筏を通じ商業隆盛の地なり龜岡を距る十五里餘あり篠山は西南部の名邑にして佐治川の支流ある久下川の流域にあり

保津川　は桂川の上流にして源を丹波桑田郡に發し山城葛野郡にて清瀧川と合し西南に流れ淀に至りて淀川となる急流にして水清く玉の如し瀨あり瀧あり且つ巨岩水中に起伏す初夏の頃は西岸の躑躅咲き亂れて風景佳絶あり

丹後

丹後は與謝海深く陸地に侵入し成生岬と鷲岬とは東西相對して灣口を扼す河流は悉く南より流れ來りて海に注入す由良河域最も大あり

(宮津)は國中第一の都會にして灣の西部に在り特別貿易港にして市況頗る殷賑あり灣の東部に舞鶴港あり舊名を田邊といふ港内水深く大船巨舶の碇繫に便な

のはじめにも名づけたり和歌なくばあるべからず句なくは過くべからず誠に愛すべき山の姿なりけらし萩は錦を地に敷けらんやうにて猶仲が長櫃に折入れて都の土産に持たせたるも風流にくからずきちかう女郎花かるかや尾花みだれ合て小男鹿の妻戀ふ聲いとあはれなり野の駒所得かほにむれあり日既にり海軍鎮守府の豫定地にして其繁華宮津と並び稱せらる宮津の東方六里にして京都を距ること二十五里なり此國は鹽業盛んにして縮緬は殊に有名なり

天ノ橋立　は宮津の附近にあり海水西に向ひて深く入る故に入江といふ一條の砂洲遠く海中に斗出し蒼松一帶之れを被ひ遙かに之れを望めば浮橋の如し故に天の浮橋ともいふ風景佳絶我國三景の一なり

但馬

但馬は海岸小屈曲ありと雖も良港に乏し國内又山多く朝來河谷は南山陽道に通ずる街道にして稍々平なり

暮れかゝる程に利根川のほとりふさといふ所につく、此川にて鮭の網代といふものをたくみて、武江の市にひさぐものあり、宵の程その漁家に入てやすらふ夜の宿臥し月くまなく晴れるまゝに、夜船さしくだして鹿島に至る、世より雨しきりに降りて見らるべくもあらず、筵に根本寺のさきの和尚今は世を遁れて此所におはしける

○鹿島紀行

(豊岡)は京極氏の舊藩地にして神戸を距ること三十九里此地專ら柳行李を製す出石は其東南にあり陶器を以て著名なり

豊岡の北方に湯島温泉あり有名なる玄武洞は其南方にあり生野礦山は朝來河谷にあり金銀を産すること夥し牛は此國の特産物なり但馬街道の傍ら白國村の山腹には白國梅林あり

因幡

因幡は土地狹長にして南方には山又山を畳み海岸は平坦にして出入極て少く從て良港に乏し河流は短く且つ急にして賀露川(千代川)の流域稍開く此谷は山陽道に通ずる通路にして姫路に至る三十里あり此國海

○天ノ橋立

といふを聞きて尋ね入てふしぬ頗る人をして深省を發せしむと吟じけむ、暫く清淨の心を得るに似たり曉の空いさゝか晴れぬるを、和尚おぞろかし玉ふれば人々驚き出でぬ、月の光雨の音、たゞわはれなる景色のみ胸に滿ちて、いふべき言の葉もおし、はるばると月見に來たるかひなきこそ、はいおきわざおれと、かのおにがしの女すら、

産物多く殊に白珊瑚を著名ありとす

(鳥取)は池山氏の舊藩地にして鳥取縣廳の所在地あり其西方に湖山池あり周回三里餘風色佳絶市人の杖を曳く者多し鳥取の東北に岩井の湯治場あり賀露港は加露川口にあり

伯耆

伯耆は中央に大山の秀峯聳立し天神日野の灌漑地は地勢平坦なり夜見ケ濱は出雲の島根半島と相對して西に内海東に美保灣を分つ其先端は即ち中江海峽にして島根半島を距る僅かに數町なり

(米子)は國内第一の都會にして國道の衝に當り夜見濱の南部出雲の境に接し中海に臨む此地の近傍は平地にして米穀に適す境は夜見ケ濱の西北端に在り市街頗る殷賑にして其港灣水深く大船巨舶直に岸に着すべく東は敦賀伏木新潟等は馬關と流船の往復あり

(倉吉)は天神川の流域にある都會にして木綿及び飛白を以て名あり其西方に船上山あり其脉西に延びて此國第一の高峯大山を噴起す其山麓は即ち大山の原と稱し毎年牛馬市を開く京坂地方の牛は此地方より輸送するもの多し日野川其西を流る此谷は又山陽道に通ずる要路なり

時鳥の歌得讀まで歸りわづらひしも我爲にはよき荷擔の人おらむ如し

月はやし梢は雨を持ながら　芭蕉

雨に殘て竹おきかへる月見哉　曾良

御嶽新道

中村敬宇

余江戸に在りし日より久しく已に御嶽新道の勝峽に甲たるを聞く矣丁己の

○御嶽新道

○船上山

船上山　大山美德山と並び稱して伯耆の三山と呼ぶ後醍醐天皇の隱岐より遁れて伯耆に入り給ふとき名和長年舉族奉戴して山上に行宮を建て遂に近國の王師を招致せし古戰場あり北は大山に連り斷

十一月命を蒙むりて峽嶺に督學たり翌年二月任に至り屢ば往遊を欲すれども輒ち事の礙ぐる所と爲り歳を經て未だ果さず蓋し余の御嶽に於ける鬼神有て之れを斬む者の如し石野鳳岳は峽人也常に謂て曰く子若し行かば吾請ふ導を爲さんと松浦子基も亦以て言と爲す遂に戊午正月某日を以て依田某鳳岳子基と偕に行く質明に寓を發し府城の北門を出で行くこと數里地勢坦夷北に方りて衆山有り甚だしくは高峭奇ら寸而して重沓回互隱秀致有り中に一條の路を通じ蜿蜒る可く老松蒼蔚山谷に彌滿す和田嶺と曰ふ嶺頭に至るに比び朝暾輝を潟し天氣清朗なり顧みて芙蓉を見れば秀色亂松鬟鬢の間に隱見す矣嶺を踰て北望すれば眼界忽ち濶く田

崖峻坂要害の地たるを以て其名殊に著はる

出雲

出雲は山峰波濤の如く國内に起伏し三瓶山は其脉を南北に延き岩見との國境を劃す島根半島は山多く西の方杵築の近傍より東北に向て起り十六島を突出す其れより折れて東方に斗出すること十餘里にして地藏岬に終はる三保關は其南端に在りて美保灣を抱く神門川及び簸川の下流沿岸の地は稍々平坦にして地味肥沃奇り

中海は周回十六里夜見濱及ひ島根半島より包圍せらる内に二島を入る半鹹半淡の湖水にして貝類鰕鰕章魚鮪等を産す中江の瀨戸を經て美保灣に至る往昔は宍戸湖と中海と相通じて意宇の海と呼び しが現今は泥砂其間に沈積して川を以て相通す

(松江)は宍道湖の東岸にあり松平氏の舊藩地にして山陰道第一の都會なり島根縣廳の所在地にして商賈繁盛鳥取を距ること三十里東西流船の往復あり湖水の鰌鰻白魚等は松江と共に其名高し此地の四近は土地平坦にして其近傍は陶器を出す東部には安來廣瀨の諸邑あり廣瀨は松平氏支藩のありし所にして其東西に富田城址あり尼子氏が據て勢威を中國に振ひし地なり是より南方は山岳夥しく人參を産す

神門川及び簸の川の流域は山陰道中の最大なる平原にして所謂神門十万石とは此流域地に生ずる米の産出高を謂ふなり此平原の西北隅杵築に出雲の大社あ

膝の間を行く數峯前に當り拱する如く揖する如く中に玉立巒徹雪を戴く如き者有り高砂山と曰ふ漸く近づけば則ち山皆な白石而して碎けて沙渚と爲り徑間に遍布す余依田某と攀ぢて而して上るに砂流れて足を受くに堪へず一足將に擧らんとして一足已に送す手を引て旁邊の石を攀づれば則ち石轉して而して下る鳳岳子基り參拜の旅人輻輳し此地爲めに繁昌す美保關は半島の東端に在る港にして船舶の碇泊極めて便なれども灣内水狹きが故に其繁華は對岸なる境港に劣れり。

石見

石見は山嶺國中に起伏し平地極めて尠く交通頗る不便なり獨り江の川及び高津川の沿岸のみ稍々開け又水運の便を助くるのみ

(浜田)は石見第一の都會にして海に臨み馬關及び境港の間に漁船の往復あり大森は三瓶山の西に在る山間の都會にして往時より銀を出す温泉津は其西方海岸にあり西北温泉津港に接するを以て水陸の交通便利にして浴客殊に多し

山行に慣れ早く已に上頂に在り俯して吾輩が顛頓狼狽之狀を視指して以て笑と爲す也是れより山麓を繞て而して行く左右回環して東西を辨せず忽ち一潭を得兩岸皆な石蒼黝にして皺有り小松其罅に交絡し直下數仞水勢甚だ峻旁溢して潭と爲る長潭と曰ふ余奇々と連呼して已まず鳳岳曰く猶ほ未だし也と更に數折す不動瀧

津和野は北方に笹ヶ谷と稱する銀山を控へ山間の小都會あれども津和野川に跨り防州山口に至るの交路にして一商區をなす高津は其河口高野川の西に在り長州に至る街道にして其高津山に柿本人麿を祭る神社あり眺望殊に宜し

隱岐

隱岐は出雲の北方に在る群島にして其骨格は火山岩より成り島根縣に屬す西島知夫島及び中島島後の四大島より成る後醍醐天皇の黑木御所の舊趾あり中島には後鳥羽上皇の御陵あり島後の南岸には西郷港あり灣内水深く出雲の美保關を距る十八里あり此の地は地味極めて磽确にして耕作に適せざれども魚族夥

と爲す水中大石横はる焉十人を坐す可し前に巖崖有り高低相錯る猴巖と曰ひ寒山拾得巖と曰ふ皆な形に由て名を得水其下を經流々として碧有り行くこと數折嶺巒へ望開き一水前に當る橋有り渡る可し有年橋と曰ふ又迂廻して而して進む水有り巖足よりして而して來る橋有り柴橋と曰ふ遙に左に一峰の雲表に突兀たる者有しく繁殖し殊に鰒は此の地の名産にして朝鮮支那等に輸出すること盛んあり其他海草類又多し

山陰道は南に山を負ひ北は海に向ふを以て寒氣強く山間の地は積雪深し極暑凡そ三十三度極寒凡そ零下二度あり

○山陽道地方

山陽道は中國山脈を以て山陰道と界を仕せ南は瀬戸内海に臨む地勢は大抵山多くして川は北方の山脈より發して南に流る平地は極めて少く海濱に稍々廣き平地あるのみ海岸は出入甚しく頗る港灣に富み海上には大小の島嶼碁布せり

るを見る覺圓峰と曰ふ橋を渡りて而して左するに水益々駛くして巖益奇あり鳳岳曰く是れよりして而して石門に至るまで最奇絶の處と爲す巖足を繞り水に沿ふて而して行くに一路蒼崖束ねたるが如く對峙數丈、翠松瀨石延蔓闌落、丹青綺繡、明淨愛す可し而して向に見る所の覺圓峰時に左し時に右す路の迂徐宛轉して定らざる

播磨

播磨は山陽道の東端を占め海岸一帶播磨灘に臨む加古川市川揖保川及び千草川(有年川)の流域地開け運輸の便あり

(姫路)は國中の大都會にして市川に跨る瀛車時程二時十五分の所にあり市の北端に舊姫路城あり天主閣雲表に聳え老樹之れを圍みて白鷺常に群を爲す故に古へより白鷺城の名あり第十師團の衛戍部を茲に置く是れより北は播但鐵道によりて二時十一分にて但馬の生野に通ず可く西北は鳥取及び津山に通ずる要衝にして市況頗る繁華革細工を以て名あり市街の北方に書寫山あり辨慶學問所の硯水及び烏帽岩あり土地

者と爲す奇なる哉行くこと數百歩接待亭有り左は深澗に臨み右は巖壁に迫る亭に登りて而して望むに景極めて多く樓記するに遑あらず傍に碑有り七十許りある老人の像を刻す骨格匪凡あり乃ち新道を開く所の圓右の像也圓右は黒吽爲り自ら錢財を捨て斯道を闢く豈に巨靈手を斯人に假り以て千年未發の奇を抉する歟路又幽雅にして夏日暑を避くるもの多しといふ

姫路より西揖保川を越えて醤油に有名なる龍野あり龍野の西有年河口に赤穂あり佳良なる製鹽を産す此地は又四十七士と共に其名高し姫路の東方瀛車時程一時十七分の所に明石あり我國中央標準時の子午線に當れり帆木綿及び明石縮を産す港内船舶の出入に便あり

舞子の濱　舞ふが如く或は臥して眠るが如し翠色は白沙と相映じて風光明媚眞に天然の美術を盡したるものゝ如し春夏の二季遊人の來りて其景を賞するもの頗る多し

高御位山　は中國街道に當れる阿彌陀村の北に在

左右に轉じ巖腹を度りて而して下る石壁突出して道に當る墜つる若くにして復た倚る左に巨石ありて之れを受く其の數人の來往を通ず可し青苔紫草石上に縈絡す數十年の物あるを知らず是れ所謂石門也石門を過ぎて而して左すれば大石磥砢溪上に横たはる者其幾ばくなるを知らず而して石壁峻絶にして削成する如く仰ぎり山は恐く巖石より成り頗る怪巖に富む山頂に到れば南海を隔てゝ阿讃の巒峯を遠望し風色また秀麗あり又阿彌陀の近傍洲濱は所謂播州名所巡りと稱する尾上の松尾上の鐘曾根の松高砂の松石の賓殿等巡覽すべきもの多し

姫路の南に飾磨あり商業繁昌の地たり醤油を以て有名なる龍野亦名邑なり其南に室ノ津あり

美作

美作は四境山嶽を以て圍まれ旭川(西大川)の上流(高田川)及び吉井川(東大川)の上流(津山川)は流域稍々開け灌漑運輸の便あり

○御嶽新道　**○舞子の濱**　**○高御位山**

(津山)は國の中央に在りて津山川の北岸に位す姫路を

視れば丈を計らず左に奇峰有り拔起して頭上を壓し猿鳥も亦攀づる能はず乃ち覺間峰也此れを過ぎて而して北すれば巖徑狹深蜿蜒として而して上る華表有り朝天門と曰ふ是れよりして而して下る左して林中に入り荆榛を拔いて而して進む雲虹瀑を觀る又少しく北して而して左せしに巖石突怒し水流交衝し左盪右激響林壑に震ふ巖を眩巖と曰ひ瀑を仙娥と曰ふ余石上に攀ぢ以て其注射の勢を觀んと欲す而して足を置くの所無きに苦む鳳岳雙手を以て吾趾を握り掀して而して上ぐ予石を抱きて而して上瞰す焉激湍飛流湖海怒溢大なる者珠の如く小なる者沫の如く毛髮爲に悚す又行くこと數折則ち地忽ち夷かに景忽ち曠く田疇縮錯遠山數片畫圖

距る約二十一里松平氏の舊城地にして足袋製造を以て名あり津山の西一里に院の莊あり兒島高德が櫻樹に詩を題せし舊蹟なりといふ作樂神社あり和氣は津山川と吉井川との合流地にあり其北七里に鷺ノ湯温泉あり

天神山　は津山川を遡る一里餘にあり川に臨み奇巖峨々として山をなし岩石の間に青松綠樹雜生し風致清雅を極む夏日舟を其流れに泛べて奇景を賞するものあり

津山の東南五里に倉敷あり津山川の支流なる倉敷川に依り備前に通ずる舟揖の便あり

備前

備前は海岸出入多く就中小島半島は國の西南隅藤戸の地頸より東方に突出する山多き地にして內に小島灣を抱く吉井川及び旭川の流域は土地開け灌漑交通の便に富む

(岡山)は池田氏の城市にして山陽道屈指の都會なり旭川に跨り北に岡山城あり此の城は一に烏城と稱す岡山縣廳の所在地にして第三高等學校醫學部の設けあり瀧車時程五時六分にして神戸に達するを得べし市の東隅に後樂園あり河口は即ち三番港にして神戸との往復盛んなり

後樂園　は元と偕樂園と稱し日本三公園の一にして西に旭川の清流を瞰下し西南に烏城の天主閣を望み東北は平夷にして園外の諸峰を遠望し風景の

○御嶽新道　○天神山　○岡山市　○後樂園

の如く茅舍竹屋處々に點綴す猪狩村と曰ふ一路曲々人を引て勝に入る所謂千巖競ひ秀で万壑爭ひ流るゝ者已に厭に屬す是に至て忽ち遠山の淡岩田家の蕭散なるを見反つて風光一新せるを覩ゆ造物者布景の妙一に斯に臻る嘗て左氏か大戰を紀するを讀む龍戰虎鬪風雨交も馳せ記者色動く而して末段は間淡の筆を以て之れを

佳絶あること宛然畫圖の如し又園内には三勳祠あり和氣清麿楠正成兒島高徳を祭る四時遊歩を試むる者頗る多し

牛窓は其東に在り國内の要津なり三石は國の東に在り蝋石を産し又盛に煉瓦石を製す其東播磨の界に有名なる舟坂山あり又三石の西長船は刀劍を以て伊部は陶器を以て世に稱せらる

備中

備中は東西狹く南北に長し其北方は地勢平坦ならずと雖も大川(阿逸川)其中央を流るゝが故に灌漑の利多く頗る舟揖の便に富み大川の沿岸は綿及び藺蓆を産すること夥し又海岸は製塩業盛んなり一種の團扇を

結ぶ何等の神品ぞ豈に此等の山水を以て粉本と爲す邪予嘗て謂ふ文章の妙は一の轉字に在りと今新道の勝を觀るに其妙も亦然り行くこと里ばかり忽ち石燈數百級廟宇嚴整にして樹林の間に掩映するを見る乃ち嶽祠也歸路は故道を取る故道は未だ開かざるの前嶽祠に至るの路也風景淡冶變ず可し右には信濃の乘山を望み翠

以て有名なる庭瀬の北に吉備津神社あり結構頗る壯麗偉觀にして山陽道中嚴島神社に亞ぐ大社なり

玉島港は水深くして船舶の碇泊に便あり岡山市を距る凡車時程五十分の所にあり北は高梁川邊の諸川と舟揖相通じ運送至便にして岡山に次ぐの商地なり笠岡港は水淺く船舶の投錨に便ならずと雖も亦國内の要津なり國の中央高梁川の東岸に高梁あり昔しは松山と稱し板倉氏の舊領地なり倉敷は備中南部の商區にして小島半島の咽喉に位す

備後

備後は山脈國の中央を東西に連亘するを以て地勢自ら南北に二分せらる南部は即ち蘆田川の流域にして

屏を列ねたる如く而して左は則ち新道所經の山爲り覺圓峰時に其頂を樹林の間に露はす余體羸弱にして遠行に堪へざるに此日健歩甚だしくは疲れず舍に歸れば則ち初更あり嗟余峽に官して殆んど且つ一歳而して御嶽の勝今日始めて吾手に落つ矣任滿ちて東歸するも復た憾み無し是夜頽然として寢に就き無魂徜徉し猶ほ巖壁の間を繞るごとき也

姨捨山賦

橋良

更科の月明らかなる八月八日の夜姨捨山に登れば鏡臺山は冠が岳のむかふにたてたり、筑摩川花やかに麓をめぐり、雲井の橋は名のみして水上の月をやどす田毎の水の音はひめへに山の松風にしらべあへり實か池蛙、池更科近く湖水の觀をなし風景頗る秀麗なり又三原市街の北部は三次川の流域あり山愛岩山は眺望開豁にして近傍十勝の名あり北部三次は三次川の沿岸にあり山間の小都會あれども出雲及び石見より廣島尾の道に通ずる咽喉に當り交通頗る頻繁あり

安藝

安藝は國中連山浪の如く起伏し南部太田川西條川の沿岸稍平夷なり北部は吉田川の流域にして山間の谿谷あり海岸出入極めて多く港灣に富めり

(廣島)は淺町侯の舊城地にして太田川に跨る廣島縣廳の所在地にして、第五師團司令部を置く又控訴院の設けあり中國第一の大都會なり神戸より滊車時程十二北部は三次川の流域あり

(福山)は蔦田川の東畔に位し市中殷富繰綿の產を以て名あり岡山より滊車時程二時十二分の所にあり此より西方に尾の道あり向島因島等其前灣に横はり自ら一港をなし船舶の出入多し鞆の津は福山の正南五里の海岸にあり前に仙酔辨天玉津の諸島を擁し內海の要津にして保命酒を產す

三原は尾の道を距る西方三里餘に在り山陽道中名港の一なり

西野梅林

は三原の西に在り昔し菅公筑紫へ謫遷の途次手づから一株の梅を植えしものなりといふ地は三原の舊城と對し東南は向島院島佐木島生口島其他大小の島嶼を望み其の間の一海峽は宛然小

○姨捨山賦　○西野梅林　○廣島市　百二十五

流れ、稻荷山八幡の里、川中島は白雲のたち居に見え隱る吹く風精神をぜめり粥をすゝり香を炷してしばらく石上に心をすます、

日光街道

佐藤一齋

十三　間雨霧鷄鳴に發す前夜宿于粕壁盥轎伊耶忽ち晶り忽ち覺め東も亦漸く白し堤に循ふて而して行く堤外は即ち利根川あり時に時四十分の所に在り北部の可部を經て出雲石見に入るの要路に當り交通頻繁市街頗る殷賑を極む繰綿蚊帳傘藥罐を產す明治廿七八年の役あるや　聖上親し く此の地に大營を進させ給ひ且つ臨時帝國議會をも徵集し給ひしを以て其名益す世に知られたり

嚴島は日本三景の一にして市杵島姫を祭るを以て宮島と通稱す周圍七里餘紅楓溪を蔽ひ青松枝を交へ風光佳絶筆紙に盡し難し社殿は崖側に倚りて水に架し潮滿るときは殿廊は皆水面に浮ぶが如く

（宇品港）は廣島の南に在り滊船神戸馬關間を往來し山陽道屈指の要津あり西に宇品島あり曾て石川丈山が風月無邊塵外境晩來江上喚舟還と其景を賞せしことあり港の西南に嚴島あり

帆檣を看る栗橋驛に抵れば關津有り是れを武總の界と爲す關南ある伊坂村に靜女の墓有り老杉輪圍大さ七抱高さ九仞可り枝條旁午鬱蟠し中身科空なり試みに其根を鋸して之れを嗅ぐに氣烈し蓋し六百年外の物既にして杭渡す中田驛たり驛北に光了寺即ち靜女香華の處舞衣一領護身刀一口馬鐙一雙を藏す舞衣は紺色の絹に殆んど歷中樓の觀あり平清盛の造營する所にして毛利元就が陶晴賢を討ちし古戰場なり

江田島は其東廣島灣の中央に在り海軍兵學校を置く其對岸は吳港にして海軍鎮守府の所在地なり灣內水深くして能く風波を防ぎ實に我國第一の良港ありといふ其南に倉橋島あり倉橋島と本地との間を音頭迫門と云ふ平清盛の開鑿したる所あり

周防、長門

周防長門は南は周防灘西は響灘北は日本海に瀕し其中央には中國山系の餘波東北より西南に馳せ地勢從て東西に分る東に在るものは周防にして岩國川及び佐波川の流域稍々開け西に在るものは長門にして地

して肩背に日月七星蓬萊の雲鶴を繡す傳へて後鳥羽帝の賜ふ所と爲す然否を審にせず刀は銹澁甚だしく鐙剳は全木をもて之れを爲る材楓に類す蓋し武藏鐙と稱する者傳へて以て源豫州の物と爲す疑ふ可し寺は舊と伊坂村に在り後此に徙す驛東迂路して大山村に入る香取祠有り古櫻大さ六抱舊幹頗仆し蘖已に抱可り傳へて勢甚だ狹く山峯起伏し從て長流大河を成さず然れども阿武隈川域は灌漑の便あり

（周防、山口）は廣島を距ること三十二里山口縣廳の所在地にして山口高等學校の設けあり其東南五里に三田尻港あり濱船往復盛んにして近傍に鹽田多し東方の海岸に毛利氏の支藩德山あり此より海岸は東南に向ふ室津港は其南端に在りて長島と相對す其東方に大島あり其對岸に柳井津村あり故に周防の東南端を柳井半島といふ

（岩國）は岩國川に在り元吉川氏の城市にして街道の要衝あり西南に錦川あり錦帶臥龍の二橋を架す岩國縮は世に名高し

錦帶橋　は一名を算盤橋と云ふ岩國町より横山村に渉り川中に石を壁みて四個の橋臺をなし上に半月形の五橋を架す頗る奇觀の名橋あり

（長門）は國の東北にある都會にして毛利氏の舊城下あり其の西南隅に赤間關あり六港につぐ要港にして馬關或は下の關の稱あり下ノ關とは舊時周防の南端長島の上の關三田尻の西なる中の關とに對したる名にして之を合せて防長三關の港と稱せり內外の船舶常に輻輳し市況頗る繁華なり良質の硯を產す市內赤間宮あり又安德天皇の御陵あり東に壇浦の古戰場あり

本道の氣候は概溫和あり西部長門の北海に向へる地方は寒氣稍强し極暑凡三十三度極寒凡零下二度なり

平將門の第四子傳眞の手植とあす古河驛東に鮭延寺備人熊澤蕃山の墓有り綜らすに石欄を以てし碑面に熊澤息游軒伯繼之墓と題す側に一碑有り息游軒妻矢部氏之墓と題す共に筆力勁儁なり驛の北を總野の界と爲す間田驛に宿す湖畔雨點じ夜露れ月朦朧たり

十四　曉に發し小山驛に抵る驛北に小山判官の故

墟有と聞き土人を賃して導を爲さしむ壠畝の間を穿てば邱樹の鬱然たるを見る前陁に後峻く敗溝水無く殘壘に老松茂密之れを望むに馬蹄の如し內城最も高く頂に鴟脚樹有り高さ七仞に餘る余近づき觀んと欲するに荆棘蹤を無す導者挺を執て左右撥拂して而して前む余二生と之れに躡して遂に登り更に其大を試みんと欲す

導者阻むで曰く樹身の朽空なる處蛇蝎の窟と爲る遡づく可からずと乃ち齋らす所の火繩を聯結し逼つて而して之れを圍むに長さ二丈餘を得たり邱北は斷崖峻嶮迅流其下を過ぐ思川と曰ふ源は鵜鴒山に發す西南に流れ栗橋に至りて利根川に入る邱東は稍平なり傳へて廢園とあす巨石有り榛莽の間に臥す凡ろ七皆各狀を異に

南海道の紀伊は本州に連續し山多くして平地少あし四國は山脈東西に走り國土の脊梁をなし地勢南に向て漸々緩斜をあす故に河流は四方に流る吉野川を本道第一の大河とす海岸は出入多く北方內海には島嶼散布せり

紀伊

紀伊は東南西の三面海に臨み北方一部本州に接す吉野山より發する紀の川の谿谷は頗る平坦にして地味肥沃あり又舟楫の便あり其他日高有田日置及び熊野の沿岸は稍々開け何れも舟運の便あり

(和歌山)は德川氏の舊城地にして現今和歌山縣廳の所在地たり南海道第二の都會にして市街は大坂を距る約十八里紀の川口に位し水陸運輸の便に富み頗る繁華の地あり有名なる紀州密柑綿フランネルを產す和歌山より紀の川を溯ること一里にして高野山あり其金剛峯寺は弘法大師の開基に係る市の西南に和歌の浦あり其東岸に漆器を以て有名ある黑江あり

和歌の浦 は紀伊國の勝地にして謂ゆる日本三景に亞ぐ所とす此浦西に向ひ在田河口と相距ること二里灣の沿海二里許名草山其東を限り洲崎前面に遮り風光明媚畫くが如し聖武天皇此に行幸し名を明光浦と改め給ふ又舊寺の有名あるものは紀三井寺及び粉川根來等あり

田邊港は安藤氏の舊城地にして瀨戸岬其南に斗出し內に田邊灣を抱く是より海岸に沿ふて南進すれば紀

す其中に扁然平正なる者あり袤五尺廣二尺厚さ一尺に餘り質極めて堅緻青鐵色にして紫斑一點の蘚苔を受けず碑材に充つ可し聞く城天正二年七月七日を以て陷る故に土人今に至るも星夕に謎を擧げずと云ふ宇都宮驛に抵りて宿す士素の鄉たり其父邀ひ請し妻と子女とを見る饌頗ふる豐あり又藩人松下周輔來候し話すること

伊の南端潮の岬に達す此の岬の東西海上は俗に紀州沖と稱し常に風波暴く航海頗る危險あり岬の東なる大島の東端に燈臺の設けあり其東北に新宮あり水野氏の舊城地紀州東南部の小都會にして熊野川の南岸にあり

那智瀑布　は大塔峰の東南に聳ゆる那智の山中に懸り其水流れて那智川とあり海に注ぐ直下すること八十四丈幅員十八間水岩崖に激し數十里に達す是れ日本第一の瀑布とす紀州灘を航行する者天晴れたる時は遙かに雲煙瀰茫たる間に之れを望むを得べし

淡路

と半夜亦旅中の一適也是日陰翳晩に雨ふる

十五　陰路岐して二とある東は奥州北は日光東鯨驛に抵る山三面を圍み雲冉々として岫を出づ余佇立して之れを久看し乃ち謂ふ雨山は皆ゐ雲山見る可からず晴山は雲無く山態を成さず但だ雲煙流動作ち顯はれ作ち隱れ始めて活景と爲る耳と大澤驛に抵る聞く北に入ること

淡路は瀬戸内海の東端を要する一小島あり北は明石海峽を隔てゝ播磨に對し東は由良海峽によりて紀伊及び和泉と隔り大坂灣を扼す西は鳴門海峽を以て四國に臨み南は紀伊海峽に面す國内山多く平地少きを以て村落は皆海岸に在り然れども地味膏腴にして頗る農作に適し人口の稠密なること本邦第一に居るといふ

國の東南に洲本由良の兩港あり西北に福良港あり國の北端を岩屋といふ明石海峽を隔てゝ明石及び須磨と相對す此所に燈臺の設けあり此の國は四周水を以て圍まるゝを以て漁業の利少なからず又伊賀野燒は殊に著名なり

三里絹川とあす籠巖ある者有りと因て迂路して往て觀る平原を經る者二大谷川を渉り又一原を經大渡驛に出で絹川を得たり兩岸は盤石疊出し高き者は厦屋の如く平なる者は牀第の如く隆起する者は象背の如く中陷する者は舴艋の如く縱横亂整各其態を逞ふす是れを籠巖と爲す溪水其れが爲めに盤束し奔放して龍蛇の勢を成し衝激して雪を噴く溪北に三螺髻を見る月山と爲し釋迦峰と爲し鷄嶽と爲し溪西に紅葉爛然たる者を閼迦掷山と爲し景佳なり乃ち縮遠鏡を出して之れを望み徘徊刻を移して今市驛に出づ薄暮日光山に至り法王の殿廡に寓す是夕月朗に溪聲淙然たり

阿波

阿波は四國中の東南隅に位し東岸一帶紀伊水道に臨めり吉野川(四國三郎)の流域は土地開け交通運輸の便極めて大なり內地は四國山系重疊し其最高峰を劍山といひ國の西部中央に聳え國中第一の高峰なり吉野川の流域は地味肥沃にして農作に適し殊に我國第一の產藍地たり

(徳島)は蜂須賀氏の舊城地にして本道第一の都會なり現今徳島縣廳を此處に置く市街は吉野河口に沿ひ水陸運輸の便あるを以て商業頗る殷賑なり此の地の阿波縮は其名世に高し此より數里北方の海峽に撫養港あり淡路に渡るの要津にして齋田塩田は殊に著名なり

大瀧

大瀧は四國中の東南隅に位し東岸一帶紀伊水道に臨めり吉野川(四國三郎)の流域は土地開け交通運輸の便極めて大なり內地は四國山系重疊し其最高峰を劍山といひ國の西部中央に聳え國中第一の高峰なり吉野川の流域は地味肥沃にして農作に適し殊に我國第一の產藍地たり

(徳島)は蜂須賀氏の舊城地にして本道第一の都會なり現今徳島縣廳を此處に置く市街は吉野河口に沿ひ水陸運輸の便あるを以て商業頗る殷賑なり此の地の阿波縮は其名世に高し此より數里北方の海峽に撫養港あり淡路に渡るの要津にして齋田塩田は殊に著名なり

○大瀧

○高松市

讃岐

讃岐は東北西の三面は瀨戸內海に臨み讃岐山脈西より東に連亘するを以て地勢漸く北方に傾き諸川は皆北流して瀨戸內海に入る然れども水淺くして舟行に便ならず此等の流域は地味肥沃にして米麥甘藷綿藍

齋藤竹堂

仙臺府城之西八九里峯巒相接し溪水盤廻し皆以て遊覽す可し而して秋保の大瀧を最勝と爲す羽山の麓に發して名取川の源と爲る凡そ此の間境僻にして而して勢阻幽潛隱逸の士の樂む所也相傳ふ往時平氏の將士西海沈沒の餘或は迹を此に晦まし子孫相繼ぎ世と接せず數百年を閱して始めて我藩の版圖に入ると世以て之を漢土の武陵桃源に比す焉余天保某歳を以て往て遊ぶ某日府を出で湯本に至て宿し翌名取川に沿ふて而して行く坂路崎嶇乍ち上り乍ち下る二驛を經たり長袋と曰ひ馬場と曰ふ山愈よ深く地愈よ僻不動祠を得祠北は逶迤として而して降る忽ち洶々として聲有り海濤槩かに作るが如きを聞き驚て而して之

等の產出に適す

(高松)は此國沿岸の中央部に位す現今香川縣廳の所在地にして水陸運輸の便あるを以て百貨輻輳し商業頗る盛んなり市の東北に五劍山あり山西に屋島あり源平の古戰場にして安德天皇內裡の蹟今尙存せり屋島以東の海岸は出入甚しく觀音岬ナ串岬等內海に斗出す觀音岬の東北海中に醬油製造を以て有名なる小豆島あり

(丸龜)は高松より西七里餘海岸平野の內にあり第十一師團司令部を設く瀧車は此所より發して西多度津を經て琴平に至る琴平の西に象頭山あり山形象の頭に似たるを以て名く山上に琴平神社あり(金比羅宮)賽客陸續として常に絕へず市街之れが爲に繁華を極む

伊豫

伊豫は四國の北部に在り地形は南西より東北に延長す四國山脈東より南に連亘して土佐の境を劃す地味は東部は一般に肥沃なれども西南は概ね肥瘠相半ば す海岸は出入多く島嶼の海面に出沒すること讃岐に同じ

(松山)は久松氏の舊城地にして現今愛媛縣の所在地なり市の東方一里の所に道後の溫泉あり四時浴客絕へず又市の西北一里半の海岸に三津ケ濱あり船舶の往來頗る頻繁あり此等の地方は鐵道相通じて市街極めて繁華なり三津ケ濱の海上には幾多島嶼相列り風光佳絕あり

を顧みれば四山環翠万木參天陰寒晦冥奇鬼毒龍の窟に入る如し其西石壁束立して瀑布懸る焉直下二十餘丈廣さ三の一なり簾の垂るゝ如く玉の碎くる如く銀河天に落つる如く其初尚ほ小、中間石に觸れ一激して而して大、再激して而して倍す大再激の後は散じて雲霧と爲り紛紜混蒙碧潭其下に在り窈然底無し激賞の際清風乍ち

三津ヶ濱の東北の海岸に今治あり船舶常に輻輳し國中必要の商地たり是より海岸を東北に巡れば西條あり其東南四國山脈の麓に別子銅山あり西南に八幡濱宇和島あり宇和島は佐田岬以南佐賀島海峽に面する處に在りて宇和島灣に臨む伊達氏の舊城地にして商業頗る繁盛西海岸第一の要港たり紙及び織物を以て名產とす

土佐

土佐は四國第一の大國にして弓形をなし北方に張る國内山峰重疊起伏して平地に乏しく殊に東北の國境は嶮峻なり河流は概ね細流にして南流土佐灣に注ぐ獨り吉野川の上流のみ東流して阿波に入る海岸一帶

至り飛沫人に濺ぎ衣襟之れが爲めに淋漓毛竦髮豎蒼海の底を穿ち而して雪山の頂に登る如し余又林樾を排し巖巒を踰ゑ近く瀑下に就て彷徨し縱覽以て其勝を悉さんと欲す而して天方に暮れ溪路險惡歩を措くに由無し悵然として歸る均しく是れ勝境也桃源は漁郎歸棹の後一人の至る者有る靡く而して淵明の文能く後世をしの地は平夷なれども却て磽确にして內地は肥沃なり

○大瀧

（高知）は境川の三稜洲に在り山內氏の舊城地にして現今高知縣の所在地たり水陸運輸の便に富み商業頗る殷賑あり其西岸に浦戸あり一小津あれども往昔長曾我部元親が四國全島を統治せし所なり此に燈臺の設けあり

○高知市

高知の東方物部川の河口に赤岡あり其東南に安藝の名邑あり室戸岬の西は即ち土佐灣にして天武天皇白鳳十三年四國の地大に震ひ土佐の南部一帶陷落し因りて此の灣を造れりといふ高知の西南に高岡須崎の兩邑あり其東南に突出する岬角を龍岬といふ其海上には幾多の島嶼出沒せり此しは水產物多く殊に鰹節珊瑚は名產たり且つ鯨獵の如きも紀州と並びて國益

て目を拭はしむ今此地や高貴造り焉士庶遊ぶ焉而して未だ文以て之れを傳ふる有らず則ち幸不幸果して如何ぞ哉抑も造物者の此地に於けるや之れを愛惜して而して世に顯はるゝを欲せざる耶然らずんば何ぞ之れを數千年の前に設け而して之れを數千年の後に發し又高貴士庶をして至らしめ而して未だ一能文の士をして至らしめざる也然らば則ち其記以て淵明に匹し而して愧ぢ無る可き者知らず將に幾千年の後何人の手を待んとする

をなす鮮からず又內地の山間には茶樟腦甘藷煙草藍綿等を出す

本道の諸國は氣候概ね温暖なり但紀伊伊豫の山地は稍寒冷なり極暑凡三十三度極寒凡零下三度あり

○西海道地方

西海道は我國の西南に位し琉球諸島と相連り列島長く南に延びて新領土臺灣に至る九州は古へ筑紫の島とも云ひ或は之れを鎮西とも稱せり地勢は一般に山多くして平地少し河水は四方に流れ海岸は出入多く港灣に富み西南の海上には大小の群島散在せり平野は筑後肥前及び肥後にあり是等よりは多く良米を產す

○しらぬ火

筑紫の海に出づるしらぬ火は例年七月晦日の夜なり昔より世に名高きものにて今も九州の地にては諸國より此夜は集り來り

橘南谿

筑前

筑前は往昔太宰府を置きて全島を統治せし所にして其舊跡尙ほ存せり又古來外交の衝に當り其故跡甚だ多し

(福岡)は博多灣に臨み博多と合せて一市とし黑田氏の舊城地にして今は福岡縣廳の所在地たり此地古へ屯兵を置き外寇に備へしことあり故に博多を石府城とも云へり「ちとりなく袖の湊をとひこかし唐船のよる の寢覺めに」と定家の詠みしを以て証するに足る

箱崎は博多を距る十八丁近傍名勝多し箱崎八幡宮は神功皇后玉依姫命を奉祀し其額の「敵國降伏」は延喜帝又は醍醐帝の宸筆なりといふ曾て工作に釘を用ひす

○福岡市

て見る事なり京都の人に見ること少きは盆後の故あるべし京より九州に下る人々も多くは皆商人の類なれば盆前に京都へ歸るやうに上り來り又下る時も京都にて盆を仕舞ひて後下る故に八月に入りてやう〳〵九州に下り着く此故に七月晦日の頃は上方の人の彼の地に止り居る者甚だ少し予は斯かる奇異の事のみ探らんた

社殿の壯嚴擧て盡し難し

香椎には又神功皇后を奉祀す本社は日本四所宗廟の一に居る椎茸を名產とす近傍に草場山温泉あり

●名島は香椎を距る十八丁許にあり多々良鉄橋より海岸を望めば松栢の茂れる所即ち名島の辨天祠にして近傍名島城址あり多々良川は建武元祿の兩度激戰ありし地なり名島は博多八景の一なり博多八景は濡衣夜雨、箱崎晴嵐、岩杉秋月、奈多落雁、博多皈帆、横岳晚鐘、萌山暮雪、名島夕照なり

又太宰府には菅原道眞を祀れる天滿宮あり殿堂美を盡し庭園また風趣亦到れり公の遺愛たる飛梅は神殿の前に在り又近傍に遊覽の地多く東に篭山西に天拜山北に天城山南に茅屋の宿等あり名物梅ヶ枝餅を鬻

めばかりに下れる事なれば盆後早く長崎を立ち出でゝ雲仙が嶽に登り夫れより島原に出でゝ城下より舟に乘り天草に渡り天草の惣象と云へる山の峰にてしらぬ火を見物せり先づ島原にてしらぬ火見るは何れの地よろしきやと尋ね問ふに肥後國宇土八ッ代松ばせの邊の浦々よし又殊によく見ゆるは天草の島ありと云ふにぞ

○しらぬ火

●天拜山は山路嶮峻にして滿山櫻楓を以て封するに似たり春秋の好景賞すべし博多灣の白帆點々波穩かなるの日白鷗と交叉して一幅の好畫圖たり山巔巨松天を突く故に遠く數里の間より望むを得べし山上に天神の社あり昔菅公蹤の滝に齋戒し冤を天に訴へしかば山の名に天拜の字を冠すといふ

●刈萱の關は水城村に在り天智三年大堤を築て水を貯へ水城と號く今尙はその趾を存す「夕ぎりや立へだつらむ岩垣の水城の關に舟もかよはず」と俊の詠みしは爰の事なり刈萱の關は太宰府守衛の爲に置かれしが今は纔かに其趾を殘す世俗劇場にて知る佐藤左衛門繁氏石童丸は此地に居れりと

○名島及博多八景　○天拜山　○水城址

然らば天草に渡るべしと便船尋ぬるに邊土故に便船もなければ小さき獵船を借りて渡る此日天氣殊に長閑やかにして海上底靜なれば四方の詠め殊によし雲仙が嶽は後ろにあり向ふ遙かに東南に連りて天草の島青み渡りたり此海は高山の麓は殊に深く百五六十尋も立つるとぞ乗れる船は獵船なれば斯かる事をよく知り居て

竈門山 は筑後の高山にて國の中央に聳ゆ大宰府を距る二里俗に寶滿山と稱す大江匡房の歌に「かまと山また夜をこめてふりつもる峰の白雪明てこそ見め」とあり險峻にして蓊濃かなり頂上より望めば壹岐對馬筑紫の近海模糊として眼底に映じ奇絕の勝景言ふべからず且つ滿山奇岩怪石突起し春は櫻樹の白雲靉靆き秋は紅葉綿を織て天工を衒ふ此他四天王山觀音寺等あり二日市の近傍に極寺ありまた太宰府十二勝區の一に數へらる

又博多灣の北には海の中道といへる名所あり九州鐵道は門司及び博多を過ぎ南して久留米熊本を經て松橋に達す物產は米麥大豆石炭を出し博多織は夙に世に知らる

語り聞かす尤も面白かりし此船頭今日も鉾といふものを以て魚を取れり其鉾の形鉛の如く柄の長さ三間先は鐵にて作りて三つに割れかへり有りて長さ一尺程なり石突の所に長き綱を付けたり船頭この鉾を使ふ事妙にして海上浮める魚は小さきものといへども是を突く事鳥さしの鳥をさすが如し大きなる魚の船に遠きは

○しらぬ火

筑後

筑後は九州の最小國にして面積八十一方里而して九州第一の大河筑後川(千歳川)は源を豊後の山中に發し肥筑の間を流れ若松港に於て遂に筑紫太郎の名を負ふて海に入る延流實に三十里日本三大川の一なり筑紫平原の灌漑は主として此川に由る河口に「太刀洗ひ石」の古蹟あり昔南朝の臣菊地武光が少貳大友と戰ひ笑て血刀を洗ひし所あり

(久留米)は筑後川の沿岸に在りて鐵道は西南に連る有馬氏の舊封地なり久留米絣は其特有產物たり久留米より三里に船小屋礦泉あり山水の美なるを以て浴客群集す又元寇の時一大難所と唱へられし船橋の古蹟

○苅萱ノ關 ○竈門山 ○筑後川

此鉾を投ぐるに矢を射るよりもたしかあり今日も鉾を持ちて船端に立ち居たりしが向ふの波間に黒く見ゆるものあるをやがて件の鉾を投げかけたりしに其魚高く躍りてのがれ行く船頭したり顔にかの網をたけ長くゆるし遣る船をもあやぎりて其魚に從ひ行き暫くして靜に網を引き寄せたるに其魚彼鉾のかへりにとゞられは御井郡神代村に存す市の遍照寺には高山彦九郎の墳墓あり

柳川は立花氏の舊城地あり其繁華は久留米に亞ぎ絹織物を産す大牟田は元と寂莫たる一村落に過ぎざりしが三池より石炭を出すを以て近年漸次繁華となれり

●岩ヶ●崎●の●奇●勝●　は大牟田の南三川村にあり四ッ山の山脈蜿々海中に滑脱せる尖端は西南海波漫々遙かに肥前の温泉杵島の高山に對し奇石怪巖聳立す

る間岩ヶ鼻と唱ふ遊士の杖を曳くもの如し

豐前

豐前は面積百三十六方里餘山は英彦山其主あるもの

て段々船近く寄り來る船頭鉾の柄を取り上ぐるまゝに船の中にはね上げたれば其たけ八九尺餘の魚の形細くしゝ口吻恐ろしく京都にてさよりと云ふ魚に似たり早魚と云ふものなりとぞ口吻の長さ二尺六七寸も有らん末鋭く鱶鮫の如く只獸の角の如く魚にあるべきものとは見なずかの一角の魚吻ありといふも此魚にて信ぜにして嘉麻川源を國境より發し筑紫潟に注ぐ瀧瀨の利あり小倉は國の北部に位し小笠原氏の居城あり現今第十二師團司令部の所在地なり馬關より九州に渡る要港たり南に嵐山あり慶長の頃ろ京師の嵐山に摸して築く所あり風色その名に恥ぢずその他中津宇佐の名邑あり宇佐には有名なる八幡宮あり

(門司)は九州鉄道の起點にして近來繁華となれり港内水深く東に門司山あり南に三角風師山聳ち其狀湖の如し故に視海の稱あり往昔百濟新羅入貢の港にして地名に今尚ほ遺趾あり特別輸出港の一たり硯材の礦物小倉織を産す

●速●戸●の●瀬●戸　は北に周防灘西に玄海灘を控へ海潮常に兩灘の激浪に浚帖され急湍滾々として捲くに

○しらぬ火　○岩ヶ崎　○早吸の戸

り餘り珍らしければ船頭に此口吻ばかり求めて歸れり肉は油を取るといふ餘り大魚故に食用には成り難しと云ふさて計らざる得物に心慰みて數里の海上も程近きやうに覺えてはや天草の地方に近づけり天草の砥石山あど云ふ所を右に見おし三角と云ふ所より山の間に船さし入れて行く左右七町に過ぎじと見え水清く山峙

似たり故に一名を早吸の戸と呼ぶ其東方門司關山の嶺に門司古城址あり現時砲臺を築き海峽防衛の爲め第六師團之を管守す此近傍に古代又關を置きたり入道前關白の歌に「春秋の雲井のかりもとゝまらす誰が玉章の文字の關守」とあり

海上に一小島あり岸柳島といふ宮本武藏か佐々木岸柳を討ちし所にして人口に膾炙す

豐後

豐後は面積三百四十四方里餘あり山國川は源を豐後の境より發し中津平原を經て海に入る九州有名の勝地なる耶馬溪は其上流にありて彥山山麓の河水の浸蝕作用を受けたるものにして奇石怪巖相疊立し頗山

ち風景又他に異あり北へくじけ南へまがりて彎れ入るに緑に續く小松の間に藁屋の軒いと靜かなり何人の住みけらしとゆかしくも見る右の方は波打際所廣く砂子の清き事霜を置けるが如くあればいざや此處にて船暫しと云へばやがて渚に船さしつけて碇おろす船頭云ふは此濱邊には小さき蛸多しおりたちて取り給へと云

○しらぬ火

陽をして「溪山無」と激賞せしめたる所にして是れよりの名天下に聽けり又筑後との境には御前山三國山あり

(大分)は大分縣廳の所在地にして市況繁華なり其他海岸には杵築臼杵佐賀の關等あり內地には竹田あり產物の重なるものは米麥煙草礦物畳表豐後絞等あり

肥前

肥前は山脈國の中央を貫く重なるろの山は背振山黑髮山經ケ峰等にして領布振山は佐用姫の故事を以て知らる嘉瀨川は筑紫潟に注ぎ松浦川は唐津灣に入る海岸は屈曲甚しく又島嶼の多きこと實に本邦第一にして大小島嶼の數は一千餘に達す

○耶馬溪

ふに潮は淺し砂は清し皆々下りて蛸見あり く田舍には珍らしからぬ事も京都に住める身はいと心慰めり船頭は例の鉾打ちかたげつゝ舩さし行きしが程なく二尺に近き鰹一つ突き得て歸れり取りあへず料理て煮る鮓けくして味の美なる事さらにもいはずやゝ時移りぬれば船さし出して急ぐに暮近くに天草の惣象と云ふ所に

(長崎)は五港の一にして三面山を負ひ海水深く入りて風波の患なし古來の外交場にして泰西の學術始めて我國に入りし關門なり現今長崎縣廳の所在地にして控訴院又此地にあり內外の船舶港內に輻輳し貿易盛に行はれ市況甚だ繁盛なり

(佐賀)は鍋島氏の舊城下にして今は佐賀縣廳の所在地あり有名の都會とす九鐵の支線此地を通過す唐津口の津の兩港は特別輸出港にして輸出品は石炭あり名護屋は豊臣秀吉征韓の役に本營を置きし所なり其他佐世保は我國屈指の軍港にして高島は炭坑を以て著名なり又伊万里有田は陶器を以て世に名高く農產は米麥煙草を重要あるものとし水產は五島近海の鯨特に有名あり

到る此處は少し民家あり多くは漁夫なり此村に上りてしらぬ火見るところの案內を頼みしに百姓一人ようけがひていたく汚れぬ莚一枚携へ先に立ちて登る東の海の岸にさし出でたる山あり高さ七八町もや有るらん此あたりにての高山あるが此峯よろしと莚打ち敷きて坐す眞向ふに肥後國ありて只一望につくす宇土熊本

○しらぬ火

肥後

肥後は阿蘇山の峯嶺甚だ高からざれども一國の主山なるを以て壽安鎭國山と號す此山は有名の噴火山にして其溪流は西流して熊本に至り海に注ぐ又高瀨川白川綠川球摩川の四大河あり殊に球摩川は有名なる急流にして富士最上の兩川に合せて我國の三急流と稱す

○熊本市

(熊本)は九州第一の大都會にして白川坪井川市內を貫流す往昔菊地氏加藤氏の領せし所にして中古以來は細川氏の封土たりしが今は熊本縣廳の所在地たり熊本城は加藤清正の築く所にして結構壯大九州第一の偉觀と稱せられ西南の役賊軍之れを圍むこと數月な

は少し左に見えたり右に日奈久向ふに八代其の海上わたり五六里より七八里に過きず南北は入海數十里にして其限り見えず案内の人指さして右なるは鼠島なり左は大島あり夫は三つの島是は幾島と數々敎ゆげに海上三里ばかりにいと少さく島々見ゆるやと問ふに島々見ゆるあたりにと云ふ初の程はりしも遂に之れを陷ることゝ能はざりし今第六師團の在る所なり市街は十年の役大抵兵燹に罹りしが爾後宏壯の家屋建築せられ那て面目を一新せり第五高等學校も此の地に設置せられ九州學術の中心たり九州鐵道は此の地を經過し停車場は市の南北両端にあり門司との間滊車七時間にて達すべし城北に錦山神社あり眺望風光の佳絶なるを以て遊覽の客絶へず社は加藤清正の靈を祀る本妙寺も清正の廟地なり隈府町には菊地氏歴代の城址あり此他山鹿、川尻、宇土、八代、佐敷、八吉等の名邑あり

岩戸山　は金峰山背後に聳え山下に一大岩窟あり靈巖洞といふ洞中百人を容るべしその奇怪人目を驚かす皷ケ瀧は北澗の小瀑なり水聲皷音を發すと

人里も遠くいと物凄き島山ありしが追々に知らぬ火見物の人々出で來りて數十人に及ぶ曾此近國より二日路三日路をも來りて見物する人々あり程なく海の面もやゝ夕煙引き渡して人顔もさだかならねば所々松ども明かして酒など取り出し思ひ〳〵に小唄淨瑠璃太皷三味線或は謠狂言など各藝を盡して戯れ遊ぶ夜陰の事あ

○しらぬ火

南に山下庵あり椿垣女が棲みし所といふ

水善寺　は熊本を距る一里出水村に庭園の美を以て誇る舊藩主細川氏の別莊あり規模結構備前の後樂園に一歩を輸せず風光九州第一と稱せらる

花岡山　は横手村に在り花季尤も行遊に宜し俗に祇園山と稱す昔時此山頂に祇園社の在りしを以てあり景色の佳なる遠く阿蘇の山嶽益城の連峰を雲烟の際に望み近く江津湖本妙寺指呼の間に在り

此國は肥後米とて良米の産地を以て有名なり又馬を出すを以て名あり其他煙草石炭綿布朝鮮飴等を名産とす

古は肥前肥後を併せて火國といふ前後両國の間に當る海上に燐火現はるゝを不知火と呼ぶ是れ國

○岩戸山　○水善寺　○花岡山　○不知火

れば誰とは知らず殊に諸方より集りたる事あれば遠慮はあし彼坐に登り此莚に連り隔てなく睦び語らう事有馬但馬あぞ温泉の場の交りの如し今年は例より殘暑強けれど期る海邊の高山に殊に空はよく晴れたり小夜風おもむろに吹きていと涼しければ夜の更くるも知らずはや夜半にもなりしかども知らぬ火の沙汰なし今年號の因て起る所あり其火宇土八代及び天草と相國みたる内海中に於て初秋の頃暗夜に會へば最も明に見ゆ土俗之れを龍燈といふ來り觀る者多し實に一奇觀たり不知火は海中の動物の光を放つものあるべしといふ

日向

日向は海岸屈曲少く殆んど一直線をなし只東に細島南に志布志灣あるのみ其沖を日向洋と云ふ此國は本邦大古の歴史に大なる關係を有する所にして神代にて尊等の住み給ひし所なり宮崎は宮崎縣廳の在る所にして宮崎の宮は神武天皇を祀る又都城には高千穗の宮址あり其他延岡佐土原紐島高鍋等の名邑あり物

初めて見る人は今宵は如何ある事ぞ知らぬ火は出でざるや但し空言ありやあぞ口々に云ふ予も怪しみ居たりしが八つ近き頃に遙か向ふに波を離れて赤き色の火一つ見ゆ暫くして其火左右に別れて三つにあるやうに見えしが夫より追々に出づるほどに海上わたり四五里ばかりが間に百千の數を知らず明らかなるあり幽かな

○しらぬ火

産は椎茸甘藷日向半紙半切等あり

大隅

大隅も亦大なる都會に乏しく僅かに國府加治木あるに過ぎず物産は國府の煙草大島の黒砂糖甘藷農馬等にして鑛物は金銅を産す此國には屬島多く概ね火山岩より成る佐多岬は南端にあり燈臺を設けて航海者の便に供す

薩摩

薩摩は九州南部山脈西南より來り國見岳御岳等となる川内川は本道第一の大河にして長サ四十六里に達す甑島長島獅子島は天草群島と共に九州に斗出して

○宮崎市

るあり滅ゆるあり燈ゆるあり高きあり低きあり毓に見事にして目を驚かせり其色皆赤くして提灯の火を遠く望が如したとへば大坂の天神祭を彫しく集めて見るに異あらず寫に諸國より來り見るもいたづらならず所の人に問ふに年によりて多き事も少き事も定まらずとど今年は勝れて多く出でたるも予が幸と云ふべし廣き其内に鹿兒島灣を抱く灣内の一島を櫻島と云ひ活火山にして山上常に硫黄を噴出す

（鹿兒島）は甲突川畔に在り北に城山を負ひ東に鹿兒島灣を控へ島津氏の舊城地にして肥後熊本と共に西陲の雄藩なりしが今は鹿兒島縣廳の所在地たり文久年間英人と戰ひたる古戰場なり城山は維新の豪傑西郷隆盛討死の所にして墳墓あり其他川内阿久根谷山出水等の名邑あり物産の重あるものは甘藷煙草馬等とす

壹岐

壹岐は九州の西北に在る孤島にして肥前の北端を距ること海上七里あり我國の最小國にして面積八方里

海中に出づる事あれば天草に限らず肥後地よりも何れの浦にても皆よく見ゆるあり然れども如何なる譯にや高山に登る程多く見事に見ゆるとて此山なども群集せるなり此夜は此邊の者海中に龍神の燈明を出だし給ふなりとて慣れみて渡海の船を禁ず獵船といへども此一夜は乘る事あし過ぎし年肥後の士密に小船に乘りて餘に過ぎず勝本の名邑あり物産は甘藷海草魚類等とす

對馬

對馬は壹岐の北に在り朝鮮海峽に横はり古來朝鮮と往來の要津に當るを以て津島と稱したりといふ上島下島の二島より成る嚴原は下島にあり元と宗氏の舊城地にして今は長崎縣の島司廳あり海岸は實に夥しけれども陸産は馬の外記すべきものなし

琉球

琉球は薩摩の南西に碁布する大小十五有餘の島嶼を總稱して琉球列島といふ島勢自ら三に分れ北にある

彼の火の出づる所に到り見るに只其火前後に遠くありて我船近くは一つも見えざりしとぞ予も今宵まのあたり見しかども如何なる火と云ふ事を知るべからず昔の人の知らぬ火と名づけ置きしも尤もものことゝ覺にし唐土には祧江の神燈あど是に似たる事もありとぞさて夜明くるまで斯くの如くにして旭出づれば火の光漸々に

を沖縄とし南に在るを石垣とし中央にあるを宮古とす地勢は一般に山多しと雖も高山なく地味は肥瘠相半ばするも灌漑の便を缺くを以て五穀に乏し

(首里)は沖縄島にあり往時藩主尚氏の居城地にして現今は第六師團の分營たり那覇は其海港にして琉球第一の都會たり沖縄縣廳師範學校及び中學校あり西南に宮古島あり近海には暗礁多く舟行危險なり唯西岸の張水港舟を繫ぐべし

石垣島は宮古の西にあり琉球諸島の極南に在るを波照間島といふ又八重山群島とは石垣島以西の諸島を云ふあり此國は初め薩摩の屬地たりしが其王尚氏は支那に通じ殆んど屬國の如くなりしが明治五年詔して琉球藩を置き王を華族に列し次で縣を置かれたり

遂に成り行きて星と共に消滅す昔し火の前の國火の後の國と名づけられしも故ある事あり中古の世火の字をねみて肥前肥後と改められしとぞ又歌の言葉などにも知らぬ火の筑紫あど書けり九州に遊ばん人は必ず此折を考へて行くべき事あり

耶馬溪圖卷の記

頼山陽

物産は甘藷砂糖を第一とし又藍を産し琉球絣を出す其他上布芭蕉布等の製品あり沿海には魚介の利多く殊に夜光貝を有名なりとす

西海道の北部諸國は寒氣強けれども南部は暖和なり殊に琉球は炎熱にして終歳寒さを知らず九州の極暑は凡三十五度極寒凡零下三度にして琉球は極暑凡三十七度極寒凡ろ六度なり

○北海道地方

北海道は我國の最北に位し古へ蝦夷と稱せし地にして一大島及び數十の羅列したる群島の東北に散布連延するものより成る本道は山岳多けれども嶮峻の者少く河は四方に注流す東西の海岸は出入あれども南

余嘗て世人の畫を讀み其山貌太だ奇峭あるを疑ふ恐らくは天壤間に在る所に非ずして畫人の一時興到り、其筆墨を皷舞するのみと豐の耶馬溪を觀るに及んで乃ち造物奇怪畫手も亦寫して到らざる者有るを知れり、歳は戊寅、鎭西に遊び、海を過ぐるに、南彦山を雲際に望み、己に其異あるを覺えたり既に肥薩隅を經て、遡つて豐後の隈北は屈曲少く概ね平坦あり平野は石狩川天塩川十勝川の近傍に於て廣大なる所あり內地は未だ開けざる處多く概ね人跡絕て道路なし此地明治二年北海道と改稱し爾來本土の人民移住するもの日に多し土人を「アイノ」と云ひ無智にして文字を知らず言語風俗も亦本土に異れり現今は其數漸く減し僅々一万五千人に過ぎずといふ

函館

(函館)は渡島國函館灣隅にあり津輕海峽の口を扼し靑森を距る二十餘里にして箱館山を前に控へ我國五港の一にして港內廣く且つ水深きを以て船舶の碇泊に適し北海道の貨物は一に此に集る故に貨物の往來頻繁なり此の港は德川氏の世未だ隆盛に赴かざりしが明治維新以後は頗る繁盛に至り現今北海道ヲ廳また此處にあり

五稜廓は箱館の北一里にあり幕府の經營に係る砲壘あり形五稜を爲す維新の際板本武揚大鳥圭介等之れに據りて劇戰せし所にして現今は氷の產出頗る盛んあり

(福山)は函館の西南白神崎の西北にあり昔松前と云ひ松前氏の舊城地たり昔時此所に首府の設けありて遙か函館に優りしが今は之れに劣るに至れり

其南方海岸には燈臺の設けありて航海者に便にす江刺も渡島國にありて日本海に面し船舶の往來多し靑都は辨慶岬の東南に在りて碇泊に便あり森港は室蘭

村に寓す臘月五日、豐前に入り、一水の北より來るに遇ふ、蓋し源を彦山に發する者、沿ふて東する數十里、昏黑にして左右の峯巒皆凡にあらざるを覺ゆ、山海相迫る處、山腹を鑿つて道となし、人窓を穿つて明を取る余炬を買ひ以て入る屈に遇へば、月の溪水に在り朗然たるを窺ひ見る民家に宿す、翌大霧なり、霽るゝを待つて乃ち發す、復た

溪に沿ふて東す愈東すれは愈奇あり群峯水を狹んで攢蹙せるは春筍の矗立するが如く、土の石を載する者石の土を挾む者、全く石なるもの、全石の破裂して洞穴を成す者、雨石相鬪ひ其一仆れんと欲する者石數層累なつて夏雲の狀を成す者あり、而して樹は石罅より横生し縱生し倒生して上指し、叢生して石を蔽ひ石と勢を爭ひ、而しての對岸にありて國道に當る要津なり

室蘭

室蘭(室蘭)は膽振國にありて噴火灣内に位す絵鞆岬長く海中に突出して港を蔽ふ渡島に渡る要津にして港内水深く船舶の碇泊に適す此地は第五海軍鎮守府の所在地たるべき豫定なり鐵道は本港より起るものは東海岸に沿ふて苫小牧に至り千歳を過ぎて岩見澤に至り札幌線に通ず本線は軍事上必用の鐵道なり千歳は鮭の繁殖最も盛んなり支笏湖は千歳川の發源地にして洞爺湖は湖中に一小島ありて風景に富む共に膽振にあり

て之に勝たんと欲するが如し、石又樹中より猶躍して出で而して石陰皆苔、紫緑相間はる或は石の半面を沒し或は全面を沒す、又樹を援け石を攻むるが如き者、大抵峰勢石交、蕚巨刻意圖の如し時に窮多多くは老木の葉脱し槎牙瘦古倪黄の筆法而して苔枯歴し蒼渦する者は王叔明なり古人の筆墨我を欺むかざるなり、柿岐に至り孤店

札幌

(札幌)は石狩國の西南にありて豊平川の下流に跨る小樽港を距ること凡そ十餘里の所に在りて本道第二の都會なり北海道廳の所在地にして市街繁華宏壯の建物亦多く有名なる札幌農學校其他炭鑛鐵道會社及び製糖製麻會社等の設けあり街路は井然たること殆んど西京に似たり市の附近は牛馬の牧畜盛んに行はれ鐵道は西小樽港より來り東知幌内炭山に達す又新設の第七師團司令部此所に在り

又東北なる上川は石狩川の上流に在る原野の中央にあり地勢平坦近傍は農産に富み屯田の事業盛んなる上川郡の忠別は將來離宮を設けらるべき地ありとい

に憩ふ、店は石壁數丈に面し飛泉懸る仰げば更に高峰あり是幾十丈あるを知らず余急に佩ぶる所の酒瓢を釋き命じて之を煖めしむ、窟突蕭然會ま獵師新に豪猪を獲たり割いて之を煮る肪脆水の如し連りに數大白を引き又往く、溪又數山峰勢に隨ふて上下す或は激雷雪を吹き或は渟渓碧を凝らし峰影之が爲めに或は碎け或は全し

小樽

（小樽）は後志國の北海岸小樽灣内にあり函館に亞ぐ要港にして其箱館港に於けるは恰も東京の横濱に於けるが如き關係あり鐵道は北方手宮を起點とし札幌を過ぎて幌内に至り二脈に分れ一は郁春別の炭山に至り他は幌内炭山に達す

釧路

（釧路）は釧路川の河口にあり此地より船にて釧路湖に至るを得べし湖は阿寒湖と共に北方山中にありて頗る山水の景に富むといふ又釧路には硫黄山と標茶を

水山を妬んで其影を亂す如し屈智林に至る溪稍開く、小村あり一橋を過く、是より溪北を行く聞く者は益聞く數十里古城正行寺に詣る寺主舍公は余の故人なり余を待つ事既に久し余先づ詫げて曰く、君が州の山水大に奇ありと、舍公曰く、更に奇なる者あり余をして之を目せしめんと居る事二日余公と南行す、田勝の間を行き仙人巖連接する鐵道ありて硫黄の運搬に便にす

根室

根室は極東地方の都會にして根室灣口にあり辨天島其前に横はり千島諸島に渡る要津にして辨天島には燈臺の設けあり海上を安全にす又道廳の支廳を爰に設く

厚岸は根室の西南に當る一市場にして厚岸灣内にあり大黒島其前に横はり風波を拒ぐ此地蝦産を以て名あり又大黒島には燈臺の設けありて航海に便にす

天鹽

（天鹽）は國の北部天鹽川の河口にあり鰊の漁業盛んな

に至る巖石山頂に突立す舍公指して余に示す余甚だ賞せず寺前の逆旅に宿し燈を挑げて談ず余曰く山は水を得されば生動せず石は樹を得ざれば蒼潤あらず、余が馬溪を賞して仙巖を賞せざる所以、羅淡に至つては人工のみ、然れば馬溪の支裔あり、且馬溪は溪山相迫り田塍の目を礙ふるなし、而して其路坦夷、眞に遊ぶべきなり、然れ

り天鹽川の流域は頗る廣く多く農産物を産す河流濁流殊に甚しといふ增毛も天鹽に在り石狩の國境に近き良港にして小樽との交通甚だ頻繁あり又十勝の大津は昆布の採取盛んなりと云ふ

(宗谷)は本島の最北にありて一葦水を隔て魯領樺太島を望むべく咽喉の地たり

千島諸島

本島に屬する者は千島群島及び其他十二の諸島あり千島群島は根室の東北に羅列する三十二の島嶼より成る就中其大なるものは國後島色丹島擇捉島新知島捨子古丹島恩稱古丹島幌莚島占守等とす占守島は最北に在り地勢平夷にして池沼に富み又良港に富む曾

ども二疊の通道となつて過ぐる者慣看す、況んや公等此土に成長す、宜なり其奇を覺えざるや、余は再遊期すべからず將に復た之を翹り以て之を諦觀せんとすと、舍公袂を奮ひ與に偕に早發す、一水を過ぎ北して馬溪の口に出つれば峰容樹色忽ち廻り別るゝを覺ゆ淺より深に入り、平より奇に入る前數曲の者を折れば一曲は一曲より

て郡司大尉の報公義會員數十人あり一意開墾に從事せり此等諸島の面積は四國と畧同一にして近海霧深く風波常に高く海岸は斷崖多くして船舶を寄するに便あらずといふ

北海道は國の最北に位するを以て寒氣强く殊に北部は河海共に氷を結び盛暑と雖も恰も西南地方の仲春の如し極暑三十度極寒凡零下二十度あり而して北部と南部とは極寒に於て三十度の差あり

物産の著名なるは海産物は鯡鮭昆布にして膃肭臍は本道特有の産なり鑛物は現今硫黃石炭の二種のみ

本道は中央に峻嶺重疊するを以て交通困難ありと雖も四周の地は道路稍開け又鐵道も已に中央を貫通し

奇なり、諸を前遊に比すれは更に喜ぶべきなり、復た絶壁下の孤店に至る店主余が面を識り驚いて曰く是前に猪を喫うたる客あり、何の幹あつてか再び此に來るや、余曰く、山を看んと欲するのみ曰く山に何の好看か有る、吾は子の看るを禁せざるなりと遂に溪畔に席して舍公と瓢を傾け一醉す、山寺に酌す、明くれば雨あり轎を假り西

稍々便利あり道路は皆海岸を繞て諸方に通ず其内青森より輕津海峽を渡りて函館に至り夫れより北方森港に至り噴火灣を渡りて室蘭港に至り海岸に沿ふて苫小牧に至り北進して札幌に至る者之を札幌街道とす而して苫少牧より海岸に沿ふて歌別に出で襟裳崎を横斷して猿留に出で又海岸に沿ふて十勝國大津に出で釧路を經て苫多に至て厚岸灣を渡りて根室に至るものを根室街道といふ其他海岸のみならず内地に通ずる者數多あり

臺灣

臺灣は支那海上の一大島にして東北は琉球を控へ西南は支那の福州に對し南方はフイリツピン諸島と相

に遊る、山峰雨を得て皆變幻態をなす或は前に以て一山と爲せるものは、分れて數峰と成り群仙の肩を駢べて其半身を露はし、萬松の髮を振ひ雲中に皷舞するが如し、又二十五菩薩の樂を奏して至るが如し還つて屈智林に至る、舍公吾が酒の盡くるを虛り、豫め家僮を戒めて、樽を馬に駄し來らしむ醉を取り阿保村に宿し翌寺に歸る又

對す山脈は本島の中部より南部に著しく連亘し地勢は南北に長く東西に狹し北部は數多の高山錯雜して蜿蜒(起伏)す東岸は斷崖をなして海に入り近海は非常に深し西岸は淺くして良港に乏し河流は大なるもの少く多くは溪流の類なり而して海上は浪暴くして航行危險なり

臺灣は久しく未開人民の住居せし地なりしが其初めて支那に知られたるは明の世にして明の鄭成功(國姓爺)此地に據りたり後康熙年間清國の領地となり明治二十八年日清戰爭の和約成りて我邦の版圖に入れり臺灣の住民には生蕃熟蕃の二種あり生蕃は東部の深山幽谷に棲息し全く野蠻の民にして産業を知らず性殘忍殺伐を好み鹿を狩り魚を捉へて生を營み僅かに

三日にして辭し去り、海を踰えて東歸し、海雲中より鎮西の山岳を顧望すれば其豐前に屬する者は皆別態あり、彥山は其尤も大なる者、耶馬山脈水理蓋し皆彥山より發す、故に獨り絕するのみ余が足跡殆んど海内に半ず弱冠なるとき東遊して妙義山を得、以て無雙となす今馬溪百里妙義の如き者幾十峰なるを知らず、之を海内第一と云ふ、或は誣ひざるあり巳卯の臘槀を晒さ、爾時山を寫し粉本數紙を得、戲れに意を以て之を接屬し、横長一卷となす、又其由を記し併せて得る所の詩九首を錄す余が詩文筆拙、其髣髴を狀するに足らず況んや畫をや、後能者董巨倪黃の流の如きもの有りて、其境を踏み而して之を補成せば庶幾くは此山水に負かざらん、然れども此山水目し

臺灣

北部地方

農を務む熟蕃は平野に住する蠻民にして頗る勤勉愚直なり常に兵器を有すれども防禦の爲にして頭顱を得んことを希はず永く支那人の下に在りてその感化を受け現今は舊套を脫し稍文化を知るに至れり

臺灣は地勢に依りて自然に東西南北の四部に區分せらる即ち北部に屬するものは臺北淡水苗栗宜蘭基隆にして南部に屬するものは臺南安平鳳山恒春澎湖なり而して臺灣彰化嘉義雲林埔里社は西部に屬し臺東は東部に屬す

北部は山岳丘陵多く淡水河其内部を流れて數多の支流を南北に出し其流域は稍廣濶なる沃野をなす

（臺北府）は北部の大都會にして四面山を繞らし淡水河の來り流るゝありて殆んど我西京に似たり南方は新店大姑陷兩河の流域にして沃野曠く開け北西に大屯觀音の諸山を望む府城は劉銘傳の築く所にして周圍皆石壁を繞らし要害頗る堅固なり市街は廣大にして所々に噴水を設く現今我總督府の所在地にして我國民最も多く住居し臺灣鐵道は此地を基礎として東西に走り交通便利なり

臨み商業頗る繁盛にして巨商多し又龍山寺ありて修觀頗る名あり大稻埕は一に新街と稱し新店大姑陷兩河合流の地にありて商店櫛比し殊に製茶の業盛んなり

て海内第一となす者は乃ち頼子成より始まる圖は舎公の取去るが爲めにす備後の故友橋元吉も亦山水を好み爲めに一本を寫さん事を請ふ諾して未だ果さず今茲巳丑冉を護して尾道に至り留まる旬日乃ち前約を踐む而して舊圖在らず之れを胸臆に尋ね冥想默運し山情水神の或は來り我を助くるを覺ゑ遂に此を成す指を屈すれば既に十二年なり憶ふに當時歸帆の外に豐山依々として相送るが如きもの今猶目中に在るあり

鶯と河鹿

矢野龍溪

門を出れば紅塵万丈車馬喧闐なる都下に住まる身は時として故山の事を思ひ起しうらゝかなる春郊に鶯聲を聽き清陰なる溪流に河鹿の聲を聽き飽くを容るべしと雖も市街繁盛あらず近傍に浴泉湧出するといふ此地は生蕃と境を接し屢ばろの襲擊に遇ふことあり

○鶯と河鹿

(淡水港)は一に滬尾と稱し臺北府の北西五里淡水河口の東岸に在り山を負ひ河に臨み北方遠く海上を眺め風景佳絶あり此地は開港場なりと雖も港口に沙洲あり滿潮の時にあらざれば大船を通ずること能はず茶は重に此港より輸出す

(基隆港)は淡水港より陸路十二里の處に在りて山嶽連亘して其三方を圍み北は海に面せり港内狹小なれども大船を容るゝに足るべき臺灣唯一の港にして船舶の出入多し此港より重に石炭を輸出す淡水基隆は清佛戰爭にて有名の地たり

(宜蘭)は臺北の東南三十里許一大沃野の中に在りて周圍土壁を繞らし熟蕃の多く住居する所あり蘇澳は宜蘭を距る七里東南の海岸に在り港内水深くして數艦

(新竹)はもと竹塹といひ明治十一年初めて縣を置く近傍の港は用ふべきものなかりしが鐵道の開けてより運輸の便を得たり此の鐵道は劉銘傳の起す所にして臺北より新竹を經て香山港に通じ北東基隆に達す然れども規摸小に構造不完全なりしが我が版圖に歸するに及んで改良を加へ大に本島に便利を與ふるに至れり

(大姑陷)は新竹と臺北との間にあり西南山中の一都會にして大姑陷河の上流に位す此地は生蕃と境を接するを以て防備頗る嚴なり苗栗は北部山中の一大邑に

ほゞに聽得たり聊かの間斷こそあれ東京を出で我縣に着せし以來六十餘日間驚かざれば河鹿而白き啼音を聽かぬ日とてはなかりき

大分町より直入郡竹田町に至る道は總て山間あり四山春樹の中には鶯聲たへず又た道路多く溪流に沿ひ山を上下するが故に至る所河鹿の聲なきはなし又竹田より大野郡市場して南隅に位し後龍河の上流に在り此地生蕃と境を接し守備兵を駐めて生蕃に備ふ樟樹の採伐頗る盛なり

西部地方

西部は大甲溪以南臺南に亘る一帶の地にして東はモリソン山脈によりて東部生蕃に境を接し雲林埔里地方は山岳丘陵相接し彰化嘉義に亘る一帶の地は沃野平原にして田圃大に開け農業盛んあり

新高山　は本島南部に於ける高山にして其最高峰モリソンの如きは實に一万二千八百五十尺なり此山は我領土に歸してより　至尊より新高山の名を命じ玉へり山頂は常に雪を戴き蒼鬱たる森林之を擁護して其腰を周り海上遠く之れを望む時は奇幻百態鋸山の稱あり其壯觀實に東洋に冠たりといふ

臺灣

市場より南海部郡佐伯も亦皆同じ林間には櫻花發し野山には若草早蕨抬萠出てたり菫菫の野花が時得顔に咲出でたる野路を山駕籠にて穏かに搖られ進み行くうと〳〵と眠を催す耳にホウ法華經の聲するは得も言はれぬ心地ぞする轉じて溪陰に入れば曉々たる河鹿の聲す未だ若鮎の時節にて大なる魚ころ見えぬ水晶の如く

○鶯と河鹿

(臺灣府)は殆んど全島の中央に位し前日支那政府は此の地を以て中央政府の地とおさんとせしが現今は人煙甚だ稀疎なり

(彰化)は西部の大都會にして縣城は石壁を以て繞らせり嘉義は彰化と臺南との中間に位する縣城にして亦石壁を以て周圍を繞らせり

(埔里社)は彰化の東方山中にありて支那人及び熟蕃此處に住居し十數餘の村落ありて埔里廳此處に在り埔里社の南に水社あり小村落にして龍湖に望む

龍湖　は水社蕃にありて南北一里餘東西半里許周圍は鬱蒼たる森林を以て覆はれ二千三百餘尺の高

○新高山　○龍湖

透明なる溪川の淺瀨にはハエ抔の小魚躍れり用事を兼ねし旅行おがら旅行には好時節おりき

（中畧）

玖珠日田の路は何れも山路にして溪流に沿ひ山中の地勢甚だ高きを以て暖氣晩しと見え途上も絶へず晩鶯の囀ずるを聞きしかば下の口吟あり「峰巒起伏路斜傾、時覺亂雲脚下生、五月溪深春未去、山程十里地に在り西側に流出の口あり又湖中に一島あり頗る山水の景に富む劉銘傳嘗て此島中に別墅を設けしことあり

（鹿港）は彰化の西海岸にありて支那福建省の泉州に對し大陸に至る最近の港にして貨物集散の盛んなる西部商業の中心たり支那船常に輻輳す笨港も支那船常に出入し商業頗る盛んなりと雖も北風の起るに及んでは之を避くること能はず

西部の海岸は平野沙丘相連なるを以て道路稍通ずと雖も山地は全く道路なし而して此地は大河の通ずること多く河に橋を架することなしと雖も常に乾涸せるを以て河道を通行し或は水少きを以て徒歩するを得べし然れども雨季に際しては河水暴溢して交通全く止む沿岸は遠淺にして大船往來すること能はず

南部地方

南部地方は臺南府以北より南岬の間を云ふものにして東北に山嶽丘陵多く下淡水河の流域は稍沃野をなし廣濶なりと雖も臺南々岬に至るの間は丘陵海濱に起伏す

（臺南府）は古臺灣第一の大都會にして鄭氏の都を定めしより永く中央政府の在りし處なりしが今は我總督府の臺北に置かるゝに及び第二に位せり府城は石壁を繞らし市街長方形をなして周廻二里許に亘り家屋壯麗街道皆石を敷く商業頗る盛にして南部の中心たり

鵝鑾聲「我縣を去て西京に至れば又た鴨河にて頻に河鹿の啼く聲す聞く本年は河鹿の鳴くこと例より甚だ早しと蓋し春來雨勝ちにて水多きに因るならん河鹿は蛙の一種にして其聲清曉おり絶て尋常の蛙聲に似ず三都の好事家は深山より捕來て水鉢に入れ其聲を愛し聽く者多し形は尋常の蛙に似たれども色黑くして頸より腹

○鵝鑾と河鹿

に輪の如き黄色の紋あり

東北地方にては河鹿と稱する一種の小魚溪間に產するものあり味甚だ佳あり然れども上記する者とは同名異物あり騷客の愛し聽は即ち蛙の種に屬するものとす

餘り鶯聲を聽慣れて後には囀調の巧拙を解剖するに至れり細かに聽けば囀聲の前短くして後長きものあり後長くして前短きものあり聲の高低曲の長短皆同じからざるは奇と云ふべし蓋し春鶯の囀ずるは雌を求むるが爲あり囀聲の巧拙雌の心に幾分の好惡を生ずるものと見ゆ斯く動物學風に解剖して看察すれば稍や風流氣も減するに似たり唯だ鶯聲は鶯聲として聽くべきものの歟

嵐山に花を見る記

○嵐山に花を見る記

（安平港）は臺南の西南に接し臺南の港口をなし繁盛なる開港場なり砂糖樟腦の盛んなる輸出港にして阿片綿布毛布の類は亦盛んに此港に輸入せらる打狗は臺南の南十里サラセン頭の內部に在り盛んなる開港場にして砂糖を輸出せしが近來港底漸く淺く大船を容るゝこと能はざるに至り現今漸々衰微に趣けり

（鳳山）は打狗の東北に在る都會にして二條の新路を以て蕃地卑南に通ず市は土壁を繞らせり

（恒春）は本島の極南の地に在り山岳重疊して田野少し蕃民所々に棲息し殘忍慓悍なる牡丹社の如き實に此地方に住す南岬の近海は暗礁列をなし海流急激にして暴風常に起るを以て燈臺を設け海上を警戒せり西南岸の娘嬌には支那人多く居住せり

南部の地は全島中夙に開け道路の如きも稍々通ぜりと雖も未だ完全と云ふべからず本島の旅行は一般に轎子を用ゆ即ち我國の「カゴ」に類するものあり

東部地方

東部地方は總て山嶽重疊し生蕃の棲息する所あるを以て地理全く明かならずと雖も大河なく良港なく道路なく都會なきは既に知る所あり

水尾は南部に臺東州の所在地なり卑南は南十五里の海岸に在りて四十六蕃社を有し鳳山に通ずる道路二條ありと云ふ

澎湖諸島

花は櫻、櫻多かる山に松あゞ交りて色とりわけあらむやうなるか一しほ見所あり、友達四五人ばかり、一とせ嵐山の花見に行し事あり、けふぞさかりあらんと覺ゆる程にて忽散あるに渡月橋のこなたを川ろひに水上の方へゆく、風のちと吹暴るに雪かとばかり亂るゝ花の戸無瀬の瀧の岩浪にやがてまがひ行

澎湖諸島は支那大陸と臺灣島との中間に位し地勢概ね平坦にして河水と稱すべきものあし此島は五十五の島嶼より成り澎湖漁翁白沙の三大島鼎立して内に澎湖港を抱く臺灣及び清國の厦門に對し咽喉の地たるを以て古來支那沿海の地若くは臺灣に事ある毎に澎湖諸島は常にその爭地たり日清の役我一枝隊又此地を占領せしことあり

澎湖本島は頗る凸凹に富み馬公灣島内に深入せり宮城は馬公灣の北口にあり諸島の首府にして澎湖廳此處にあり

（氣候物産）臺灣の氣候は南部は炎熱にして温和ならず北部は氣候變り易くして稍寒冷あり澎湖諸島も概ね臺灣に同じ物産の著名なるものは樟腦砂糖茶甘藷竹

など、言ひしらすをかし、中野三郎と云へる人、川中の大きやかなる巖に腰打かけて笛高やかに吹ならしたるが、水音に戀きあひてをかしきに側へに有りつる法師春而白く聞ゆるはと打すしたりしとぞ、折柄をかしう覺えしか、此法師何國の人ありけむ、心にくき氣色なりつるを物をだにいはでやがて行別つるも口惜き事あり

○嵐山に花を見る記

筍落花生等にして米麥最も名高く稻作は一年に二回若くは三回の收獲ありといふ

漁業は西岸沿岸の地に行はれ石炭は北部より出で石油井は淡水の東北にあり金は基隆河上流の山中より出で硫黄は北部の消火山に產す

平野には茶米甘藷の類肥料を用ひずして善く生育し動物には鹿兎野猪等多く豚鷄は家毎に飼養す又臺南近傍には石牡蠣の種育場あり

第三編　結論（人文地理）

（政治）我國は万世一系の天皇上に在ましして國の統治權を總攬し給ふその政体は東洋唯一の立憲君主制あり

行政の事務は國務大臣輔弼の任に當り立法は帝國議會の協贊を經て成り司法權は天皇陛下の名にて裁判所之れを行ふ立法部は帝國議會と稱し貴族院衆議院の二より成りその議員は各三百人を限る總て法律は此両院の協贊を要するものなり行政部は上に内閣あり内閣總理大臣及び其他の各國務大臣を以て組織す其下に外務内務大藏陸軍海軍司法文部農商務遞信の九省あり各省長官は即ち大臣なり樞密院は天皇陛下の最高顧問府にして又宮内省は帝室の事を承る

地方行政は道廳に長官府縣に知事を置き部内の政務を行はしむ司法部は裁判所にして區裁判所地方裁判所控訴院及び大審院の四等より成る又臺灣には特別の政治を布き臺灣總督府を置き地方には縣廳支廳あ

霧島山

安積艮齋

霧島山は日向の州に在り高さ四十里周廻三百六十里相傳ふ鴻荒の始冊諸二神天橋より遂に降臨す因て以て名づくと其鋒今に至て山頂に倒立す世之を天倒鉾と謂ふ蹟に神聖の靈跡遂古の遺器也但だ峰巒崇峻岩谷深阻風火雷電の異多く登者往々所在を失ふ故に能く其巔を極め而して所謂倒鉾を觀る者少し矣南溪西州に遊んで鹿島に抵る因て登り觀んと欲す焉然れども膂力ある者に非れば偕にす可からず會ま一少年結伴を乞ふ意氣甚だ壯とす可し乃ち仲冬初八を以て發す大抵日薩隅の三州は南海に瀕し氣候温暖嚴冬と雖も氷雪を見ず是歳最も暖惟だ一綿衣を御す水陸を經

りて縣知事或は支廳長を置く

(政治區劃)又政治上の便を謀り全國を區分して道廳府縣とす現今は一道廳三府四十三縣あり又別に臺灣總督府あり

道廳府縣所在地

北海道廳	札幌(石狩)	東京府	東京(武藏)
京都府	京都(山城)	大坂府	大坂(攝津)
神奈川縣	横濱(武藏)	兵庫縣	神戸(攝津)
長崎縣	長崎(肥前)	新潟縣	新潟(越後)
埼玉縣	浦和(武藏)	群馬縣	前橋(上野)
千葉縣	千葉(下總)	茨城縣	水戸(常陸)
栃木縣	宇都宮(下野)	奈良縣	奈良(大和)

ること二日始めて山下に達す陟ること八里許り廟有り甚だ宏麗あり晩に祝史の家に投し詰朝嚮導を倩ふて俱に登る喬木天を摩し陰翳晦く惟だ導者の迹を踐んで而して進む直上十五里蕭然草樹無く四望空濶三州の諸山環拱起伏すること翠浪の如く遙に海水汪洋の中孤峯突起儼然琉璃盤上の一點螺なるを見るや道者云ふ是れ薩の櫻島也と又登ること十五里山益す峻燒石大サ栗の如き者路上に撒布す天忽ち晦冥暴風沙を揚げ怪雨雲々谷底より倒捲して而して上り覺へず毛髮森竪又登ること八九里路稍夷かに而して左は則ち絶壑万仞雲烟密布亂として其底を見ず右も又峻谷數十丈中間人を通ずる處馬蹞の上を行く如く馬背越と曰ふ稍進む燒石歩

三重縣	津（伊勢）	愛知縣	名古屋（尾張）	福岡縣	福岡（筑前）
靜岡縣	靜岡（駿河）	山梨縣	甲府（甲斐）	佐賀縣	佐賀（肥前）
滋賀縣	大津（近江）	岐阜縣	岐阜（美濃）	宮崎縣	宮崎（日向）
長野縣	長野（信濃）	宮城縣	仙臺（陸前）	大分縣	大分（豐後）
福島縣	福島（岩代）	岩手縣	盛岡（陸中）	熊本縣	熊本（肥後）
青森縣	青森（陸奥）	山形縣	山形（羽前）	鹿兒島縣	鹿兒島（薩摩）
秋田縣	秋田（羽後）	福井縣	福井（越前）		
石川縣	金澤（加賀）	富山縣	富山（越中）		
鳥取縣	鳥取（因幡）	島根縣	松江（出雲）		
岡山縣	岡山（備前）	廣島縣	廣島（安藝）		
山口縣	山口（周防）	和歌山縣	和歌山（紀伊）		
德島縣	德島（阿波）	香川縣	高松（讃岐）		
愛媛縣	松山（伊豫）	高知縣	高知（土佐）		

（軍備）我國の陸海軍は大元帥陛下の統御し給ふ所にして全國皆兵の制なり陸軍は適齡の壯丁を全國より徵集し海軍は沿岸地方及び島嶼の壯丁より抽選す全國を六師管に區分し各管毎に師團を設置し更に之れを十二旅管に別ち各管毎に旅團を設け各旅團又之れを四大隊區に分てり而して東京仙臺名古屋大坂廣島熊本等に本營を設け又別に近衛兵と憲兵とあり又要島には警備隊あり

又海軍は全國の海岸海面を五海軍區に別ち横須賀吳佐世保舞鶴室蘭の軍港に各鎮守府を置き海兵團之れ

に隨つて崩下し整々聲有り須臾にして猛火炎燄谷中に發し雷電殷轟山鳴り谷應へ醒臭の氣鼻を撲ち或は玄雲澄澄の如く澎湃地を匝り咫尺辨せず往來翕雀乍ち聚り乍ち散じ鬼神佛陀諸靈巽の狀を作し或は白虹一衝脚底よりして起り直ちに天半に上り或は光怪閃爍天地變して黃金色を爲す步武にして變幻方物す可からず蓋し硫黃芒硝の氣谷中に鬱積し陽火自ら燃え陰氣之に應じ爆然震激種々の變怪を現する爾時に畏る可きは横風時に來り勢奔馬の如く稍愼しまざれば則ち捲き去る所と爲り頓に火坑の鬼と爲る所謂登る者の所在を失ふ皆是物也導者切に警戒を加ふ風至る毎に即ち全身地に俯せと既に過ぎて復た起きて行く是くの如き者數次心悸

に屬す

兵制は常備役後備役及び國民兵役に分ち日本帝國の臣民にして滿十七歳より滿四十歳までの男子は總べて兵役に服するの義務あり又常備兵を別ちて現役及び豫備役とす現役を終れば豫備役に服するものとす

(教育)は男女とも滿六年より十四年までを學齡とし之の間小學校に入りて修學すべき制なり學校の種類は小學校の外に中學校師範學校農學校商業學校工業學校山林學校水産學校商船學校醫學校陸海軍の學校其他美術學校音樂學校盲啞學校等ありて私立學校は枚舉に遑まあらず

(生業及物産)我國は古より瑞穗國と稱し國民は農業を以て基とし米穀の産額其主を占む養蠶製茶の業また各地に行はれ鑛業は石炭を以て第一とし金銀銅之れに次き又有名の山林多く良質の木材を産し工業は織物陶器漆器金屬とす

煙草は諸國に多く絹織物は西陣を第一とし陶器は有名田伊万里瀨戸九谷薩摩及清水七寶等有名にして漆器は會津能代等を有名とす銅器は越中高岡と京都最も名高く酒は攝津を第一とし醬油は下總の野田を有名とし味淋は流山を推す又紀伊は密柑に名高く甲斐は葡萄に名高し水産は世界第一と稱せられ其主なるものを擧ぐれば千島の臘虎腦納獸海豹北海近海の鯡鰮昆布その他河川の鮭鱒上總肥前の鰡紀伊土佐の鯨とす

内國の商業は東京と大坂を中心とおす内國向きの商

れ骨慄き阿鼻獄に入るかと疑ふ少年尤も震慄し五色主無く蹈歩も前むこと能はず導者曰く此子震慄是くの如し亟かに返らざれば禍測る可からず矣と遂に扶掖して而して下る僅に三里許り天氣晴朗なること初の如し相與に棄中の搏飯を探りて之を啖ふ少年色初めて定る南溪獨り咄々天鉾を觀ざるを以て至幸と爲す因て問ふ此れ從り絶頂に至るまで幾里ぞ曰く十里に過ぎずと南溪笑ふて曰く是れ到り難からず子年少と之を待て可也杖を投じて獨り往く馬背越に抵る天色俄かに變じ震電の發作激すること甚し備に辛難を歷遂に以て巔に達す果して物有り質鐵の如く大さ鉅竹の如く長さ丈餘地中に倒立す其鐵に鬼面の如き者を鏤む碧鏽沈蝕古色掬す可

品中貿買の大なるものは米にして清酒織物之れに次ぐ又外國の商業は横濱を第一とし神戸之につぎ長崎箱館大坂又之れに次ぐ外國向きの商品は生絲を第一とし茶米石炭銅之れに次ぐ其他陶器燈火樟腦海産物

開港場は横濱神戸長崎箱館新潟の五港と大坂の富島にして臺灣に安平打狗淡水基隆の四港あり又別に特別輸出港あり

(交通)道路は之れを國道縣道里道の三つに分ち幅員は其階級に從て廣狹あり鐵道は明治三年に東京横濱間の布設に着手し明治五年に竣功せしを始とし其の後官私の布設盛んあり幹線は東京より西馬關に達し東北青森に達す神戸馬關間を山陽鐵道と云ひ東京神戸

間を東海道鐵道といひ東京青森間を東北鐵道といふ其他支線の數甚だ多し又北海道四國九州臺灣にも既に布設したるものあり

電信は明治二年東京横濱の間に電線の架設したるに始まり爾來年を逐ふてその線路を延長す又電話機も近時漸く行はれその取扱所を各地に設立するに至れり外國電信は海底電線を以て壹岐對馬を經て朝鮮の釜山浦に達するものと長崎より支那上海と露領ウラヂヲストックに達するものとありて諸外國の電線に接續す又臺灣の海底電線は澎湖より臺南臺北を經て支那の福建省に通じ大陸に連絡す

全國の航路は從來大坂を中心とせしが現今は横濱を以て航路の中心とし内外各港へ定期の航海あり而し

し未だ其太古の遺器爲るを必す可からすと雖も而れども決して五百年來の物に非る也巔に堂宇無く草木無し徘徊四顧天朗かに日麗かに碧淡万里凡そ數州の山川城邑攢簇沓蹙靄靄の若く聚米の若く神氣浩然羽翼凌雲の懷有り但だ靈境久しく駐まるべからす急に來路を覓めて而して皈る馬背越を過ぎて數百歩遙に導者の少年

て大坂は唯だ瀬戸内海に於ける航路の一中心に過ぎす

と地坐して偶語するを見る長さ僅に寸餘畫中に覩る所の如し既にして至る曾欣幸して手を額に加ひ相扶けて山を下る大都天下の名山木を刊りて道を通するは役小角釋泰澄より始まる故に緇流の占據する所と爲り梵唄の聲相屬す獨り此山諾冊二神を以て開山の祖と爲す眞に天下の靈境也哉山中に奇樹異草水精の屬多く大池

○霧島山

五十餘池畔に蟒蛇多く人語を聞けば輙ち出でゝ之を噬む樵夫と雖も畏れて而して敢て過ぎらず野馬多し形極めて詭異鬚髯長く地に委し大蝦蟇大蜘蛛多し

紀行文終

明治三十二年十二月廿五日印刷
明治三十二年一月十五日發行

著者　谷口政德　東京市日本橋區本石町二丁目十六番地
發行　田平義三郎　東京市神田區美土代町三丁目六番地
印刷所　楠磯太郎　東京市日本橋區本石町二丁目十六番地
發行所　上田屋書店